

2020 年度
年 報

Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

目次

I 年度事業計画

1. 2020年度重点事業	1
2. 中期計画・年度計画	3

II 組織・運営

1. 2020年度 教員一覧	11
2. 2020年度 職員一覧	12
3. 運営組織	13
4. 内部質保証	14
1) 今年度の取り組み	
2) 2020年度目標の達成状況	
3) 新型コロナウイルス感染	
4) 評価体制図	
5) 内部質保証システム体系図	
5. 大学運営	18
1) 今年度の取り組み	
2) 経営会議の主な活動	
3) 新型コロナ感染拡大への対応	
4) 大学運営委員会組織および委員一覧	
5) 大学運営関係委員会 2020年度活動報告	
6) アドミッションオフィス	
7) 外部資金獲得状況	
6. 学部運営	31
1) 今年度の取り組み	
2) 学部委員会組織および委員一覧	
3) 教授会	
4) 学部委員会の活動報告	
7. 研究科運営	43
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 研究科委員会組織および委員一覧	
4) 研究科委員会	
5) 大学院委員会の活動報告	

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム	49
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2020年度 実習施設一覧	
7) 選択科目受講者数	
8) 他大学との単位互換の状況	

2. 学生の受け入れ	62
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	64
1) 在籍学生数	
2) チューター制度	
3) オフィスアワー制度	
4) 特待生制度	
5) 奨学金制度（2020年度奨学生数）	
6) 自治会活動支援	
7) 国家試験支援体制・状況	
8) 国家試験合格状況一覧	
9) キャリア支援体制・状況	
10) 就職・進路状況一覧（2020年度卒業生）	
11) 2020年度学生相談利用状況一覧	
12) 学生生活調査結果	
13) 後援会との連携	
14) 同窓会との連携	

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム	72
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2020年度 実習施設一覧	
7) 研究指導教員一覧	
8) 研究指導関係スケジュール	
9) 学位論文審査基準	
10) 2020年度 修士論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	81
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
4) 科目等履修生	
5) 履修証明プログラム	
6) 研究生	
3. 学生支援	83
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 専門看護師（CNS）・認定看護管理者の資格取得状況一覧	
6) 修士論文投稿状況一覧	
7) 学生生活調査結果	

V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム	85
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) 研究指導教員一覧	
6) 研究指導関係スケジュール	
7) 学位論文審査基準	
8) 博士学位論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	89
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	90
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 博士論文等投稿状況一覧	

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織	91
2. 地域連携委員会活動報告	91
3. プラットフォーム	92
1) プラットフォーム活動概要	

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織	96
1) 図書館課	
2. 情報管理・図書委員会活動報告	96
3. 学術情報センター・図書館主催活動実績	97
1) CINAHL 検索講習会	
2) 科学研究費助成事業レビュー取次	
3) 助成金募集リスト	
4) 学術情報リポジトリ公開	
4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料	97
5. 年間購読雑誌	97
6. 電子ジャーナル	97
1) 電子ジャーナル一覧	
7. 利用者数	98
1) 入館者数	
2) 利用者・資料別年間貸出統計	
3) 施設・備品利用件数	
4) 電子ブック閲覧数	
8. 文献複写サービス	98

VIII 国際交流

- 1. MOUに基づく交流 99
- 2. 英国語学研修プログラム 99

IX 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

- 1. 新型コロナウイルス感染予防対策本部 100
 - 1) 組織
 - 2) 基本方針

X 教員研究業績・社会活動一覧 102

I 年度事業計画

1. 2020 年度重点事業

事業名	基幹ネットワーク更新
中期計画 事業項目名	Ⅳ. 教育研究等環境整備 1. 教育研究等環境整備の方針
事業目的	学内ネットワーク設備更新のため
取組内容 目標	現在稼働中のネットワーク機器はすでにメーカー保証期間を終えたものとなっており、障害発生時の迅速な復旧が難しい状況である。大学運営において情報発信・教育・事務業務全般にかかるネットワークの常時稼働は必須であり、現状が危うい状態であることは言うまでもない。このことから、早急なネットワーク機器の更新が急務となっている。 同時に、対応が求められる Wi-Fi 環境の整備を行い設備の充実を図る。
事業期間	2020 年 8 月～ 9 月
予算概算	34,100 千円
達成状況	ネットワーク機器の更新及び Wi-Fi 環境整備を実施し、学内におけるネットワーク環境が向上した。特に Wi-Fi 環境を整備したことにより、学習環境が大幅に向上した。

事業名	コージェネレーションシステム導入
中期計画 事業項目名	Ⅳ. 教育研究等環境整備 1. 教育研究等環境整備の方針
事業目的	燃料電池設備更新のため
取組内容 目標	燃料電池設備は運用開始後 15 年以上経過し、各機器の耐用年数を迎えている。継続して使用することはメーカーの見解としても難しいとされているため、新たな熱源システムへの更新が必要である。コージェネレーションシステムを導入することで、メンテナンスコストの低減や省エネ効果が期待される。また、排熱の利用も合わせて検討し導入する。
事業期間	2020 年 11 月頃
予算概算	135,000 千円
達成状況	燃料電池設備からコージェネレーションシステムへ 12 月 28 日に更新整備が完了した。「災害時における生活環境に資する天然ガス利用設備導入支援事業」として一般社団法人都市ガス振興センターより補助金の交付を受けた。

事業名	新サテライトキャンパス開設
中期計画 事業項目名	Ⅲ. 教育課程・学修成果等 3. 質の高い教育の実践 Ⅳ. 教育研究等環境整備 1. 教育研究等環境整備の方針
事業目的	新サテライトキャンパス開設における物品等の整備及び移転作業のため
取組内容 目標	新サテライトキャンパス開設に向け、授業が実施できる環境を整備する。 ・白壁サテライトキャンパスからの移設作業 ・講義室や情報処理室等の机、椅子、ノートパソコン、プロジェクター等の整備
事業期間	2020 年 7 月～ 9 月
予算概算	4,318 千円
達成状況	名古屋第二赤十字病院構内の日赤愛知災害管理センター棟地下 1 階の部分に新サテライトキャンパスを移設した(面積 160.64m ²)。9 月 1 日より開設し、文部科学省へ校地・校舎等変更届を 10 月に申請した。

事業名	学務システム（メソフィア）更新及び機能追加
中期計画 事業項目名	IV. 教育研究等環境整備 1. 教育研究等環境整備の方針
事業目的	更新によるセキュリティの向上（スマートフォンやタブレットでの利用）及び機能追加することによる教職員の業務効率化を図るため
取組内容 目標	更新機能 ・ 共通システム、入試支援システム、教務支援システム、Web ポータルシステム、学生支援システム、 学費管理システム、健康診断管理システム 追加機能 ・ 教務再試験該当学生への結果通知の自動化、教務チュータの情報 EXCEL 取込機能、 ポータル Web 履修システムの必修科目チェック機能、ポータルキャビネットの順序の入れ替え、 ポータル抗体価カードの電子化、全体 EXCEL ファイル取込をxlsxに対応
事業期間	2020年7月～2021年1月
予算概算	10,442千円
達成状況	更新及び機能追加したことにより、学生サービス（スマートフォンを使用した履修登録、講義スケジュール等）や教職員の作業効率（授業評価アンケート集計、履修登録自動チェック等）が向上した。

事業名	看護学部新教育課程の実施
中期計画 事業項目名	III. 教育課程・学修成果等 1. 全学的な教学マネジメントの確立
事業目的	看護学部において新教育課程を実施する。
取組内容 目標	(1) ディプロマポリシーとカリキュラムの整合性 (2) 修士課程教育との整合性 (3) 疾病・治療と看護のつながりを強化 (4) 地域における看護援助の推進を目指した在宅看護学に関する科目の新設 (5) 看護の技と知を統合する科目の見直しと新設 (6) 卒年要件の変更
事業期間	2020年4月～
予算概算	—
達成状況	4月から新教育課程を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、前期期間中は原則遠隔授業を実施した。後期は、感染状況を見ながら学生の登校を週2～3日程度とし、演習・学内実習は対面式で実施した。

2. 中期計画・年度計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
内部質保証・教育研究組織	1. 内部質保証 定期的な点検・評価	教育の質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR委員会	総務課 学務課	外部評価や授業評価等のPDCAサイクルを循環させることで、内部質保証システムの運用・展開を図る。外部評価として、「参加会」及び「中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会」から評価を受ける。	1. 評価体制図に基づく、PDCAサイクルの円滑な実施	第2回教育改善学生委員会を令和3年3月18日（木）に実施した。参加会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会の意見・助言を受けて、改善内容を確認した。	達成継続
				看護学分野認証評価の受審について検討する。	2. 令和3年度以降の看護分野認証評価の受審時期を決定する。	看護分野（外部評価）を11月26日（木）での意見を参考に、教育の質保証委員会にてディプロマサプリメントの様式を確定し、令和3年度からの発行に向けて、調整を進めている。	達成継続
				内部評価として、中期計画・年度計画に基づく自己点検評価を四半期ごとに実施する。	3. 年報の作成	令和2年度の年報から、構成を大学基準協会の評価基準に則ったものに変更することとした。内容が大幅に変更となるため、3月下旬に執筆担当部署とのミーティングを行う。	達成継続
				学生による授業評価、ルーブリック評価の実施、教育改善に関する教育改善学生委員との意見交換の実施等を行い、教育改善に反映させる。	4. 自己点検・評価委員会において、学生評価や教育改善学生委員との意見交換を行い、教育改善に反映させる。	学生・院生アンケートの内容を見直し、アンケートを実施し、集計を行っている。	一部達成継続
					5. 大学として必要なデータの確定と蓄積	メソフィアで実施した後期分の授業評価について集計作業をおこなっている。	達成継続
2. 教育研究組織	(1) ヘルスプロモーションセンター	経営会議 教授会・研究科委員会 教育の質保証委員会、自己点検・評価委員会	総務課 企画・地域交流課 学務課 図書館	平成29年度から、市民向けの公開講座に加えて、医療者向けの講座を開始した。講座への参加者数、教職員の休日出勤による負担等の両側面から活動を点検評価する。	教育研究組織の定期的な検証の継続	専門職向け研修会については、専門基礎、基礎看護学、看護管理学、精神看護学、外部講師に依頼した。また、公開講座については、精神看護学、老年看護学に依頼した。	一部達成継続
	(2) 学術情報センター・図書館			平成30年度に、図書館機能を拡大して設置した。ビジョンの「研究力向上」を目指し、研究支援体制の充実を図るものである。公開した論文数、科学研究費への応募数・採択率等から活動を点検評価する。	教育研究組織の定期的な検証の継続	卒業研究を始める新4年生を対象にメソフィア及び館内掲示で「医中誌検索」等のグループ向け、個人向け講習会の案内を行った。「医中誌 Web」のスマホ版新ID/PWの設定を行い、新学期には案内できるようにした。	一部達成継続
教育課程・学修成果	1. 全学的な教学マネジメント	教育の質保証委員会	学務課	教育の質保証委員会を責任主体として、ディプロマポリシー（学位授与方針）及びカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）の適切性について評価し改善する。また、内部評価として、授業評価、学生アンケート、教育改善学生委員からの評価について、教育の質保証委員会が改善を検討する。なお、外部評価については、経営会議を責任主体とするが、教学マネジメントに関する内容については、教育の質保証委員会が改善を検討する。	1. 教育課程の検証及び学位授与方針等について検討する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、演習科目以外の授業については遠隔システムを利用するなどして対応した。	達成継続
				大学院の改正された教育課程の適切性を検討する。	2. 大学院の改正された教育課程の適切性を検討する。	後期授業は引き続き新型コロナウイルス感染症拡大に配慮しながら対面授業を実施した。また次年度の授業実施計画を立てた。	達成継続
				授業評価アンケートについて検討する。	3. 授業評価アンケートについて検討する。	メソフィアで実施した後期分の授業評価について集計作業をおこなっている。	達成継続
				学長直下にIR委員会を設置し、ルーブリックを用いた学修成果調査等の結果を分析する。分析結果に基づき、教育の質保証委員会において改善を検討する。	4. ルーブリックを用いた学修成果調査の結果分析をする。	IR委員会にてルーブリックを用いた学修成果調査結果を分析している。	達成継続

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等						
教育課程 学修成果	2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	(1) 赤十字の理念に基づく教育の充実	赤十字教育・災害看護教育などの教育実践力の維持・向上	教務委員会 カリキュラムWG	学務課	カリキュラムの教養科目に「赤十字」を位置付け、専門科目に「災害看護学」を置き、赤十字の理念に基づく教育を実施する。	1. 明治村の日本赤十字社中央病院棟（現日本赤十字社医療センター）の見学を通して、日本赤十字社の歴史を学び、小集団活動で、赤十字の大学で看護学を学ぶ意義を考える。	本年度の開講実績をもとに、次年度の授業を計画した。	達成継続				
							2. 教育課程において赤十字の原則や国際人道法についての教育を行う。	次年度の赤十字原論の授業実施計画と立案した。	達成継続				
							3. 災害看護学に関する教育を実施する。	次年度の赤十字と活動の授業実施計画を立案した。	達成継続				
	(2) 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成	より広い地域で活躍する人材の育成	学生委員会	学務課	卒業生70%以上が赤十字病院への就職することを目指す。	令和2年度卒業生の70%以上が赤十字病院へ就職する。	次年度の集合形式の奨学金説明会は中止とし、映像資料等を提供いただき、学生へ届けることとした。	達成継続					
							(3) 赤十字ネットワークとの連携	国際交流委員会	総務課	海外の赤十字看護大学との交流協定締結に向けて、対象大学の拡大と交流の深化を促進する。	1. 英国語学研修については学生に対して希望者を募り派遣を決定する。	新型コロナウイルス感染症の拡大が広がる中で、現地に行くのではなく国内で国際体験を経験できるような方法を模索する。	※未達成継続
											2. タイ赤十字看護大学との交流を継続していく。（受入・派遣）	代替の方法（オンラインなど）を検討する。	一部達成継続
	3. 質の高い教育の実践	(1) 学部教育	①学生の学修活性化及び効果的な教育	教務委員会 カリキュラムWG	学務課	豊かな人間性を培い、正解のない問題に直面する社会の中で自ら判断して答えを導き出す能力を育てるため、専門科目を効果的に組合せた教育課程の編成に努める。	全科目のシラバスに時間外学習（学習・復習）、その他準備学習の内容を記載し、学生の主体的な学びの推進を図る。また、導入したアクティブラーニングスペースや機器類を効果的に活用して教育活動を進め、新カリキュラムの適切な運用を図る。	次年度のシラバスに時間外学習項目について具体的に記載し自主学習を促せるよう作成をすめた。	達成				
			②学生の学修成果の修得状況の把握・評価	IR委員会	学務課	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。	IR委員会において本年度実施した調査の総括をおこなった。	達成				
	(2) 大学院教育	①修士課程	大学院教務・学生委員会 カリキュラムWG 大学院研究科委員会	学務課	大学院修士課程の専門看護師コース（新教育課程38単位）（小児看護学領域、精神看護学領域）及び新たに設置した認定看護管理者コース（看護管理学領域）の教育の充実を図る。また、履修証明プログラムを新教育課程に合わせて改編し、文部科学省から職業実践力育成プログラム（BP）として認定された。令和2年度から受講生を受け入れ、適切に運用する。さらに、サテライトキャンパスを名古屋第二赤十字病院（日赤愛知災害管理センター）へ移転し、適切に運用する。	1. 修士課程の夜間・土曜開講、長期履修制度を継続する。	修士課程の夜間・土曜開講、長期履修制度を継続した。	達成継続					
						2. 専門看護師（小児・精神）38単位の教育課程を継続する。	小児CNSコースを開講した。	達成継続					
3. 認定看護管理者コースの教育課程を継続する。						認定看護管理者コースを開講した。	達成継続						
4. 看護教育・技術学領域に臨床指導者育成コースを設置する。						看護教育・技術学領域に臨床指導者育成コースの設置構想を検討している。	未達成継続						
5. 開講時間を短縮した履修証明プログラムを継続する。						修士課程（災害）の履修証明プログラム開設に向けて科目担当教員で準備を進めている。	達成継続						
6. サテライトキャンパスを名古屋第二赤十字病院日赤愛知災害管理センター内へ移転する。						新サテライトキャンパスにおいて修士課程の授業、学部の授業配信等を行った。	達成						
7. TV会議システム、スマート会議システムを用いた授業開講を開始する。						修士課程、博士課程の授業と会議において、テレビ会議システムとスマート会議システムを用いた。	達成継続						
②博士課程	大学院教務・学生委員会	学務課	共同看護学専攻博士後期課程における教育の質向上を図る。	1. 本学が責任校として赤十字学園5大学での共同看護学専攻の運営を継続する。	共同看護学専攻 学位審査規程の作成を検討した。	一部達成継続							
				2. 研究指導教員、科目担当教員を増やし、教育体制を強化する。	共同看護学専攻次年度のシラバス、時間割を作成した。	達成継続							

計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
3. 質の高い教育の実践	(3) 多様なメディア(ICT)を活用した教育		学務課	遠隔教育システム利用によるリアルタイムでの双方向の遠隔授業を検討する。また、スマート会議システムを大学院教育に活用して利便性を高くする。さらにアクティブラーニングを推進するため、動画配信システムやラーニングポッドを効果的に活用する。	1. 学生・教職員の学内情報通信環境の安定運用の推進を図り、クリックや動画配信システムを利用した講義を実施する。	講義科目についてはZoomにより遠隔で実施をしている。	達成 継続
				共同看護学専攻においては、赤十字の5大学が協働し、専門領域の垣根を越えてあらゆる看護現象に対してアプローチすることができる研究者・教育者・実践者など、看護の発展に寄与できる人材、ならびにそれぞれの地域において保健・医療・福祉の分野でリーダーとなる人材、国内外において人道的任務を果たすことのできる人材の育成を継続する。	2. 大学院教育にスマート会議システムを用いた授業を開始する。	大学院の講義について、スマート会議システムやZoomも活用しながら進めた。	達成
				②学内大学間における遠隔教育システムを活用した教育の推進	共同看護学専攻の授業において、遠隔授業システムを活用する。	共同看護学専攻5大学の事務局として5大学の時間割管理や遠隔授業システムの管理を行った。	達成 継続
	③他大学等との単位互換の促進	テレビ会議システムを利用した単位互換制度について学内本部とともに検討を進める。	修士課程の授業において、大学院間の単位互換を含め、遠隔授業システムを利用した授業の試行を検討する。	学内本部の学部長・研究科長会議において遠隔授業システムを用いた授業の単位互換等について検討を進めている。	一部達成 継続		
4. 優秀な学生の受け入れ(社会人を含む)	(1) 学生の受け入れ方針の適切な設定	アドミッションオフィス 入試・広報委員会・大学院入試・広報委員会	企画・地域交流課	アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)は既に設定したが、その適切性について継続的に検討する。	1. 指定校推薦制度を継続し、優秀な学生の確保に努める。	現在指定校を8校としているが、次年度に増やすかどうかを検討を行う。	達成 継続
					2. 大学入学共通テストの前期A、前期B及び後期試験を継続し、受験者への門戸を拡大する。	前年度と同様に前期A 6名、前期B 6名、後期 6名とした。	達成 継続
	(2) 学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定			大学入学者選抜改革の導入を見据えた入試方法について、継続的に検討する。	1. 適切な入学選抜制度を確立する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価については、「JAPANE-Portfolio」は利用せず、受験生自身の学校生活における活動履歴等の記録は、大学入学後の受ける大学教育、大学生活における参考資料として活用する。	令和4年度入試に向け、「主体性・多様性・協働性」については、点数化するかどうか、次年度に検討を行う。	達成 継続
				Web出願を導入する。	2. 一般入試に加え、推薦入試についてもWeb出願を実施する。	運営2年目となるが、特に問題なく稼働した。	達成
	(3) 入学定員及び収容定員の適切な管理			文部科学省の入学定員厳格化、愛知県内における看護学部増設、18歳人口の減少を踏まえ、入学定員を管理する。	1. 文部科学省による入学定員の厳格化及び設置等にかかる認可の基準から平均入学定員超過率が平成31年度以降1.15倍未満と定められていることから、本学では1.12倍の134名(入学定員120名)を確保する。	大学独自選抜受験者は221名うち合格者101名、大学入学共通テスト利用選抜(前期A)受験者は108名うち合格者30名、大学入学共通テスト利用選抜(前期B)受験者は85名うち合格者は24名となった。大学独自選抜については、最大歩留り60%を想定し、合格者を決定した。大学入学共通テスト利用選抜については、歩留り10%程度を想定している。	達成 継続
			大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を管理する。	2. 大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を確保する。	第2回大学院入学試験では、修士課程1名、博士課程4名の受験者であった。合否結果は、修士課程1名、博士課程3名となり、第1回と併せて修士課程3名、博士課程3名となり、修士課程については、定員を満たすことはできなかった。	未達成 継続	

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等			
教育課程 学修成果	5. 教員・教員組織	(1) 教員・教員組織編成	総務課	教員組織計画（平成29年度～令和元年度）に基づき適切に運用する。また、カリキュラム改正に伴う領域別の教員定数の妥当性と教員組織編成について継続的に検討する。さらに、教員の選考基準を明示し、公募により適任者を広く求める。	人事委員会及び経営会議での審議による適正な教員配置（領域別定数）の確立に向けた組織編成	令和3年度教員配置計画に基づき昇任の推薦を募ったところ、1名の推薦があったため、教員選考委員会を組織し審査を行った。	達成継続			
				(2) 教職員の資質向上（FD・SDの高度化）	FD・SD委員会	総務課	FD・SDマップを充実させて、企画を実施し、教学マネジメントに関する教職員の資質向上を図る。	1. 内外の専門研修・勉強会等に参加して教育力・事務能力の向上を図る。 2. FD・SDマップ実施計画に沿った運用を行い、教育力・研究力・マネジメントの向上を図る。	研修会の開催情報を収集し、適宜掲示等により研修会への参加者を募集した。 令和3年3月11日に「臨床が期待する学生像」をテーマにZoomにて研修会を実施した。また、「利益相反」「研究倫理」研修会に関しては、オンライン配信にて実施した。	達成継続 達成継続
							研究時間を含む研究環境を整備する。	3. 研究時間の確保についての改善に向けた検討及び研究環境の効果的な整備品の検討を始める。	実習時間の在り方についての検討は未実施。次年度予算にて整備する備品の検討を開始した。	未達成継続
	6. 学生支援	(1) 奨学生制度・特待生制度の適切な活用と外部支援の獲得	学生委員会	学務課	奨学生制度及び特待生制度を適切に活用する。（赤十字病院を中心とした奨学金制度を広報することにより、優秀な学生の確保に努める。また、本学独自の特待生制度の効果的な運用を図る。）	1. 全国の赤十字病院の奨学金制度について、広く在学生に周知し、学業継続困難者を支援する。 2. 本奨学生制度を利用する学生について資質、成績向上に向けて支援する。	在学生に対して、赤十字病院の奨学金制度を就職支援室等で周知をしている。 奨学金を受給している就職予定病院の行事等へ参加を促した。	達成継続 達成継続		
					3. 愛知県支部特別奨学金制度を有効活用し、学業継続困難者への支援につなげる。	2月20日（土）に次年度のC特別奨学生入学者に説明会を実施した。また、3月12日（金）にB特別奨学生説明会を実施した。	達成継続			
					4. 特待生制度を活用し、学業成績優秀者を支援する。	大学独自選抜試験の上位学生に対してA特待生の選考をおこなった。B特待生選考スケジュールを立案した。	達成継続			
					5. 奨学金を受けている学生の追跡調査を行い評価する。	奨学金を受けている学生の成績の検証を行う準備を行った。	一部達成継続			
					(2) きめ細かな学生支援	①修学支援 教育の質保証委員会 アクティブラーニングプロジェクト 学生委員会	学務課 総務課	入学前教育の実施等の高大連携を継続すると共に、その方法について継続的に検討する。 国家試験対策を企画・提供して学生を支援する。	1. 教務委員会を中心に入学前の学生を大学の講義に受入を行う。 2. 国家試験対策委員会を中心に、新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格を目指す。また、既卒者への支援を行い国家試験の合格率向上を目指す。 3. 成績不良者に対して基礎力を向上させる支援を全学的に取り組む。	推薦入学試験での入学予定者に対して入学前の授業見学を遠隔で実施した。 看護師国家試験 合格者130名 保健師国家試験 合格者21名 という結果であった。
	②生活支援	学生の主体的な学修を推進するための支援環境（チューター制度、学生相談等の活用）の充実を図る。 ハラスメント防止のための研修会を継続して実施する。 大学生協が学生の食育環境改善及び必要物品購入の利便性に資するように、運営を支援する。	1. チューター教員を中心に、学部長、科目担当教員の相談・支援ラインを強化し、職員間の情報共有を密にしながら学生の抱える問題に迅速に対応する。 2. 学生相談のカウンセラーと学部長、学生キャリア支援担当との情報交換を密にし、学生ニーズに応じた相談およびハラスメント相談員を配置することにより、適切な支援へ繋ぐ。 4. 生協の福利厚生者の向上を図る。また、安定的な運営を目指す。	チューターを中心に問題を抱える学生のフォローをおこなった。 年間の学生相談件数は36件であった。また、母性相談件数は2件であった。	達成継続 達成継続					
	③キャリア支援	赤十字病院と連携して、キャリア支援体制を整備する。	国の示した「地域医療構想」に伴う、医療機関の再編に応じた、就職支援体制を構築する。	大学へ郵送で届く資料や求人案内を随時学生へシステムと掲示の両方で周知した。	達成継続					
	④正課外活動支援	学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	次年度の入学予定者に対して自治会より遠隔でオリエンテーションを実施した。	達成継続					

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
教育課程 学修成果	6. 学生支援 (3) 校友ネットワークの確立	学生委員会	学務課 経理課	日本赤十字学園の6看護大学の学生間の相互交流を積極的に支援する。	日本赤十字学園の6大学交流会を実施する。	本年度は8月に6大学交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	※ 未達成 継続
				平成30年度に同窓会規程が改定されて、会員資格の拡大、会員管理システムが導入された。同窓会組織の運営が順調に機能するように支援する。	1. 多くの同窓生に大学へ来てもらうように里帰りイベントや講演会など機会をつくり、就職・キャリア支援につなげる。 2. 元学長及び名誉教授、寄付者等を卒業式等式典に招き、本学の支援へつなげる	同窓会報 vol2 を発行し、卒業生に対して郵送した。 サポーターズ基金として、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う支援金の募集を実施し、2件の申し込みがあり、寄付者に礼状を送付した。コロナウイルスの感染拡大防止のため、寄付者等を卒業式に招待できなかった。	達成 継続
教育研究等環境	1. 教育研究等環境の方針	(1) 整備方針	経理課	大学設置後20年を見据え、空調、給排水、外壁等、計画的に整備する。	建物および建物付属設備の整備計画を具体的に作成し、計画的に整備する。	コージェネレーションシステムを予定どおり1月から稼働させ、また次年度整備予定の固定資産(入退室管理システム)について、適正な整備時期等について業者との打ち合わせを行った。	達成 継続
				教育研究用機器備品について、10年整備計画に基づき整備する。	教育研究用機器備品を10か年計画に基づき整備する。	年度内の備品整備の漏れ等がないかを確認し、次年度の整備に向けて、必要備品スケジュールを確認し、調整を行った。	達成 継続
	教育研究用機器備品について、領域を超えて共用して有効に活用する。	教育研究用機器備品等の共同使用の基盤を整え、有効活用を促す。	備品の在庫確認および次年度予算申請をもとに備品等共同使用可能なものにて、確認を行った。	達成 継続			
	サテライトキャンパス(名古屋第二赤十字病院：日赤愛知災害管理センター)への移転を順調に行う。	名古屋第二赤十字病院と連携し、移転する。また、白壁庁舎からの撤退準備を行う。	サテライトキャンパスに必要な物品を整備した。今後文科省への申請を行っていく。	達成			
	(2) 定期的な点検・評価	中長期補修計画に基づき、空調、給排水、外壁等を計画的に更新整備する。	中長期補修計画の適切性について見直しを図りながら、計画的に点検整備を行う。	経年劣化等の緊急性及び必要性の高いものを順次、修繕を実施した。	達成 継続		
		教育研究用機器備品について、定期的に点検し運用する。	固定資産(医療器械・演習用モジュール人形等)の6ヶ年整備計画の適切性について見直しを図りながら、計画的に点検し運用する。	固定資産の点検をおこない、次年度の必要となるものを順次整備するための調整を行った。	達成 継続		
2. 研究活動の充実強化と社会還元		学術情報センター・図書館	学術情報センター・図書館を中心に、研究活動充実強化のための「研究費を獲得できる支援」「研究を遂行できる支援」「研究成果を公表できる支援」の体制を構築する。	アクセスしやすい助成金データベースを更新しつつ再構成する。また、研究支援を実施するためCHINAHL・MEDLINE検索講習会の実施、科学研究費助成事業において申請書の書き方等の説明会や申請書レビューの取次を実施する。研究成果論文ををリポジトリ掲載することで成果の公開を目指す。	新4年生オリエンテーションにおいて、「医中誌検索」等のグループ向け、個人向け講習会の案内をした。	一部達成 継続	
3. 競争的外部研究資金等の確保	(1) 科学研究費補助金の獲得と体制の整備	研究推進・紀要委員会	学務課 学術情報センター・図書館 経理課	外部研究資金を確保するため、全教員が科学研究費助成事業へ申請する。また、学術情報センター・図書館事業として、申請書作成を支援する。	1. 科学研究費助成事業について、令和2年度には全員が応募する。(研究代表者・分担者) 2. 採択率を上げるため、研究計画書作成上の留意点等について及び学術情報センター・図書館を中心に獲得に係る説明会・相談会を実施する。	経理課と協働して助成金リストを随時更新している。 レビューの件数を増やすために次年度の科研費の説明会で図書館からも説明を行う予定とした。	未達成 継続
				(2) 大学教育改革支援事業への積極的応募	教育の質保証委員会	経理課	私立大学等総合改革支援事業(タイプ1~4)の評価要件を把握して学内体制を整備し、積極的に応募する。
	(3) 学園研究助成金の効果的な配分			教員が競争的資金を確保するよう積極的に申請するための方策を図る。	1. 赤十字と看護・介護に関する研究について、応募数を前年度以上に増やす。 2. 日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金について、若手研究者の応募数を前年度以上に増やす。	「赤十字と看護・介護にかかる研究助成」に申請した1件が採択された。 「教育・研究及び奨学金基金」に申請した1件が採択された。	未達成 継続

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等
社会連携 ・ 社会貢献	1. 地域社会との連携強化	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	豊田市、大学、高専の地域包括連携協定に基づき、連携の充実を図る。また、地域包括連携協定に基づくプラットフォーム形成大学との共催による公開講座、合同での入試説明会及びFD・SD研修の実施について検討する。	1. 市内大学とプラットフォームを形成し、合同入試説明会を開催する。	10月16日（金）にプラットフォーム主催の「合同進学説明会2020」を豊田産業文化センター4階にて開催した（参加校：中京大学、日本赤十字豊田看護大学、愛知工業大学）。2名の参加があり、1名はオンラインでの相談があった。	達成継続
					2. 市内大学とプラットフォームを形成し、合同FD・SDを実施する。	9月1日（火）本学にて「新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み」と題し、下間先生に講師をお願いし、合同でのFD・SDを実施した。参加者は本学教職員37名、他施設50名（会場参加10名、Web配信40名）合計87名であった。	達成継続
					3. 市内大学とプラットフォームを形成し、単位互換について検討する。	豊田市高等教育活性化推進プラットフォームにて愛知県学長懇話会にて単位互換を実施していることから、そこから本学（赤十字原論）、中京大学、愛知工業大学を一覧表にまとめ、単位互換を実施していることとしている。	達成継続
					4. 市内大学とプラットフォームを形成し、防災に関する履修証明プログラムを実施する。	1月12日（火）「災害医療」と題し、Zoomにて長尾講師が講座を行った。また、令和2年度第13回防災マイスター養成講座中間発表が1月19日（火）にZoomにて実施された。本学から長尾講師が参加した。	達成継続
					5. 豊田市や市内大学とプラットフォームを形成し、施設利用を促進する。	新型コロナウイルス感染症の影響で施設利用を中止した。	※未達成継続
	(2) 地域社会への貢献	地域連携委員会	企画・地域交流課・学務課	高大連携協定に基づき、愛知県立豊田高等学校「医療・看護コース」への連携を継続する。また、豊田市社会福祉協議会と連携して公開講座等を実施する。	1. 愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。	教員会議において、令和3年度の授業スケジュールの提示があった。	達成継続
					2. 豊田市社会福祉協議会と連携しボランティア活動の推進を図る。	新型コロナウイルス感染症予防対策本部において前期の地域連携における活動が中止となっていたが、後期に入り、地域連携委員会を開催したが、検討できていない。	※未達成
	2. 地域住民への生涯学習の場の提供	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	ヘルスプロモーションセンターの事業計画を検討する。また、地域住民を対象とした公開講座を開催する。さらに、地域で働く専門職向け研修会を開催する。	1. メンタルヘルスプロモーションを推進する。	新型コロナウイルス感染防止の観点から令和2年度は中止することとした。	※未達成継続
					2. 逢妻交流館、宮口上区、宮口一色地区のイベントに参加する。	逢妻ふれあい祭りは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から不参加となった。また、宮口上区は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。	※未達成継続
					3. ブラジル人学校 EAS で身体測定を行う。	3月中に実施する予定であったが、緊急事態宣言が3月7日（日）まで延長されたことを受け、今年度は中止となった。次年度開催に向けて調整することとなった。（令和3年9月末までには実施する）	※未達成継続
					4. 豊根村教育委員会と共同で地域住民への健康教育等の生涯学習講座を行う。	3月に生涯学習講座、地域住民向け講座を実施する予定であったが、先方から新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止の連絡があった。	※未達成継続
					5. 健康寿命延伸に関する高齢者の摂食嚥下障害予防リスク評価システムを推進する。 ツバメ体操を普及する。	12月22日（火）に尾張旭市スカイワードあさひにて実施した。摂食嚥下障害予防のための講義とつばめ体操を実施した。また、下間教授が作成した「絵本 イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策」を基に感染予防についても講義を行った。36名の参加があった。	達成継続
6. 専門職向けの研修会や地域住民を対象とした公開講座を開催する。					小児看護学「幼稚園・保育所に滞在する子どもによくある症状と怪我への対応」オンデマンド配信 期間：2月8日（月）～22日（月） 参加人数：74名 看護管理学「看護管理者の意思決定」 日程：3月13日（土） 参加人数：34名	達成継続	
3. 社会的活動の促進	経営会議	総務課 企画・地域交流課	裁量労働制に基づき、兼職申請について適切に対応する。 豊田市の審議会委員等への就任について適切に対応する。	働きすぎによる健康面の観点から教育兼職の在り方について検討する	令和3年3月より勤怠管理システムを導入し、より正確な勤務時間の把握が可能となった。	達成継続	
				1. 地域診断について助言を行う。	森田教授が対応している。	達成継続	
				2. 豊田子どもにやさしいまちづくり推進協議会で助言を行う。	野口教授が対応している。	達成継続	
				3. 豊田市感染症診断協議会で助言を行う。	下間教授が対応している。	達成継続	
4. 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会	村瀬学部長が対応している。	達成継続					

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等		
業務運営 財務	1. 法人・大学ガバナンスの維持・向上	(1) 法人・大学運営体制	①効率的な大学運営	教育の質保証委員会	総務課	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	教育の質保証委員会において、内部質保証体制図、体系図の見直しを行った。	達成継続
			経営会議	総務課	平成28年度～30年度に主要な規程の改訂が終了したので、残る規程を整備する。	学園本部の定めた諸規程の見直しを受け、大学の諸規程・内部規則等についても本部の準則等に照らし必要な改正を進める。また、一部未修整の規程の整備を進める。	2月経営会議にて本学学部学則・大学院学則が承認された。その後、学園本部理事会に提出し、承認を受けた。文部科学省に提出し、学則の変更手続きは完了した。	達成継続	
			将来構想検討プロジェクト	経理課	将来構想についてプロジェクトを設置し検討する。	将来構想について資料準備や方向性を検討していく。	次年度以降のスクールバス運行方針について、学生および外部へ周知を行った。	一部達成継続	
		(2) コンプライアンスの維持・向上	総務課	専門業務型裁量労働制を継続して実施し、適切な労働環境を維持する。	整備した労働環境（裁量労働制）の精査を行う。	令和3年3月から勤怠システムの仮稼働を開始した。4月より本稼働させる。専門業務型裁量労働制の協定書を締結し、労働基準監督署に届け出た。	達成継続		
			教育の質保証委員会	総務課	公的研究費不正防止のための環境整備として、備品・予算執行管理・内部監査等を適正に実施し、啓発のための研修会を実施する。	コンプライアンス（科研費）に関する学内研修会を実施する。	新型コロナウイルス感染症の影響によりZoomを使用したLIVE配信にて実施した。研修会参加者にはアンケートを回答することで受講証を発行した。	達成継続	
			教育の質保証委員会	経理課	公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正を受け、本学の関係する規程の改正、制定を実施したため、その規程等理解度を深めるためコンプライアンス講習会を実施する。	公的研究費の管理・監査のガイドラインの改正を受け、本学の関係する規程の改正、制定を実施したため、その規程等理解度を深めるためコンプライアンス講習会を実施する。	コンプライアンス教育をオンラインで実施し、参加できなかった教員については録画した動画の視聴を行った。	達成継続	
			人事委員会	総務課	適正な定員管理を実施し、教員の任期制度を適正に運用する。	1. 任期制の適正運用 2. 適正な定員管理 3. 適正な教員選考人事	令和3年3月1日に令和2年度及び令和3年度に任期を迎える教員の面接を実施し、更新の有無を決定し、対象者に結果通知を行った。 令和3年度教員配置を策定し、適正に定員管理を行っている。 正規職員については、新規採用を伴う退職希望がないため、選考を行っていない。次年度採用非常勤講師の選考を9件適正に行った。	達成継続 達成継続 達成継続	
				企画・地域交流課	広報の充実強化を図るために、ホームページをリニューアルする。また、高校生と家族へ広報の充実を図るために、大学案内をリニューアルする。さらに、最新情報を随時ホームページに掲載する。	1. ホームページ及び大学案内のリニューアルをしたため、これらを活用し、本学に対する認知度等更なる向上を目指す。またスマートフォン対応Webサイトを作成したためこれらを活用し、情報発信を行う。(Twitterによる情報発信) 2. 進学説明会への積極的参加	本学ホームページのトップ画面（スクロール）に大学独自選抜、大学入学共通テスト（前期A・B）、大学入学共通テスト（後期）の広報（出願期間の掲載）を行った。また、下関教授の「新型コロナウイルス感染対策WEBセミナー」ポルトガル語版「イラストで理解する新型コロナウイルス感染対策」スライドを掲載した。 3月11日（木）開催予定のマイナビ「マイナビ進学ライブ」が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。	達成継続 達成継続	
				入試・広報委員会 大学院入試委員会	企画・地域交流課	広報の充実強化を図るために、ホームページをリニューアルする。また、高校生と家族へ広報の充実を図るために、大学案内をリニューアルする。さらに、最新情報を随時ホームページに掲載する。	1. ホームページ及び大学案内のリニューアルをしたため、これらを活用し、本学に対する認知度等更なる向上を目指す。またスマートフォン対応Webサイトを作成したためこれらを活用し、情報発信を行う。(Twitterによる情報発信) 2. 進学説明会への積極的参加	本学ホームページのトップ画面（スクロール）に大学独自選抜、大学入学共通テスト（前期A・B）、大学入学共通テスト（後期）の広報（出願期間の掲載）を行った。また、下関教授の「新型コロナウイルス感染対策WEBセミナー」ポルトガル語版「イラストで理解する新型コロナウイルス感染対策」スライドを掲載した。 3月11日（木）開催予定のマイナビ「マイナビ進学ライブ」が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。	達成継続 達成継続
	2. 経営・財政基盤の確立	(1) 経営意識の醸成	経理課	教職員に対し、四半期ごとに決算報告、光熱水費使用量報告を行う。	大学経営の方策については最高決定機関（経営会議）からの迅速な意思決定のもと、各種会議等を通じて、その取り組みに対して教職員が邁進していけるような一体感を醸成する。	令和3年度予算案の報告を教職員に対しておこない、また、令和2年度第3四半期報告を教職員に対しおこない、大学経営状況の経営状況の理解を促した。	達成継続		
			経営会議	企画・地域交流課	経営会議の審議結果を定期的に教職員に報告する。	教授会、教員会議にて報告する。	教授会、教員会議にて審議結果、報告事項を報告している。	達成継続	
		(2) 経営基盤の確立	経営会議	企画・地域交流課	経営会議を月1回開催し、経営に関する迅速な意思決定をする。	経営会議を月1回開催して迅速な意思決定をし、教職員の経営意識の醸成を促進する。	経営会議を月1回開催し、教員会議等で情報を提供した。	達成継続	
			経理課	18歳人口減少を踏まえ、将来の収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、私立学校等経常費補助金の獲得に努める。	収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、より多くの私学助成金獲得に努める。	私立大学等経常費補助金の通知情報を関係部所に共有し、確実に申請する。また、減収対策については検討を継続した。	一部達成継続		
			経理課	寄付を促進する仕組みを検討し、寄付募集を行う。	大学経営に貴重な収入源となる寄付金確保に向けて、継続的な寄付の勧奨やサポーター募金の導入を検討するとともに、広報活動としてホームページ上で寄付の勧奨を併せて行う。	コロナ支援金による寄付が74万円（後援会から50万円）、サポーター募金として、107万5千円の寄付があった。次年度から学生および保護者へ寄付を募る。	達成継続		
		(3) 教育研究向上のための財源確保	教育の質保証委員会 IR委員会	経理課	科学研究費へ申請し、公的研究費の確保に努める。	科研費等外部資金応募者を増加させる。	外部資金取得の募集情報を教員あて配信し、申請について相談を受け付け、1件太幸財団への申請を受けた。	達成継続	

I 年度事業計画

計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	令和2年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
業務運営・財務	3. 教職員の確保と質的向上	(1) 適切な人事交流等	総務課	愛知県支部及び愛知県内日赤施設との職員の人事交流を維持する。	愛知県支部をはじめ管内赤十字施設、法人本部・赤十字5大学との人事交流の検討及び実施。	次年度の事務職員配置が愛知県支部と協議のうえ決定した。	達成継続	
				中部ブロック内赤十字病院と連携して、看護職員を期限付き教員として受け入れ連携することを推進する。	中部ブロック看護職員の出向者を決定する。	出向に伴う詳細な取り決めを名古屋第二赤十字病院と行い、令和3年度からの出向が円滑に開始できるよう手筈を整えた。	達成継続	
		(2) 教職員モラル・人権意識の維持・向上	倫理委員会 自己点検・評価委員会	総務課	ハラスメント防止のガイドラインに基づき、ハラスメント防止研修会（学部学生向け・大学院生向け・教職員向け）を開催する。	「キャンパスハラスメント防止ガイドライン」により、教職員及び学生への啓発活動及び継続的な研修会を実施する。	次年度のハラスメント研修会の開催時期について調整した。令和3年度版リーフレットの確認・修正を行った。	達成継続
	4. 危機管理体制の構築等	(1) 危機管理と安全管理	災害対策プロジェクト	総務課	日赤愛知災害管理センター（令和2年度開設予定）において、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	日赤愛知災害管理センター（令和2年度7月開設予定）において、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	今後、担当委員会にて情報収集を進める。	未達成継続
			衛生委員会	総務課	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	感染症対策フローの見直しを行っている。次年度より対面授業がメインとなり登校する学生が増えるため、必要な衛生材料の調達や、食事時の注意事項等の掲示物の更新を行っている。	達成継続
		(2) 環境意識の向上とエコ対策	経営会議	経理課	光熱水費節約を継続的に実施する。	ECOマニュアルを作成し、教員、学生へ周知している。また、各講義室には未使用時の電灯OFFを促すよう、カードを貼り、周知する。	四半期光熱水費利用状況（前年度対比）を四半期ごとに教員会議において報告し、節電状況を周知した。	達成継続

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により未達成・継続

II 組織・運営

1. 2020年度 教員一覧

【専任教員】

職位		氏名	任期
学長	教授	鎌倉 やよい	2016年4月1日～2024年3月31日
学部長	教授	村瀬 智子	2016年4月1日～2022年3月31日
研究科長	教授	山田 聡子	2016年4月1日～2022年3月31日
学術情報センター・図書館長	教授	下間 正隆	2018年9月1日～2022年3月31日
ヘルスプロモーションセンター長	教授	松浦 正子	2020年8月1日～2022年3月31日

【看護学部】

領域	職位	氏名
一般教養	特任教授	森 久子
	講師	鈴木 寿摩
専門基礎	教授	下間 正隆
	教授	森田 一三
	教授	福岡 長知
	助教	高見 精一郎
基礎看護学	教授	山田 聡子
	准教授	中島 佳緒里
	講師	竹内 貴子
	講師	巻野 雄介
	助教	加藤 広美
	助教	近藤 絵美
	助手	高下 翔
	助手	高下 翔
看護管理学	教授	松浦 正子
	准教授	南谷 志野
成人看護学	教授	東野 督子
	准教授	石黒 千映子
	講師	棚川 綾子
	助教	田口 栄子
	助教	河村 諒
	助手	石田 咲
災害看護学	特任教授	小林 洋子
	講師	長尾 佳世子
	講師	藤井 愛海
	教授	小林 尚司
老年看護学	准教授	清水 みどり
	講師	橋本 亜弓
	助教	近藤 香苗
	助教	臼井 かおり
在宅看護学	講師	松田 優子
	講師	深谷 由美
母性看護学	教授	野口 眞弓
	准教授	長田 知恵子
	講師	千葉 朝子
小児看護学	助手	岩本 真貴子
	特任教授	大西 文子
	准教授	岡田 摩理
	講師	神道 那実
精神看護学	助教	遠藤 幸子
	助教	鳥居 賀乃子
	教授	村瀬 智子
	准教授	原田 真澄
	講師	初田 真人
公衆衛生看護学	助教	坪之内 千鶴
	助教	飯田 大輔
	教授	長谷川 喜代美
	准教授	大谷 喜美江
専門	講師	清水 美代子
	助教	廣田 直美

【大学院 修士課程】

領域・分野		職位	氏名	
学長		教授	鎌倉 やよい	
研究科長		教授	山田 聡子	
専門科目	基盤育成看護学	看護管理学	教授	松浦 正子
			准教授	南谷 志野
		看護教育・技術学	教授	山田 聡子
			准教授	中島 佳緒里
	ケア創生看護学	成人看護学	教授	巻野 雄介
			講師	巻野 雄介
		母性看護学	教授	東野 督子
			准教授	石黒 千映子
		小児看護学	教授	野口 眞弓
			准教授	長田 知恵子
	地域共生看護学	老年・在宅看護学	特任教授	大西 文子
			准教授	岡田 摩理
精神看護学		教授	小林 尚司	
		准教授	清水 みどり	
地域看護学		教授	村瀬 智子	
		准教授	原田 真澄	
災害看護学		教授	長谷川 喜代美	
		教授	森田 一三	
共通科目		准教授	大谷 喜美江	
		特任教授	小林 洋子	
		講師	長尾 佳世子	
		講師	藤井 愛海	
		教授	下間 正隆	
		教授	福岡 長知	

【大学院 博士後期課程】

職位	氏名
教授(学長)	鎌倉 やよい
教授(研究科長)	山田 聡子
教授	野口 眞弓
特任教授	大西 文子
教授	東野 督子
教授	村瀬 智子
教授	森田 一三
教授	松浦 正子
非常勤講師	小山 真理子

2. 2020年度 職員一覧

【事務局】

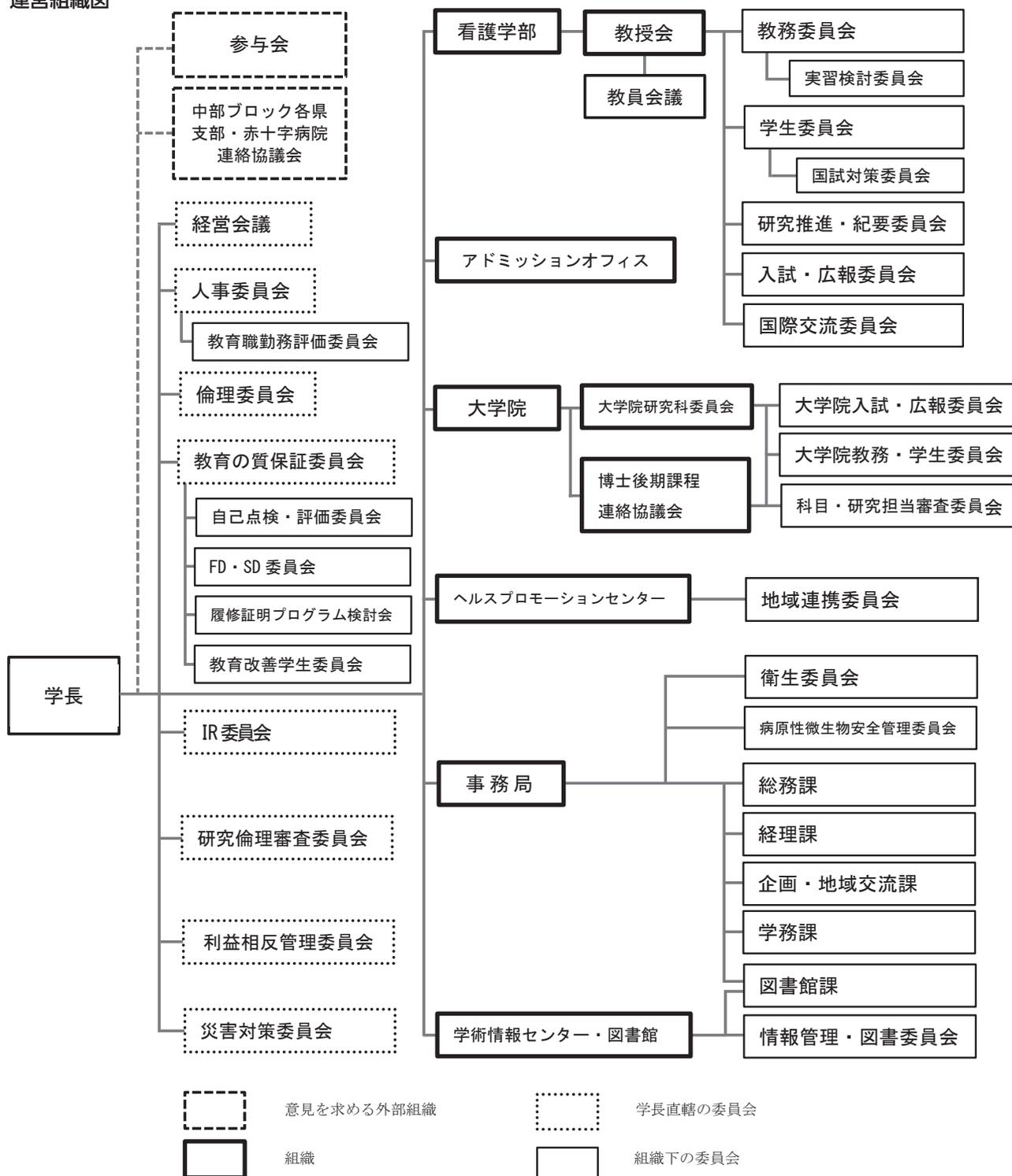
職名	氏名
事務局長	山 田 誠
学務課長	平 野 二 郎
係長	小 島 裕 子
係長	谷 川 歩
主事	安 井 康 介
主事	賀 茂 綾 子
一般（嘱託）	村 上 久 子
一般（契約）	小 泉 恵 美
総務課長	恒 川 美智子
係長	鳥 居 貴 代
主事	中 根 春 波
主事	渡 辺 達 郎
経理課長（兼）	恒 川 美智子
係長	田 内 真由美
主事	櫛 田 堅 二
主事	芝 口 太 一
主事	堀 田 真理子
企画・地域交流課長	中 島 伸 一
係長	立 川 俊 彦
主事	奥 映理菜
アドミッションオフィサー（嘱託）	山 本 章 治

【学術情報センター・図書館】

職名	氏名
学術情報センター・図書館長	下 間 正 隆
図書館課長（兼）	山 田 誠
司書	村 瀬 悠香代
司書（嘱託）	中 尾 明 子
一般（嘱託）	池 上 健 二
司書（契約）	野 崎 慶 子

3. 運営組織

運営組織図



II 組織・運営

4. 内部質保証

1) 今年度の取り組み

学校法人日本赤十字学園第3次中期計画（2019～2023年度）に基づき、経営会議において本学の最終ゴール及び当該年度計画の達成目標を設定し、四半期ごとの計画を作成して達成状況を評価し、年度内の進捗管理を実施した。

令和2年度（2020年度）は、中期計画の「内部質保証」に5項目を、「全学的な教学マネジメント」に4項目を設定した。その内容は、前者では①評価体制に基づくPDCAサイクルの円滑な実施、②分野別評価の受審時期の決定、③年報の作成、④学生評価、教育改善学生委員会の意見等、教育改善へ意見反映、⑤データの蓄積、であった。後者では①教育課程の検証、学位授与方針等の検討、②大学院の改正カリキュラムの評価、③授業評価アンケートの実施、④ループリックによる学修到達度の調査の実施、であった。これらは、いずれも教育の質保証委員会が所掌した。

一方、2020年は新型コロナウイルス感染拡大によって、教育活動への大きな影響があった。3月には、新型コロナウイルス感染予防対策本部を設置し対応した。教育に関する項目は対策本部で方針を決定し、教育の質保証委員会又は教授会の決定を経て実施された。

2) 2020年度目標の達成状況

内部質保証・教学マネジメントは、評価体制図に基づき順調に実施された。年度計画について四半期ごとに達成状況を確認し、PDCAサイクルが円滑に動くように進捗管理を実施した。ディプロマポリシーの達成度をループリック評価によって測定し、看護技術自己評価、授業評価アンケート、学生アンケートを実施した。前二者の結果は集約してホームページに登載した。また、後二者のアンケートは結果を学生に開示した。

学生評価では教育改善学生委員会を開催し（2020年11月11日）、学部各学年代表、大学院代表が参加し意見交換した。その結果、オンライン授業に伴い2科目の授業改善、教育改善委員会と学生自治会との連携が要望された。第9回教育の質保証委員会において、先の2科目については授業評価結果を踏まえ、当該教員へ改善を求めることを決定した。さらに、教育の質保証委員会規程を改正し、同委員会の下に教育改善学生委員会を置いた。

分野別評価の受審については、基準協会による外部評価受審の翌年とすることを決定し、令和2年度は、愛知県立大学看護学部教授2名に依頼した。その結果、大学院の修了要件を満たすことが特別研究合格の要件としていたことについて指摘を受けた（15頁）。それを受けて、研究科委員会で検討がなされ、特別研究の成績と大学院の修了要件とを分離し、シラバス上の表記を修正した。

年報の作成について、これまでの2年間は基準協会の評価項目に沿った目次構成をしていたが、定評評価の構成であるため、当該年度にPDCAサイクルを動かして実施した内容を表現することが難しいこと、基礎資料の集積が難しいなどの課題が明らかとなった。そのため、従来の構成の利点を生かしつつデータを蓄積し、教学マネジメントが動的に把握できる目次構成に修正した。

第9回教育の質保証委員会では、内部評価の構造の検討を開始し、先に挙げた各種評価の見直しを開始した。ディプロマポリシーの達成度に関しては、ディプロマサプリメントとして帳票システムを来年度構築することに向けて準備を開始し、学生アンケート評価項目を見直した。

3) 新型コロナウイルス感染

新型コロナウイルス感染予防対策本部を中心に、学生の症状報告システムの確立、食堂や教室など学内環境の感染対策の構築、オンライン授業の準備、臨地実習の調整を行った。教育の質の保証を掲げて、全教職員の協力体制のもとに乗り切ることができた。

看護学部・大学院看護学研究科外部評価結果

視察・調査日：2020年11月26日（木）

評価者：愛知県立大学 副学長・看護学部 老年看護学教授 百瀬由美子 様

愛知県立大学 看護学部 成人慢性期看護学教授 片岡 純 様

総合評価

この度は外部評価を通して、貴学の取り組みについて拝見する機会をいただきありがとうございました。

合同面接調査に先立ち、教室、実習室、図書館、食堂等の学内施設見学をさせていただきました。学生の学習環境が非常に整備されていると考えました。

大学の理念、目的は適切に設定され、それを踏まえて学部・研究科の目的も適切に設定され教職員および学生に周知し、社会に対しても公表されています。内部質保証については、内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備され、役割、機能も明確であり適正に運営されています。

学習成果の可視化についてもルーブリック評価など客観的にディプロマポリシーの到達度を分析できるデータが蓄積されつつあります。また、ステイクホルダーへの調査・分析についても取り組みを始められています。さらに、学生自身が習熟度を確認するシステムを構築する予定と伺いましたので、教育効果評価システムのさらなる発展を期待します。

前回の外部評価の状況と比較すると、シラパスの内容がさらに体系化され、英語も4年間を通してカリキュラムに組み込まれるようになっていきます。外部評価の結果を受けて適正に改善がなされていると考えます。

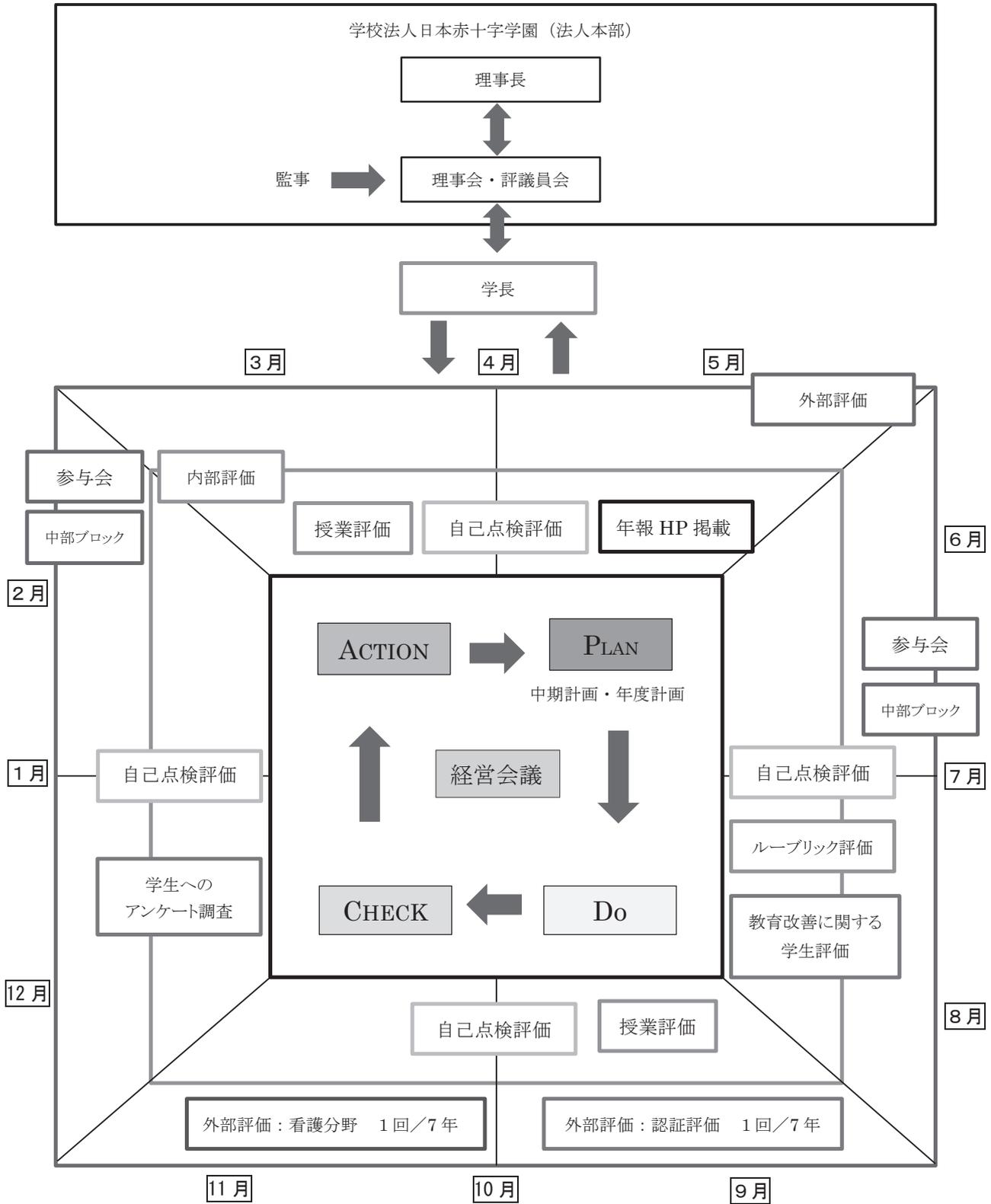
全体的には、学生が就職した病院等の管理者から、卒業生のコミュニケーション力、人間性については高く評価されているところであり、貴学の理念・目標に沿った教育の成果と考えます。

今後、ますますの質の高い教育の実践と発展を期待いたします。

評価の視点に基づく結果

大学院の修了要件において、修了に必要な単位を取得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文（課題論文）の審査及び最終試験に合格することを修了要件とするとされる場合、特別研究のシラパスに「受審」について記載することの適否をご検討ください。

4) 評価体制図



5) 内部質保証システム体系図



5. 大学運営

1) 今年度の取り組み

大学組織は、学長の下に看護学部、アドミッションオフィス、大学院、ヘルスプロモーションセンター、事務局、及び学術情報センター・図書館の各組織が配置されている（13頁）。運営組織としては、学長直下に経営会議、人事委員会、教育の質保証委員会を置き、大学運営にかかわる方針の決定、中期計画の策定や進捗管理、規程改正等を経営会議が所掌し、人事配置など人事に関する事項を人事委員会が所掌し、教育の質評価・改善に関しては教育の質保証委員会が所掌する。さらに、必要時に開催される委員会として、倫理委員会、IR委員会、研究倫理審査委員会、利益相反管理委員会及び災害対策委員会が設置されている。

各運営組織を担当する委員会メンバーは毎年学部長が提案し、経営会議において決定し、今年度のメンバーは19頁に示すとおりである。所属する委員会の活動を通して、本学の教学マネジメントを学習できるように、負荷の少ない委員会から徐々に難度を増加させ、委員長を准教授が担当できるようにした。今年度の運営組織の改正として、教育の質保証委員会規程を改正し、新たに教育改善学生委員会を下部委員会に加えた。

2) 経営会議の主な活動

今年度の課題は、愛知学泉大学の移転に伴い、共同運行していた三好ヶ丘路線への対応であった。維持するためには1,500万円の費用負担が加わることとなり、スクールバスについて全面的に検証した。その結果、1時間以上要する赤池路線を廃止して、最も近距離の三好ヶ丘路線を充実させる方向で調整が進んだ。第8回経営会議において、2022年3月までは3路線を確保し、その間に準備いただき、2022年4月からは赤池路線を廃止し、豊田路線、三好ヶ丘路線の2路線を充実させることが決定された。2020年1月に学生に公表すると共に、ホームページ上で公表し、受験生に対する情報提供を行った。

次に、サテライトキャンパスが完成し、8月27日にプレスリリースを発信し、9月1日から稼働を開始した。それに伴い、9月30日に旧サテライトキャンパスの契約を解除した。また、2004年開学後16年が経過し、計画的な基幹ネットワークの更新、WiFi環境の整備を実施し、9月21日からWiFi使用が可能となった。

また、外部評価として参与会及び中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会が開催され、意見交換がなされた。経営基盤に関する意見として、今後の改築に向けての計画立案を準備することが望ましいとの助言を得た。

3) 新型コロナウイルス感染拡大への対応

2020年3月に新型コロナウイルス感染予防対策本部を設置し、パンデミック災害に対応した。2020年度の授業開始を5月11日とし、1か月遅らすことを決定した頃、愛知県は独自の緊急事態宣言を発出し、政府は4月16日から全都道府県に対して緊急事態宣言を拡大した。同時に、愛知県から大学への休業要請が通知された。対策本部を中心に、新1年生に対するオリエンテーション時の感染対策に始まり、学生からの症状報告システムの確立、オンライン授業の準備、学内環境の感染対策を構築し、臨地実習の調整を行った。さらに、地域に対して感染予防をわかりやすくイラストで示し、ホームページ上で発信した。後期に入り1名の学生が家族内感染でPCR陽性となったが、他の感染者はいなかった。対応の詳細は本学紀要2020年の特集を参照されたい。

2021年1月15日豊田市から、ワクチン接種の協力依頼があった。接種場所の提供と接種者の派遣など全面協力することを計画し、教授会に協力要請した。ヘルスプロモーションセンターのセミナールームにワクチン接種ブースを6基設置し、キャンパスモールに問診ブースを3基設置した。接種者入口をキャンパスモール奥の通路として、ワクチン接種に関する全体像を豊田市と共有して準備した。

4) 大学運営委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
経営会議		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、森田教授
人事委員会	(人事委員会)	◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
	教育職勤務評価委員会	◎学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
教育の質保証委員会	(教育の質保証委員会)	◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、教務委員会委員長、大学院教務・学生委員会委員長、FD・SD委員会委員長、自己点検・評価委員会委員長、その他学長が指名する者、総務課長、学務課長
	自己点検・評価委員会	◎村瀬教授、大西特任教授、松浦教授、山田教授、事務局長、総務課長
	FD・SD委員会	◎長谷川教授、事務局長、松浦教授、村瀬教授、森田教授、栩川講師、橋本講師、高見助教、総務課長
	履修証明プログラム検討会議	◎研究科長、学部長、大学院教務・学生委員長 坂之上ひとみ（名古屋第一赤十字病院）、石川真理子（刈谷豊田総合病院）、佐野マズミ（トヨタ記念病院）
IR委員会		◎森田教授、大西特任教授、小林（洋）特任教授、野口教授、高見助教、学務課長
研究倫理審査委員会		◎小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、長谷川教授、森田教授、山田教授、大谷准教授、南谷准教授、稲垣委員、久野委員、学務課長
利益相反管理委員会		◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、その他委員長が必要と認めた者、総務課長
災害対策委員会		◎小林（洋）特任教授、長尾講師、藤井講師、河村助教、飯田助教、渡辺主事

5) 大学運営関係委員会 2020 年度活動報告

(1) 経営会議

活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本学の中期計画及び毎年度の事業計画に関すること 2) 教育研究組織の適切性の評価に関すること 3) 本学職員の人事・サービス管理等の方針に関すること 4) 本学が定める重要な規程の制定又は改廃に関すること 5) 予算の作成及び執行並びに決算に関する重要な事項 6) 本学の財産に関する重要な事項 7) 教授会及び研究科委員会の審議等に付される重要な事項 8) その他本学の経営に関する重要な事項（経営に影響する場合は、教育研究に関するものを含む）
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：村瀬智子、山田聡子、山田誠、下間正隆、松浦正子、森田一三 事務局：企画・地域交流課
委員会開催回数	14回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 学則の改正について 災害対策マニュアルについて 第2回 学生に対する通信環境整備支援について 災害対策委員会規程の改正について 第3回 私立大学等改革総合支援事業について 第3次中期計画令和2年度計画第Ⅰ四半期報告について 第4回 スクールバスの運行について 参与会の委員の交代について 第5回 令和3年度事業運営方針案について 令和3年度予算編成方針案について 第6回 学生支援金の支給について 第3次中期計画令和2年度計画第Ⅱ四半期報告について 第7回 スクールバスの運行について 第8回 令和3年度事業計画案について 令和3年度予算案について 学部及び大学院の学則準則の一部改正について 第9回 学則及び関連規程の改正について 第3次中期計画令和2年度計画第Ⅲ四半期報告について 第10回 令和3年度各種委員会構成員について 第11回 令和3年度事業計画について 第3次中期計画令和2年度計画第Ⅳ四半期報告について 臨時 新型コロナウイルス感染予防対策事業について メール 一般利用者施設開放規程の改正について メール 学生支援の緊急給付金について
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 寄附金を得るための方策としてサポーターズ募金を開始したので、円滑に運用する方策を検討する。 2) 2022年度よりスクールバスの路線の集約を決定し、広報は終えたが、学生保護者への説明を継続する等、2021年度は円滑に移行できることを目指す。 3) 第3次中期計画の2021年度計画が順調に進むよう進捗管理を行う。 4) 2020年度に給排水、空調、PC、コジェネレーションシステムの更新、Wi-Fi環境整備等が完了したので、外壁などその他の構造物のメンテナンスを進めると共に、名古屋市内への移転も選択肢に加えて将来構想を進める。

(2) 人事委員会

活動目的	1) 教員等の採用、昇任、任期、解雇、懲戒等に関する事項 2) 当事者の意に反する降任、配置換、兼務、休職に関する事項 3) 任期終了時における業績評価及び再任可否に関する事項 4) 任期終了時の処遇に関する事項 5) 前各号に規定するもののほか、学長の指示に基づきその権限に属する事項
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：村瀬智子、山田聡子、下間正隆、山田誠 事務局：総務課 恒川美智子、鳥居貴代
委員会 開催回数	8回
活動概要	以下の事項を審議した。 1) 教員公募について（3件） 2) 教員任期について 3) 教員の昇任について（1件）
次年度の 課題	1) 教員定数と教員組織編成の検討

(3)教育の質保証委員会

活動目的	<p>1) 人材育成目標及び教育プログラム編成の基本的事項に関すること</p> <p>2) 教職員の資質・能力の向上と開発の基本的事項に関すること</p> <p>3) 中長期計画及び年度計画、自己点検・評価に関すること</p> <p>4) カリキュラム検討及び改正に関すること</p> <p>5) 履修証明プログラム検討に関すること</p> <p>6) その他全学的な教学マネジメント及び内部質保証に関すること</p>
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい</p> <p>委員：村瀬智子、山田聡子、下間正隆、長谷川喜代美、小林尚司、山田誠、平野二郎、恒川美智子</p> <p>事務局：総務課 渡辺達郎</p>
委員会開催回数	14回（臨時開催2回）
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 新型コロナウイルスによる教育への影響と対策について 令和2年度における課題・目標・スケジュールについて</p> <p>臨時 新型コロナウイルスによる教育への影響と対策について</p> <p>第2回 新型コロナウイルス感染拡大による教育方法の変更について</p> <p>臨時 新型コロナウイルス感染予防に対応した教育活動について</p> <p>第3回 オンライン授業における学生からの要望対応システムについて オンライン授業における学生への課題負荷量に関する調整について 看護教育に関する学外評価について</p> <p>第4回 ルーブリック評価とアセスメントポリシーについて 後期授業開講について</p> <p>第5回 令和2年度教育の質評価について ルーブリック評価とアセスメントポリシーについて 私立大学総合改革支援事業について</p> <p>第6回 令和2年度教育の質評価について ディプロマサプリメントについて</p> <p>第7回 令和2年度教育の質評価について ディプロマサプリメントについて</p> <p>第8回 令和2年度教育の質評価について アセスメントポリシーについて</p> <p>第9回 教育改善学生委員会規程等について 第1回教育改善学生委員会について 看護分野における外部評価について 内部評価の構造について ディプロマサプリメントについて</p> <p>第10回 令和2年度学生アンケート（案）について 授業評価アンケートの評価体制について ディプロマサプリメントの評価項目の確定</p> <p>第11回 令和2年度学生アンケート（案）について ディプロマサプリメントについて 内部評価の担当について 授業評価アンケート 評価体制・方法について</p> <p>第12回 令和3年度FD・SDマップについて 令和2年度年報の項目について カリキュラムマップの修正について 授業評価のDPに関する設問変更について 授業評価アンケート評価体制について アセスメントポリシーについて 令和2年度委員会総括について</p>
次年度の課題	<p>1) 内部質保証（PDCAサイクル）の仕組みを確認する。</p> <p>2) 教育課程・学修成果の評価について確認する。</p> <p>3) 授業評価アンケート結果の評価方法を確立する。</p> <p>4) アセスメントポリシーを確定する。</p>

(4) FD・SD委員会

活動目的	1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 2) SD（スタッフディベロップメント）に関する事項 3) その他学長が必要と認める事項																
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：村瀬智子、森田一三、松浦正子、棚川綾子、橋本亜弓、高見精一郎、山田誠、恒川美智子 事務局：総務課 渡辺達郎																
委員会 開催回数	6回																
活動概要	<p>1) FDに関する事項およびSDに関する事項 (1) FD・SD研修 FD・SD研修を表1のとおり実施した。</p> <p>表1 2020年度FD・SD研修実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新入教職員オリエンテーション</td> <td>開催日：2020年4月1日（水） 新入教職員10名を対象に、本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティ</td> <td>開催日：2020年5月27日（水）・12月23日（水）（Zoomにて実施） 本学教職員に対して、情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。</td> </tr> <tr> <td>ハラスメント防止研修</td> <td>開催日：2020年12月10日（木） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：6名（新入教職員）</td> </tr> <tr> <td>豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム FD・SD セミナー 日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み</td> <td>開催日：2020年9月1日（火） 講師：日本赤十字豊田看護大学 下間正隆 教授 参加者：103名（Zoomによる参加者含む）</td> </tr> <tr> <td>臨床が期待する学生像</td> <td>開催日：2021年3月11日（木）（Zoomによるライブ配信） 講師：名古屋第一赤十字病院 秋江百合子 看護副部長 参加者：58名</td> </tr> <tr> <td>研究倫理研修</td> <td>オンデマンド配信：2021年3月24日（水）～3月30日（火） 受講者：44名</td> </tr> <tr> <td>利益相反研修</td> <td>オンデマンド配信：2021年4月12日（月）～4月21日（水） 受講者：39名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 教員間の授業見学 「組織経営・経済論」、「医療安全」の2科目で授業見学が実施された。</p> <p>2) その他学長が必要と認める事項 特に活動せず</p>	研修テーマ	実施状況	新入教職員オリエンテーション	開催日：2020年4月1日（水） 新入教職員10名を対象に、本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。	情報セキュリティ	開催日：2020年5月27日（水）・12月23日（水）（Zoomにて実施） 本学教職員に対して、情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。	ハラスメント防止研修	開催日：2020年12月10日（木） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：6名（新入教職員）	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム FD・SD セミナー 日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み	開催日：2020年9月1日（火） 講師：日本赤十字豊田看護大学 下間正隆 教授 参加者：103名（Zoomによる参加者含む）	臨床が期待する学生像	開催日：2021年3月11日（木）（Zoomによるライブ配信） 講師：名古屋第一赤十字病院 秋江百合子 看護副部長 参加者：58名	研究倫理研修	オンデマンド配信：2021年3月24日（水）～3月30日（火） 受講者：44名	利益相反研修	オンデマンド配信：2021年4月12日（月）～4月21日（水） 受講者：39名
研修テーマ	実施状況																
新入教職員オリエンテーション	開催日：2020年4月1日（水） 新入教職員10名を対象に、本学の教育理念、教育目的、教育目標等を説明した。																
情報セキュリティ	開催日：2020年5月27日（水）・12月23日（水）（Zoomにて実施） 本学教職員に対して、情報セキュリティに関する最近のトピックを伝え注意喚起を図った。																
ハラスメント防止研修	開催日：2020年12月10日（木） 講師：鎌倉やよい学長、村瀬智子学部長 参加者：6名（新入教職員）																
豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム FD・SD セミナー 日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み	開催日：2020年9月1日（火） 講師：日本赤十字豊田看護大学 下間正隆 教授 参加者：103名（Zoomによる参加者含む）																
臨床が期待する学生像	開催日：2021年3月11日（木）（Zoomによるライブ配信） 講師：名古屋第一赤十字病院 秋江百合子 看護副部長 参加者：58名																
研究倫理研修	オンデマンド配信：2021年3月24日（水）～3月30日（火） 受講者：44名																
利益相反研修	オンデマンド配信：2021年4月12日（月）～4月21日（水） 受講者：39名																
次年度の 課題	1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのグループワークなどの研修形態をとることが困難であるため、効果的な研修方法を検討する。 2) 今年度のFD・SD活動方針は「教育力、研究力、マネジメント力のうち、マネジメント力に重点を置き活動を行う」であったが、業務の効率化・改善に関する課題の明確化に至っていないため、次年度も継続して同様の活動に取り組む。																

2020年度FD・SDマップ-求められる教職員像の実現に向けた研修等-

《教育力》		学内研修	日常業務を通して	学外研修
レベル1	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を理解 ・赤十字の理念を理解 ・本学の3つのポリシーを理解 ・本学の3つのポリシーの関係性（一貫性）を理解 ・カリキュラムマップ等により、各授業科目の関連を理解	・新入教員オリエンテーション ・TA研修、プレFD		・学園本部の研修
レベル2	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を実践 ・ディプロマポリシーをふまえて担当授業科目の位置づけを理解、シラバスを作成 ・シラバスの記載内容にそった授業を実践	・シラバス作成研修（教務委員会）	・教員間授業見学	・日本学生支援機構の各種研修 ・看護学教育ワークショップ（千葉大文科省委託）
レベル3	赤十字の理念、3つのポリシーをふまえた教育活動を振り返り、課題を見出し改善 ・学修成果・教育成果を把握・可視化 ・学修成果・教育成果に基づき教育活動の課題を分析 ・教育活動の課題に関する改善方を立案	・教育活動の評価（アセスメントポリシー、ルーブリック評価）研修	・授業評価アンケート、成績評価をふまえた教育活動の改善	・日本学会議公開シンポジウム（分野別保証等） ・JANPUの研修（看護学教育評価等）
《研究力》		学内研修	日常業務を通して	学外研修
レベル1	研究デザインを理解 質の良いRQを持って文献検討、研究計画立案	・文献検索（EBSCO、医中誌）	・研究促進・支援体制の整備	
レベル2	研究計画に基づく研究の実践 外部の競争的研究資金の獲得	・科研費申請説明会（研究推進・紀要委員会） <i>(必須研修)</i>		
レベル3	研究結果をプロダクト（論文）として社会に還元	・研究倫理 ・利益相反 ・科研費コンプライアンス		
《マネジメント力》		学内研修	日常業務を通して	学外研修
レベル1	大学のマネジメントを支える基盤の理解	・新入職員オリエンテーション ・情報セキュリティ・情報リテラシー		・学園本部の研修
レベル2	大学のマネジメントを支える方法の理解および実践	<i>(必須研修)</i> ・ハラスメント防止研修		・働き方改革セミナー等
レベル3	大学のマネジメントに関する課題の見出し改善策の提言	・業務効率化に関するワーキング（具体的課題のリストアップ） ⇒課題解決方法検討（研修会企画、業務改善策立案等）		・愛知労働局の研修

(5) 自己点検・評価委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育、研究に関する事項 2) 施設、設備に関する事項 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 5) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：村瀬智子 委員：山田聡子、山田誠、松浦正子、大西文子、恒川美智子 事務局：総務課 中根春波
委員会 開催回数	10回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育、研究に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 2019年度に実施した学修環境に関するアンケート調査の回答を作成し、結果を学部生・大学院生に公開した。 (2) 2020年度の内部質保証に関する自己点検として、学修環境に関するアンケート調査内容を検討した。質問項目を一新させ、2月に学部生・大学院生あてに Microsoft office365 forms 機能を用いて調査を実施した。 2) 施設、設備に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 特に活動せず。 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 特に活動せず。 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 2019年度年報を発刊し、赤十字関係施設および実習施設等へ送付した。 2020年度年報について、自己点検・評価に係るデータの継続的積み重ねが出来るよう構成の改善を行った。 5) その他学長が必要と認める事項 <ul style="list-style-type: none"> 特に活動せず。
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学修環境に関するアンケート調査のタイムスケジュールを組み、調査開始前に学部生・院生に周知する期間を設けるなど、回答率を上げる方策を練る。経年変化を反映できる分析方法を検討する。 2) 変更した構成に基づき 2020年度年報を発刊する。

(6) IR 委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 令和2年度学修成果に関する事 2) 令和2年度学生の満足度と授業評価に関する事 3) 2016年度入学生における入試方法と入試後の学生の成績の動向調査 4) 学内外の教育研究等にかかる情報の収集・評価：年間通じて継続的に実施 5) 学長からの調査依頼に関する事
構成員	委員長：森田一三 委員：野口眞弓、大西文子、小林洋子、高見精一郎、平野二郎 事務局：学務課 安井康介
委員会開催回数	3回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 入試成績と国試結果について 学習時間と学習成果の調査について 授業評価アンケートの適切さについて 第2回 学修時間と学修成果の調査について 卒業生アンケート等の実施について 第3回 学修時間と学修成果の調査結果について
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 令和3年度学修成果に関する事 2) 令和3年度学生の満足度と授業評価に関する事 3) 2017年度入学生における入試方法と入試後の学生の成績の動向調査 4) 学内外の教育研究等にかかる情報の収集・評価：年間通じて継続的に実施 5) 大学広報活動に関する情報収集 6) 学長からの調査依頼に関する事

(7) 研究倫理審査委員会

活動目的	<p>1) 研究を実施することの倫理的及び科学的見地からの妥当性に関する審査</p> <p>2) 審査を行った研究についての倫理的妥当性及び科学的合理性の観点からの調査と学長への報告</p> <p>3) 侵襲を伴い介入を行う研究を実施する場合の研究実施の適正性及び研究結果の信頼性確保のための調査と学長への報告</p> <p>4) 研究倫理意識高揚のための倫理教育・研修の実施</p> <p>5) その他、学長および委員会が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：小林洋子</p> <p>委員：小林尚司、長谷川喜代美、森田一三、山田聡子、南谷志野、大谷喜美江、稲垣恵一（外部委員）、久野雅恵（外部委員）、平野二郎</p> <p>事務局：学務課 小泉恵美</p>
委員会開催回数	21回
活動概要	<p>1) 定例委員会</p> <p>第1回 研究倫理審査2件（一般審査1件、研究計画変更審査1件） 2020年度 委員会開催日程について</p> <p>第2回 研究倫理審査1件（一般審査1件）</p> <p>第3回 研究倫理審査5件（一般審査3件、迅速審査2件）</p> <p>第4回 研究倫理審査5件（一般審査3件、迅速審査2件）</p> <p>第5回 研究倫理審査4件（一般審査3件、迅速審査1件）</p> <p>第6回 研究倫理審査2件（迅速審査1件、研究継続審査1件） 次年度予算について 新規事業計画について</p> <p>第7回 研究倫理審査3件（迅速審査2件、研究計画変更審査1件）</p> <p>第8回 研究倫理審査1件（迅速審査1件） 研究倫理審査委員会運用細則について</p> <p>第9回 研究倫理審査4件（迅速審査3件、研究変更審査1件）</p> <p>第10回 研究倫理審査6件（迅速審査4件、研究変更審査2件） 2020年度 研究倫理研修について</p> <p>第11回 研究倫理審査4件（迅速審査4件） 2020年度 研究倫理研修について</p> <p>第12回 研究倫理審査6件（迅速審査4件、研究計画変更審査2件） 2021年度 委員会開催日程（4月から6月まで）について</p> <p>2) 臨時委員会</p> <p>第1回 研究倫理審査1件（迅速審査1件）</p> <p>第2回 研究倫理審査1件（迅速審査1件）</p> <p>第3回 研究倫理審査1件（迅速審査1件）</p> <p>第4回 研究倫理審査4件（迅速審査2件、研究計画変更審査2件）</p> <p>第5回 研究倫理審査3件（迅速審査3件）</p> <p>第6回 研究倫理審査1件（研究計画変更審査1件）</p> <p>第7回 研究倫理審査1件（迅速審査1件）</p> <p>第8回 研究倫理審査2件（迅速審査1件、研究計画変更審査1件）</p> <p>3) メール審議 卒業生・修了生のAPRIN登録削除について</p>
次年度の課題	<p>1) 「人を対象とした生命・医学系研究に関する倫理指針」改定を周知する。</p> <p>2) 研究倫理審査過程、規程・運用細則を整備する。</p> <p>3) 教職員の倫理教育・研修を検討する。</p>

(8) 災害対策委員会

活動目的	<p>1) 災害情報の収集とその分析に関すること 2) 想定されるリスクの抽出、評価及び優先順位付けに関すること 3) 順位付けしたリスクへの対応策の検討、立案、実施に関すること 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内への周知に関すること 5) 教職員および学生等への教育・訓練の実施に関すること 6) 緊急時の情報伝達システムの整備に関すること 7) 災害時における危機対策本部を設置するときの場所の確保、備品、通信機器の準備に関すること 8) その他災害対策に関すること</p>
構成員	<p>委員長：小林洋子 委員：長尾佳世子、藤井愛海、河村諒、飯田大輔、渡辺達郎 事務局：総務課 渡辺達郎</p>
委員会開催回数	12回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 災害対応個別マニュアルについて 新型コロナウイルス感染予防対策について</p> <p>第2回 避難者受入構想について 災害対策備品について 災害対策委員会委員担当の整理について</p> <p>第3回 令和2年度 災害対策委員会委員担当の整理について 指定緊急避難場所構想について</p> <p>第4回 本学を一時避難所にする際の検討事項について 令和2年度 災害対策委員会年間計画の策定について</p> <p>第5回 防災訓練について</p> <p>第6回 防災訓練について 予算について</p> <p>第7回 防災訓練（安否確認）について</p> <p>第8回 備蓄品のローリングストック管理について 災害時の初動班の体制について</p> <p>第9回 備蓄品のローリングストック管理について</p> <p>第10回 自主避難場所施設利用に関する覚書について 防災マニュアル（携帯版）について</p> <p>第11回 防災マニュアル（携帯版）について ACカードについて 2020年度災害対策委員会総括について 2021年度年間計画等について</p> <p>第12回 ACについて 災害対応個別マニュアルについて 2020年度災害対策委員会総括について 2021年度年間計画等について</p>
次年度の課題	<p>1) 現状に則した内容に向けて「個別マニュアル第1版」と「AC」の内容を見直す。 2) コロナ禍での防災研修（2回実施予定）の感染防止を踏まえた方法を検討し、実施する。 3) 宮口一色自治区との覚書、関係事項（夜間対応、本学実習室等の利用）について（案）を提示する。 4) 月毎の各看護学領域の「救護班」担当を継続し、実施状況（結果）を提示する。</p>

6) アドミッションオフィス

アドミッションオフィスとは、入学試験・入学者選抜の方法等について、大学の方針を決定する委員会である。

活動目的	1) 多面的・総合的な入学者選抜方法の検討に関すること 2) 入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検証に関すること 3) 日本赤十字学園内における入学者選抜に係る連携に関すること 4) その他入試改革に関し必要な事項に関すること
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：村瀬智子、小林洋子、中島佳緒里、山田誠、中島伸一、山本章治 事務局：企画・地域交流課
開催回数	4回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 指定校について 試験科目について 第2回 指定校について 数学出題範囲について アメリカンスクール卒業生の高等学校長推薦選抜への出願について 第3回 令和3年度大学入学者選抜実施要項にかかる本学の課題について メール審議 高等学校長推薦選抜 推薦基準（案）について 出願資格申請書 様式について 出願資格申請結果通知書 様式について
次年度の課題	今後、大学独自選抜において、学力の3要素のうち「主体性・多様性・協働性」をどのように評価し、得点化するのか検討をする必要がある。

7) 外部資金獲得状況

(1) 令和2年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ3「地域社会への貢献」(地域連携型、プラットフォーム型)について、豊田市高等教育推進プラットフォームの構成大学として、プラットフォーム型に採択された。

(2) 日本赤十字豊田看護大学 私立大学等経常費補助金 獲得状況

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
計	104,985	99,165	171,478	120,177	124,745	117,296

(3) 外部研究助成金獲得状況(科学研究費 採択状況)

(単位：円)

番号	研究者名	種類	研究題名	事業年度	当年度補助金額
1	神道那美	挑戦的萌芽研究	小児看護の専門性を活かしたブレパレーションと診療報酬	2015 ~ 2021	—
2	巻野雄介	若手研究(B)	わが国の末梢静脈穿刺におけるウェアラブル静脈透過デバイスの有用性	2017 ~ 2020	—
3	河村諒	若手研究(B)	広域避難した高齢被災者に対する継続支援の実態と生活再建支援モデルの構築	2017 ~ 2020	—
4	中島佳緒里	基盤研究(C)	身体接触技術における情動評価尺度の開発と臨床応用	2017 ~ 2020	390,000
5	東野督子	基盤研究(C)	在宅で療養が必要な要介護高齢者に実施する効果的な口腔ケア教育プログラムの開発	2017 ~ 2020	390,000
6	石黒千映子	基盤研究(C)	糖尿病とがんの multimorbidity 患者のニーズと外来看護支援モデルの構築	2018 ~ 2021	1,170,000
7	千葉朝子	基盤研究(C)	母乳育児継続支援を目指した母乳育児中の母親の comfort 測定尺度の開発	2018 ~ 2021	1,040,000
8	野口眞弓	基盤研究(C)	マタニティ・ヨーガの産後うつへの低減効果とその最適化に関する研究	2018 ~ 2020	1,170,000
9	初田真人	基盤研究(C)	精神科訪問看護における利用者のエンパワメントに影響を与える訪問看護師の支援	2018 ~ 2022	910,000
10	清水美代子	基盤研究(C)	労働者のワーク・ファミリー・コンフリクト、職場環境と健康関連 QOL との関連	2018 ~ 2020	520,000
11	大谷喜美江	基盤研究(C)	地域包括ケア推進に向けた医療機関保健師に期待される実践能力評価指標の開発	2018 ~ 2020	1,300,000
12	稲垣恵一	基盤研究(C)	LGBTQ の人々の互助関係の研究——超高齢社会のコミュニティ形成のモデルとして	2018 ~ 2020	520,000
13	長田知恵子	基盤研究(C)	母乳育児支援専門のアドバンス助産師育成のための習熟度が判断できる搾乳モデルの開発	2019 ~ 2022	390,000
14	巻野雄介	基盤研究(C)	新たにエコーを導入した基礎看護技術演習の学習効果	2020 ~ 2023	3,250,000
15	坪之内千鶴	基盤研究(C)	精神科入院患者が書く「患者カルテ」の治療効果とその応用に関する研究	2020 ~ 2023	1,170,000
16	岡田摩理	基盤研究(C)	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	2020 ~ 2023	910,000
17	南谷志野	若手研究	協働意識醸成を目指した短時間勤務制度運用プログラムの開発と有用性の検証	2020 ~ 2023	650,000
18	棚川綾子	若手研究	糖尿病足病変患者の入院時における看護実践モデル構築に向けた基盤研究	2020 ~ 2022	390,000
19	藤井愛海	若手研究	災害時要配慮者を中核とするインクルーシブデザインによる地域減災モデルの構築	2020 ~ 2022	1,300,000
計					15,470,000

(4) 外部研究助成金獲得状況(老協協総研 令和2年度調査研究助成事業 採択状況)

(単位：円)

番号	研究者名	研究題名	事業年度	当年度補助金額
1	松田優子	特別養護老人ホームにおける感染対策に関する調査研究および感染対策の手引きの開発—新型コロナウイルス感染、インフルエンザ感染、ノロウイルス感染に焦点をあてて—	2020	794,837

6. 学部運営

1) 今年度の取り組み

2020年度の看護学部の取り組みにおける重点事項は、①新教育課程の導入・実施、②新型コロナウイルス感染症下における感染予防対策と教育の質を保証する体制づくりの2項目であった。

各項目についての取り組み状況は以下のとおりである。

(1) 新教育課程の導入・実施

本学は、開学以来、赤十字の理念に基づき、教育目的・目標を実現できることを目指した教育課程を編成してきた。しかし、特に本学の特長である災害看護学に関連した看護実践力を育成するための学修内容の強化、プロフェッショナリズムを育てつつ環境問題と健康との関連を理解する科目等の教養科目の拡充が課題であった。そこで、看護学学士課程教育の指針として提示された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」(2017年10月)と「看護学学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」(2018年6月)を受けて、ディプロマポリシーの見直しを行うと共に、2020年度に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正が予定されていることを鑑み、新教育課程を編成し、今年度から導入・実施した(p.52-54 新教育課程表 及び p.58-59 カリキュラムマップ参照)。

(2) 新型コロナウイルス感染症下における感染予防対策と教育の質を保証する体制づくり

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、2020年度前期は5月10日までは自宅学習とし、5月11日からTeams等を用いた遠隔授業を開始した。遠隔授業を実施するにあたっては、大学構内のWi-Fiの整備及び貸出用タブレットの提供等、学生が安心して遠隔授業を受講できるネット環境を整えるための支援を行った。慣れない授業形態や学生生活に対する不安を抱く学生への対応としては、チューターを中心に支援体制を整え、迅速に対応した。

後期からはZoomを導入し、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド形式で開講した。特に1年生は大学構内での対面授業の経験がないため、週に3日間を対面授業で開講し、2年生は2日間の対面授業とした。遠隔授業を実施するにあたっては、変更後のシラバスや授業開講スケジュールを周知徹底し、遠隔授業においても対面授業と等質の授業内容とするよう創意工夫して授業を実施した。

また、感染予防対策として、学生・教職員のマスク着用や手指消毒の徹底、教室の換気等の3密を避ける対策を講じると共に、本学の下間正隆ICD(Infection Control Doctor)による自作のイラスト資料を用いた講義・演習を全ての学生を対象として行い、日頃から健康観察を行うことの大切さを意識化することを周知した。特に、臨地実習においては、実習施設との綿密な調整を行い、臨地での安全を確保できる実習計画のもとに、臨床講義はZoomを用いて実施する等の工夫を行いながら、臨地実習と学内実習を組み合わせ教育の質を保証する体制を整えて実施した。

2) 学部委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
教授会		◎学部長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間教授、野口教授、長谷川教授、東野教授、福間教授、松浦教授、森特任教授、森田教授、山田教授、学長（オブザーバー）
教員会議		◎学部長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間教授、野口教授、長谷川教授、福間教授、東野教授、松浦教授、森特任教授、森田教授、山田教授、石黒准教授、大谷准教授、岡田准教授、長田准教授、清水准教授、中島准教授、南谷准教授、原田准教授、清水講師、神道講師、鈴木講師、竹内講師、千葉講師、栩川講師、長尾講師、橋本講師、初田講師、深谷講師、藤井講師、巻野講師、松田講師、遠藤助教、加藤助教、河村助教、高見助教、田口助教、坪之内助教、廣田助教、飯田助教、近藤助教、臼井助教、石田助手、岩本助手、石原助手、高下助手、鳥居助手、学長（オブザーバー）
教務委員会	（教務委員会）	◎小林（尚）教授、東野教授、松浦教授、大谷准教授、岡田准教授、原田准教授、竹内講師、千葉講師、学務課長
	実習検討委員会	◎原田准教授、石黒准教授、岡田准教授、清水准教授、南谷准教授、清水講師、千葉講師、巻野講師、学務課長
学生委員会	（学生委員会）	◎松浦教授、長谷川教授、石黒准教授、長田准教授、鈴木講師、千葉講師、栩川講師、長尾講師、深谷講師、学務課長
	国試対策委員会	◎東野教授、大西特任教授、福間教授、石黒准教授、長田准教授、清水講師、学務課長
研究推進・紀要委員会		◎野口教授、南谷准教授、初田講師、栩川講師、藤井講師、学務課長、経理係長
入試・広報委員会		◎中島准教授、森田教授、大谷准教授、岡田准教授、鈴木講師、清水講師、長尾講師、企画・地域交流課長、山本アドミッションオフィサー、事務局長（オブザーバー）
国際交流委員会		◎森特任教授、小林（洋）特任教授、長田准教授、鈴木講師、藤井講師、総務課長、村瀬司書

3) 教授会

活動目的	<p>教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 卒業認定及び学位の授与に関すること <p>前項各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものは、次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育課程の編成に関すること 2) 学生の履修に関すること 3) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更に関すること 4) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること 5) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること 6) 図書館の運営に関すること 7) 本学の国際交流に関すること 8) 本学が定める諸規程の規定により教授会での審議等を定めているもの 9) 学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること 10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること 11) その他学長が必要と認める事項
構成員	<p>議長：村瀬智子学部長 構成員：山田聡子、下間正隆、森久子、森田一三、福岡長知、松浦正子、野口眞弓、東野督子、小林尚司、大西文子、長谷川喜代美、小林洋子 オブザーバー：鎌倉やよい その他構成員：中島佳緒里 原田真澄 事務局：総務課 渡辺達郎</p>
委員会開催回数	19回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回 4年生の成人看護学実習について 既修得単位の認定について 第2回 オープンキャンパス代替え企画について 令和2年度各種委員会一覧の修正について 第3回 令和2年度前期定期試験における遠隔試験の実施について 令和2年度研究推進・紀要委員会の活動について WEBオープンキャンパスについて 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた後期授業開講方法について 第4回 学生支援緊急給付金（2次募集）について 日本赤十字豊田看護大学紀要 投稿規程（案）について 専任教員（基礎看護学領域助手）の任用について 第5回 名古屋第一赤十字病院の実習受入中止による実習計画の修正 第6回 令和2年度後期授業開講について 令和3年度卒業研究スケジュールについて 令和2年度後期の実習計画（案）について 出願資格審査について 令和2年度特待生B（3年生）選考試験結果 第7回 令和2年度後期授業開講について オープンキャンパス mini について 第8回 令和2年度保健師教育課程選抜試験結果について 令和2年度後期授業開講について タイ赤十字看護大学（STIN）学生とのZoomによる交流について 第9回 休学について 令和2年度前期成績について シラバスの電子化について 新型コロナウイルス感染症にかかる入学者選抜の対応について 第10回 次年度の授業の中に遠隔授業を取り入れるための方策について 学生規程の改正について 感染レベルによる課外活動について 看護師・保健師養成所指定規則の変更に伴う本学の教育課程の確認について 第11回 令和3年度日本赤十字豊田看護大学 赤十字特別推薦選抜入学試験、高等学校長推薦入学試験について 第12回 審議事項なし 第13回 学則の改正に伴う各種規程の改正について 第14回 令和3年度大学独自選抜試験結果について

活動概要	第15回	令和3年度大学入学共通テスト利用選抜（前期）結果について
	第16回	学生表彰について 保健室に関する規程について 令和3年度各種委員会構成一覧について 人事について 学則改正に伴う規程の見直しについて
	第17回	大学入学共通テスト利用選抜（後期）試験結果について
	第18回	1～3年生後期の成績認定について 学籍の異動について 2021年度前期 15回生臨地看護学実習計画表について 学生表彰について（1～3年生成績優秀者） 学生表彰規程について 令和3年度委員会構成メンバー 人事関係：昇任人事 COVID-19 ワクチン支援協力に関する計画変更について
	第19回	学籍異動について

4) 学部委員会の活動報告

(1) 教務委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程に関する事項 2) 試験及び単位認定に関する事項 3) 復学及び除籍に関する事項 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 5) 実習に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教育運営に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：小林尚司</p> <p>委員：東野督子、松浦正子、岡田摩理、原田真澄、大谷喜美江、竹内貴子、千葉朝子、平野二郎</p> <p>事務局：学務課 安井康介、賀茂綾子</p>
委員会開催回数	19回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育課程に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染症拡大に伴い授業方法が対面授業と遠隔授業の併用に変更になったため、実施できる体制を整備した。次年度に向け、感染症の動向に伴う授業方法変更の方針を整備した。 (2) 看護プロフェッショナルセミナーの遠隔授業の実施を支援した。WGを編成し、今年度のアンケート結果を基に次年度の計画を検討した。 (3) 令和3年度卒業研究を令和3年2月開始とし、授業計画の自由度拡大を図った。 (4) 学内Wi-Fiの整備を受け、シラバスは学務システム掲載とし、事務効率化と閲覧性向上を図った。 (5) カリキュラムマップに沿って、各授業科目の目的目標とディプロマポリシーとの連関を確認し、科目担当教員にフィードバックした。 2) 試験及び単位認定に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 前期に遠隔試験実施要領を作成し、後期はzoomの整備を受け、より厳格に実施できるよう修正した。科目担当教員から提出された評価に基づき、成績および単位認定を審議し承認した。 3) 復学及び除籍に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 退学（4名）・休学（2名）について審議し承認した。復学者はなかった。 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度推薦入学試験合格者を対象に、授業見学と在学生および教員との交流会をオンラインで開催した。参加者は合計で31名であった。 5) 実習に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 実習計画の立案に向け、学生の単位修得等の情報を実習検討委員会へ伝達した。 6) 非常勤講師等に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の依頼申請（12件）と科目内時間講師・学外協力講師（18件）の審査を行った。 7) その他教育運営に関して必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> 保健師教育課程専攻の選抜試験の説明はオンラインを用いた。出願者35名で22名を選抜した。 学務システムの機能追加により、後期から授業評価アンケートをオンラインとし効率化を図った。
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 看護プロフェッショナルセミナーの展開のサポート 2) 入学前教育の改善 3) 新カリキュラムに対応した授業開講スケジュールの作成 4) 授業評価の実施方法の評価

(2) 実習検討委員会

活動目的	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 年間の実習計画と調整</p> <p>(2) 実習要項検討</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p>
構成員	<p>委員長：原田真澄</p> <p>委員：石黒千映子、岡田摩理、清水みどり、南谷志野、清水美代子、千葉朝子、巻野雄介、平野二郎</p> <p>事務局：学務課 賀茂綾子</p>
委員会開催回数	12回
活動概要	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 15回生の臨地看護学実習計画表（2020年度後期～2021年度前期）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたことから、感染予防対策本部の方針に沿い、作成した。</p> <p>(2) 臨地実習開始前に、学生に対して感染予防講義および演習を実施した。</p> <p>(3) 臨地実習を行う学生に対して、「予防接種確認表」は常に携帯するよう指導した。</p> <p>(4) 「領域別統合実習 総括」のフォーマットを作成し、領域からの総括を取りまとめた。また、2021年度の実習に向けて、学生の希望調査の取りまとめと領域別統合実習配置案を作成した。</p> <p>(5) 看護師教育における卒業時の技術到達度自己評価、および保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度自己評価について報告した（看護師：12月 保健師：1月）。</p> <p>(6) 事故・ひやりはっと報告書は、14件（事故3件、ひやりはっと11件）であった。</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>2020年度の臨地実習は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことから、感染対策について、各実習施設と綿密な調整・確認を行った。</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p> <p>実習衣等の購入について、生協を窓口としたWEB注文に切り替えた。</p>
次年度の課題	<p>1) 2022年度の改正教育課程に基づく実習計画の準備及び実施</p> <p>2) 「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度（改正案）」（2019年10月）に沿った内容の変更の検討</p> <p>3) 年間事業の実施</p> <p>4) その他</p>

(3) 学生委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 2) 学生の健康管理に関する事項 3) 学生の課外活動に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 奨学金に関する事項 7) 国家試験対策に関する事項 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項
構成員	委員長：松浦正子 委員：長谷川喜代美、長田知恵子、石黒千映子、棚川綾子、千葉朝子、鈴木寿摩、長尾佳世子、深谷由美、平野二郎 事務局：学務課 谷川歩
委員会開催回数	10回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生相談について 毎週月、木曜日 午前 11 時 30 分～午後 1 時、午後 2 時～午後 6 時で実施した。 2020 年度は対面だけでなく、オンラインでの相談も行った。 春季休暇（3 月）1 か月は閉室とした。 2) 学生の健康管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 定期健康診断について 2020 年 7 月 4 日（土）、7 月 11 日（土）に実施した。 (2) B 型肝炎予防接種について 2020 年 8 月 5 日（水）に実施した。第 2 回、第 3 回は個人接種とした。 (3) インフルエンザ予防接種について 個人接種とした。 (4) 予防接種説明会の実施について 1 年生を対象とした感染抗体結果の見方や予防接種の説明会を令和 2 年 8 月 5 日（水）に実施した。 3) 学生の課外活動に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自治会支援について 総会の開催や選挙の実施等、自治会の規約に則って活動できるよう支援した。 (2) いとすぎ祭支援について 2020 年度は中止となった。 (3) 六大学交流会について 2020 年度は中止となった。 (4) 学生団体（サークル等）顧問の役割について 学生団体（サークル等）顧問の役割申し合わせ事項を作成した。 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生表彰について 2020 年度の表彰者は、個人 7 名とした。 4 年生は卒業式、1～3 年生は在学生オリエンテーションで表彰を行った。 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の進路について 2020 年度卒業生（132 名）の進路状況は以下のとおりであった。 就職（看護師）128 名 進学 2 名 国家試験不合格 2 名 (2) 就職ガイダンスの実施について 以下の日程でオンラインにて就職ガイダンスを実施した。 3 年生対象：2020 年 6 月 25 日（木）、2021 年 1 月 15 日（金）、2021 年 1 月 26 日（火） 1、2 年生対象：2021 年 2 月 8 日（月） 6) 奨学金に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の進路について 2020 年度は入学式が中止となったため、外部の方を招いての奨学金説明会・就職説明会は中止した。 7) 国家試験対策に関する事項 国家試験対策委員会参照 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 新入学生オリエンテーションについて 4 年新入学生オリエンテーションが縮小されたことから、新入学生が予防接種、学内施設、自治会について理解を深めることを目的とし、2020 年 7 月 9 日（木）、7 月 30 日（木）にオリエンテーションを実施した。
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 自治会活動のサポートについて 2) サークル顧問の役割の周知徹底について

(4) 国家試験対策委員会

活動目的	<p>1) 国家試験対策に関する事項 2) 学生への個別指導に関する事項 3) 国家試験受験手続に関する事項 4) その他国家試験に関して必要な事項</p>
構成員	<p>委員長：東野督子 委員：大西文子、福岡長知、石黒千映子、長田知恵子、清水美代子、平野二郎 事務局：学務課 安井康介</p>
委員会 開催回数	9回
活動概要	<p>1) 国家試験対策に関する事項 (1) 4年生の国家試験模擬試験について、看護師は8回、保健師は3回実施した。 (2) 4年生の国家試験対策補講について、8セメスターから看護師および保健師科目について実施した。一部にオンデマンドを含む。※ (3) 国家試験後の自己採点を、感染対策および事務処理の効率化を図るため全面的にWebを用いて実施した。 (4) 3年生への看護師及び保健師国家試験ガイダンスをリアルタイム配信形式とした。※ (5) 3年生の早期国家試験対策として必修模試の2月に実施した。※ (6) 2、3年生に対して第110回看護師国家試験問題を3月に実施した。※ (7) 卒業生講話はあらかじめ作成した講話風景の動画をオンデマンド配信にて実施した。※ 2) 学生の個別指導の調整に関する事項 (1) 新卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の合格100%を目指し、自己採点・業者からの結果から成績不良者を抽出し、補講への積極参加の管理及びチューターとの面談依頼等の支援を依頼した。 (2) 既卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の不合格者への連絡を取り、合格を目指した。 3) 国家試験受験手続に関する事項 (1) 看護師国家試験、保健師国家試験の受験手続きのとりまとめ等を例年通り実施した。 4) その他国家試験に関して必要な事項 (1) 国家試験壮行会をオンデマンド配信にて実施した。※ (2) 国家試験受験票について新型コロナウイルス感染予防対策として、希望者に対して受験票の郵送と来校可能者に対しては、密にならない時間別に配布した。※ (3) 新型コロナウイルス感染対策の観点より、①模試の自宅受験、②各種イベントのオンライン実施、③自己採点のWeb実施等の対応へ変更した。 ※印は令和元年度から対応を変更した項目を示している。</p>
次年度の 課題	<p>1) 新卒者の看護師国家試験、保健師国家試験の100%合格 2) 早期からの国家試験対策への支援 3) 国家試験対策の学習環境支援 4) 模擬試験手続き等の業務の適正化</p>

(5) 研究推進・紀要委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進に関する事項 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 4) 紀要の発行に関する事項 5) その他、紀要に関して必要な事項
構成員	委員長：野口眞弓 委員：南谷志野、榎川綾子、初田真人、藤井愛海、平野二郎、田内真由美 事務局：学務課 村上久子
委員会開催回数	6回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進に関する事項 2020年8月26日(水)13:00～14:00まで「採択される研究計画書の書き方」を60分で説明した。内容は、今年度、科学研究費補助金の基盤研究(C)を獲得した岡田摩理先生、科学研究費補助金の若手研究を獲得した南谷志野先生、榎川綾子先生、藤井愛海先生から研究計画書作成のポイント、審査員経験者の鎌倉やよい先生から審査員からみた研究計画書のポイントを説明した。教職員38名が参加した。本研修は、FD・SD委員会との共催である。 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 科学研究費の採択状況から、間接経費の予算を確認した。 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 間接経費の使途アンケートを実施し、備品などを整備した。 4) 紀要の発行に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 紀要の特集 2020年度の特集は「日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染予防対策」とし、新型コロナウイルス感染予防対策本部の本部長をはじめ、各班および作業部に執筆を依頼し、本学の新型コロナ感染予防の具体的な活動を掲載した。 (2) 投稿論文 2020年度は研究報告1編を掲載した。 (3) 紀要の電子化 2020年度から紀要を電子化した。 (4) 投稿規程などの整備 日本赤十字豊田看護大学紀要 投稿規程、執筆要領を改正し、さらに、査読の過程に編集委員会によるスクリーニングを追加し、査読ガイドラインや査読に必要な書式の変更をおこなった。 (5) 編集委員会 編集委員会を4回開催した。
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教育研究活動の推進と競争的資金(科学研究費)の間接経費の使途 研究活動を推進するよう教育活動をするとともに、研究活動を推進する環境を整備するために競争的資金(科学研究費)の間接経費の使途について検討する。 2) 紀要の発行 日本赤十字豊田看護大学紀要17巻を発行する。次年度の状況を考慮し、特集内容を決定する。

(6) 入試・広報委員会

活動目的	<p>1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 4) 面接及び健康診断等の方法に関する事項 5) 合否判定資料の作成に関する事項 6) その他入学試験に関して必要な事項 7) 広報誌等の発行に関する事項 8) ホームページに関する事項 9) その他広報に関して必要な事項</p>
構成員	<p>委員長：中島佳緒里 委員：森田一三、岡田摩理、大谷喜美江、鈴木寿摩、清水美代子、長尾佳世子、中島伸一、山本アドミッションオフィサー 事務局：企画・地域交流課 立川俊彦、奥映理菜 オブザーバー：山田誠</p>
委員会開催回数	<p>12回</p>
活動概要	<p>1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 (1) 進学説明会 8回の進学説明会に参加し、137名の高校生が本学のブースを訪れた。他11回の進学説明会に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止となった。 (2) オープンキャンパス 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、規模を縮小して人数制限を設けたオープンキャンパス mini を計4回(2回/日)開催した。高校生・既卒者55名、保護者41名、その他1名が参加した。 (3) WEB オープンキャンパス 各領域の紹介や入試等についての動画を作成し、ホームページ上で公開した。 (4) Zoom 個別相談会 受験生が在学学生に直接、質問できる機会としてZoomを使用したオンライン相談会を計3回開催し、高校生24名が参加した。 (5) 進学情報交換会 オンライン上で高校の教員を対象とした進学情報交換会を開催し、5校の高校が参加した。 (6) 高校訪問 86校の高校に高校訪問を行った。(91校訪問予定であったが、内5校は進学情報交換会参加。) (7) web 出願システムの導入 昨年度より大学独自選抜、大学入学共通テスト利用選抜でweb出願システムを導入し、今年度は学校推薦型選抜においても導入した。出願、合否発表ともに問題なく稼働した。 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 学校推薦型選抜と大学独自選抜において、新型コロナウイルス感染症の発生により、中止・延期となった大会や資格・検定試験等に参加できず、その結果を高等学校等における部活動等の諸活動の実績や資格・検定試験等の成績として記載できない場合において、そのことをもって志願者が不利益を被ることがないように英語外部検定試験、調査書を加点对象から外した。また、学校推薦型選抜と社会人特別選抜において小論文の配点を50点とし、総点150点とした。 志願者の減少に歯止めをかけることや新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学業の遅れに配慮する観点から、大学独自選抜における選択科目の出題範囲を変更し、「数学Ⅰ(数と式・図形と計量・二次関数・データの分析)・数学A(整数の性質・場合の数と確率、図形の性質)」、「化学基礎」、「生物基礎」からの選択とした。 大学入学共通テスト利用選抜において、英語4技能を測るため、英語のリスニングを含めた。 大学入学共通テスト利用選抜(前期B)において、選択科目を「国語」、「数学」から1つ、理科の「基礎科目2科目」、「化学」、「生物」、「物理」、「地学」から1つの選択に変更した。 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 順位付けの原則について審議し、科目・配点の変更に基づき、変更した。 4) 面接及び健康診断等の方法に関する事項 昨年と同様の方法で面接を行った。 5) 合否判定資料の作成に関する事項 過去の歩留まりや倍率を参考とし、合否判定資料を作成した。 6) その他入学試験に関して必要な事項 高等学校長推薦選抜において、外国において教育を受けた者にも門戸を開くため、アメリカンスクール卒業(見込)の受験生が出願できるよう「(2) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準じる者で文部科学大臣の指定したもの」、「(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和3年3月修了見込みの者」を追加した。ただし書きとして(2)については「出願資格審査」を行うことを明記し、出願資格審査により、評定平均が3.6以上と同等の成績を修めているかを審査する仕組みを整えた。 7) 広報誌等の発行に関する事項 いとすぎの丘を5月と11月に発行した。</p>

活動概要	<p>8) ホームページに関する事項 下間教授が作成した新型コロナウイルス感染症予防関連スライドを公開した。</p> <p>9) その他広報に関して必要な事項 SNS (Twitter、LINE、Instagram) による情報発信を実施した。Twitter 上で質問箱を設置し、入試や学生生活に関する質問を受け付けた。 ディスプレイ広告を推薦選抜及び大学独自選抜の出願期間に配信を行った。</p>
次年度の課題	<p>1) 志願者の確保 志願者の確保のための対策を講じる必要がある。大学独自選抜における出題範囲の変更を受験生に広く知らしめるため、進路指導教諭を対象にした高校側への周知の徹底、大手進学塾の大学ランキングブックへの掲載、Web の活用などの広報戦略を強化することを検討する。</p> <p>2) 入試改革に対する対応 文部科学省・大学入試センターからの通知をもとに令和 4 年度入試について検討する。また、大学独自選抜における「主体性・多様性・協働性」の評価方法について、検討する。</p>

(7) 国際交流委員会

活動目的	<p>日本赤十字豊田看護大学 国際交流委員会規程第 2 条に定める以下の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の国際学術交流に関する事項 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 4) その他学長が必要と認める事項
構成員	<p>委員長：森久子 委員：小林洋子、長田知恵子、鈴木寿摩、藤井愛海、恒川美智子、村瀬悠香代 事務局：総務課 中根春波、渡辺達郎</p>
委員会開催回数	4 回
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の国際学術交流に関する事項 特に活動せず。 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 2020 年度は本学からタイ赤十字看護大学（STIN: Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing）に学生を派遣する計画をしていたが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施できなかった。 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 対面での交流が実施できなかったため、初めての試みとして令和 2 年 12 月 23 日（水）に STIN とオンラインによる交流を実施した。本学からは 4 年生 3 名と 1 年生 8 名、STIN からは約 20 名と多くの学生が参加した。本学の学生は事前に準備したパワーポイントを使って日本の新型コロナウイルスの感染状況や感染対策を話し、STIN からはタイの新型コロナウイルス感染下での学生生活などを話した。互いの国の医療の状況を学ぶとともに、会話の中で垣間見える互いの文化や習慣の違いに時折驚いたり感心したりと楽しみながら交流することができ、参加した学生へのアンケート結果でも回答者全員が「満足」「ほぼ満足」と答えており満足度が高かった。 4) その他学長が必要と認める事項 特に活動せず。
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の国際学術交流に関する事項 STIN との MOU に基づき国際学術交流を進める。 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 STIN からの学生受入を引き続き継続し、より良い活動になるように検討する。 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しながら、英国語学研修の計画を継続する。 STIN とのオンラインによる交流の機会を増やすとともに、より多くの学生が参加できるよう開催時期や募集方法等を検討する。 学生及び教職員が国際交流活動に触れる機会を提供できるよう、他の国際関連施設との交流の可能性を探る。

7. 研究科運営

1) 今年度の取り組み

(1) 新教育課程について

2019年度より修士課程の新教育課程を開始した。2021年3月に新教育課程の修了生を輩出し、新教育課程の完成年度を迎えるに至った。新教育課程では、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーの改正を行い、専門分野・領域の改編等を行った。また、入学生の志望に沿って「研究・教育者コース」「専門看護師コース」「認定看護管理者コース」の3コース設定とした。新教育課程自体の評価は今後順次進めていくことになるが、現時点では順調に進んでいる。

(2) 履修証明プログラムの改編について

修士課程科目を活用した履修証明プログラムを開講している。プログラム内容を見直し、受講生がより学びやすい時間数と内容にする改編を行った。「看護研究プログラム」「看護教育プログラム」各60時間を本学の新たな履修証明プログラムとして受講生の受付を開始した。いずれのプログラムも、文部科学省が認定するBP (Brush up program for professional) に採択された。

(3) 新サテライトキャンパスの開設について

名古屋第二赤十字病院の敷地内に建設された日赤愛知災害管理センター棟内に、サテライトキャンパスを移転した。ネットワーク環境を整備した講義室、共同研究室、図書室兼情報処理室が設置され、名古屋市営地下鉄最寄りの立地も相まって利用しやすい施設となっている。

(4) 共同看護学専攻（博士後期課程）責任校としての活動について

日本赤十字学園が所管する5大学（日本赤十字北海道看護大学・日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字豊田看護大学・日本赤十字広島看護大学・日本赤十字九州国際看護大学）で開設している看護学研究科共同看護学専攻（博士後期課程）の責任校として運営を担っている。専攻長を本学の学長が担い、事務局を本学の学務課に設置している。2020年度は2年目の責任校担当であり、運用に関する申し合わせ事項の見直し等、整備を進めた。

2) 課題

(1) 修士課程の定員充足について

修士課程入学者の定員割れが継続している。大学院入試広報委員会を中心とした広報活動を展開しているが芳しくない状況である。新教育課程が軌道に乗ったことを踏まえ、地道な広報活動や各教員のネットワークによる優秀な学生の確保に尽力する。併せて、新たな対策を検討する必要がある。

(2) 博士後期課程の修了者輩出について

博士後期課程の開設後、本学の修了者輩出に未だ至っていない。2020年度はコロナ禍での研究進捗の難しさが背景にあった。学生支援を継続し、次年度修了者輩出を目指す。

3) 研究科委員会組織および委員一覧

委員会名	メンバー
大学院研究科委員会	◎研究科長、事務局長、大西特任教授、小林（尚）教授、小林（洋）特任教授、下間教授、野口教授、長谷川教授、福間教授、東野教授、松浦教授、村瀬教授、森田教授、大谷准教授、岡田准教授、長田准教授、清水准教授、中島准教授、南谷准教授、原田准教授、長尾講師、藤井講師、巻野講師、学長（オブザーバー）
大学院入試・広報委員会	◎小林（尚）教授、森田教授、松浦教授、中島准教授、企画・地域交流課長、山本アドミッションオフィサー
大学院教務・学生委員会	◎長谷川教授、小林（尚）教授、山田教授、南谷准教授、学務課長

4) 研究科委員会

活動目的	<p>1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること</p> <p>2) 修了認定及び学位の授与に関すること</p> <p>3) 教育課程の編成に関すること</p> <p>4) 学生の履修に関すること</p> <p>5) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更に関すること</p> <p>6) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること</p> <p>7) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること</p> <p>8) 本学が定める諸規程の規定により研究科委員会での審議等を定めているもの</p> <p>9) 大学院学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること</p> <p>10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること</p> <p>11) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：山田聡子</p> <p>委員：村瀬智子、山田誠、下間正隆、福間長知、森田一三、松浦正子、東野督子、小林尚司、野口真弓、大西文子、長谷川喜代美、小林洋子、中島佳緒里、南谷志野、清水みどり、長田知恵子、岡田摩理、原田真澄、大谷喜美江、巻野雄介、長尾佳世子、藤井愛海</p> <p>オブザーバー：鎌倉やよい</p> <p>事務局：総務課 中根春波</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 既修得単位の認定について 修士課程入学学生の指導担当教員、および退職教員に代わる指導担当教員について 令和2年度前期「看護管理学特論」の開講中止および前期履修登録について</p> <p>第2回 審議事項なし</p> <p>第3回 審議事項なし</p> <p>第4回 修士課程 研究計画審査員について</p> <p>第5回 修士課程入学試験結果の判定について 学籍の異動について 令和3年度研究生等の受け入れスケジュールについて 令和2年度前期成績認定について 論文審査規程の改正について</p> <p>第6回 修士課程の科目担当者について（教授のみ） 共同看護学専攻の科目担当者について（教授のみ） 令和3年度入学予定者 長期履修学生申請について 学籍の異動について</p> <p>第7回 カリキュラムマップについて 次年度の入学試験および説明会日程について</p> <p>第8回 「コンサルテーション論」の非常勤講師について（教授のみ） 令和3年度第2回大学院入試の追試験について</p> <p>第9回 修士課程の科目担当者について（教授のみ） 博士課程2年生の長期履修学生申請について</p> <p>第10回 修士課程修了判定について 令和3年度 研究生・履修証明プログラム履修生および令和3年度前期科目等履修生・聴講生の受入について 令和3年度前期の学籍異動について 令和3年度 時間割および講義スケジュールについて 大学院学則に関わる規程の改正について 令和3年度研究科関係 委員会構成について</p> <p>第11回 令和3年度入学予定者長期履修学生申請の許可について 令和2年度後期科目の単位修得状況について 日本赤十字豊田看護大学第三次中期計画書（令和3年度）について</p>
次年度の課題	<p>2020年度計画通り活動することができた。教育の質保証委員会の主導のもとで研究科関連ポリシーの整合確認が完了した。また、関係法規の改正および学園準則改正に伴う大学院学則の改正に引き続き関係規程の改正も無事に完了した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う教育環境への影響が危惧されたが、関係者の尽力により特段の影響なく経過できた。今後は、主に修士課程の定員確保が課題である。</p>

5) 大学院委員会の活動報告

(1) 大学院教務・学生委員会

活動目的	1) 教育課程及び履修に関する事項 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項																														
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：山田聡子、小林尚司、南谷志野、平野二郎 事務局：学務課 小島裕子																														
委員会開催回数	17回																														
活動概要	1) 教育課程及び履修に関する事項 (1) カリキュラムマップの見直し ディプロマポリシーと授業科目の目的・目標の連関（整合性）を確認し、カリキュラムマップの見直しを行った。 (2) 研究計画発表会 研究計画発表会を以下のとおり実施した。 第1回 開催日：2020年7月3日（水）発表者：5名 第2回 該当者なし (3) 修士論文・課題研究論文発表会 修士論文・課題研究論文発表会を以下のとおり実施した。 開催日：2021年1月22日（木）発表者：4名 (4) 研究計画審査 研究計画審査件数は、7件であった（新型コロナウイルス感染拡大の影響による再申請2件含む）。 (5) 修士論文・課題研究論文審査 修士論文及び課題研究論文審査件数は、4件であった。 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 (1) 単位修得状況の確認 各科目担当教員から提出された試験結果により、前期、後期科目の単位修得状況を確認した。 (2) 研究科目の成績評価方法の検討 本学の教育課程に関する外部評価結果をふまえ、次年度から、研究科目（「特別研究」および「課題研究」）の成績を100点満点で点数評価し、S～Dの5段階で表すこととした。 3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項 (1) 学生の入学、退学、休学、復学 学生の入学、退学、休学、復学者数は表1のとおりであった。 表1 2020年度 学生の入学、退学、休学、復学者数 （単位：名） <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>修士課程</th> <th>博士課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>退学</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>休学</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>復学</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※博士課程入学は転入学</p> (2) 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れ 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れは、表2のとおりであった。 表2 2020年度 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生受入数 （単位：名） <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究生</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>履修証明プログラム履修生</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>科目等履修生</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>聴講生</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		修士課程	博士課程	入学	4	1	退学	0	0	休学	4	4	復学	2	1		前期	後期	研究生	2		履修証明プログラム履修生	0	0	科目等履修生	0	2	聴講生	1	0
	修士課程	博士課程																													
入学	4	1																													
退学	0	0																													
休学	4	4																													
復学	2	1																													
	前期	後期																													
研究生	2																														
履修証明プログラム履修生	0	0																													
科目等履修生	0	2																													
聴講生	1	0																													

活動概要	<p>4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 学内での健康診断を案内した。</p> <p>5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 学位論文の投稿・掲載状況および認定看護管理者・専門看護師の取得者数を確認した。</p> <p>6) 非常勤講師等に関する事項 新規非常勤講師を大学院科目・研究担当審査委員会に申請した。 科目時間内講師・学外協力講師申請者を審査した。</p> <p>7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項 (1) 大学院特別講演会の開催 テ ー マ：研究協力施設における研究の実施 - 研究の依頼方法と所属施設における研究の実施 - 講 師：看護管理学 松浦正子教授 日 時：2020年8月21日(金) 18:00～19:30 場 所：日本赤十字豊田看護大学 大講義室2 参加人数：38名(内訳：本学大学院生・研究生20名、教職員18名)</p>
次年度の課題	<p>1) 新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて遠隔授業等を調整し学習支援を行う。</p> <p>2) 授業評価アンケートにおけるディプロマポリシーに関する設問に関して、アンケート結果を有効に活用できるよう、設問意図の周知の工夫、アンケート結果の取りまとめの再検討を行う。</p> <p>3) 成績評価方法の変更(研究科目)について円滑な運用を図る。</p>

(2)大学院入試・広報委員会

活動目的	<p>1) 学生の確保、学生募集に関する事項 2) 学生募集要項に関する事項 3) 入学者の選抜方法に関する事項 4) 入学試験の実施に関する事項 5) その他入学試験に関する事項</p>
構成員	<p>委員長：小林尚司 委員：森田一三、松浦正子、中島佳緒里、中島伸一、山本章治 事務局：企画・地域交流課 立川俊彦、奥映理菜</p>
委員会開催回数	10回
活動概要	<p>1) 学生の確保、学生募集に関する事項 (1) 大学院説明会 7月18日(土)及び11月7日(土)に、オンラインと対面を併用して開催した。参加者は、7月は修士課程3名、11月は修士課程2名・博士課程4名であった。 (2) 大学院説明会の案内の作成と配布 大学院説明会の案内は、国公立大学(88大学)、私立大学(181大学)、中部圏の専門学校(95校)、赤十字病院(77病院)、県内病院(188病院)、実習施設(90施設)、卒業生(589名)に送付した。 (3) 授業見学 感染症予防対策の影響があり、後期授業のみの実施となった。参加者は3名(現任教育論1名、人的資源活用論1名、看護政策論1名)であった。授業見学の案内は、中部ブロック赤十字病院(19病院)、入学実績がある施設・実習施設等(12施設)、県内看護専門学校(36校)に送付した。 (4) ホームページの修正 教員紹介のページに、メールアドレスと研究指導内容を追記した。修士課程と博士課程で構成を統一させる修正を行った。 2) 学生募集要項に関する事項 2019年度に修正した修士課程の募集要項の運用を開始した。次年度以降は、詳細な点検を継続する。 3) 入学者の選抜方法に関する事項 2018年度に試験問題作成要領・面接実施要項を作成し、継続して活用した。 4) 入学試験の実施に関する事項 2020年9月23日(水)及び令和3年2月22日(月)の2回実施した。受験者は7名(修士課程3名、博士課程4名)であった。 5) その他入学試験に関する事項 大学院学則改正に伴い入学資格審査規程の改正を行った。</p>
次年度の課題	<p>1) 大学院説明会の開催について 2) 学生募集活動の展開について</p>

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本学は、大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第83条)と、建学の精神である人道を基盤とした赤十字の思想を備えた人材を涵養する。

それは、赤十字の理念に基づく全人的、科学的な看護を実践するための主体的な行動力、感性を兼ね備えた人間性と社会性豊かな個人を育み、さらには国内外の保健・医療・福祉・救護の場で個人を尊重した看護活動ができる基礎力を有し、看護の教育・研究の発展に資することができる看護専門職の育成をすることである。

【教育目標】

これらの教育理念と目的を達成するために、以下に(1)～(6)の目標を置く。

- (1) 赤十字の人道理念を実践できる看護専門職を育成する。
- (2) 人格的成熟・自立をはかり、他者との関係性を発展させることができる能力を培う。
- (3) 事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる能力を育む。
- (4) 看護の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づく看護を提供できる能力を養う。
- (5) 社会的責任を自覚し、生涯にわたって学習し、他の専門職と協働活動し得る能力を養う。
- (6) 常に世界に関心を持ち、看護実践を通じて国際貢献できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

本学の教育理念、教育目的、教育目標を実現することを意図したカリキュラムを編成し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士(看護学)の学位を授与する。卒業までに以下に挙げるようなことを身に着けていることが求められる。

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。
- (2) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。
- (3) 一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。
- (4) 事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
- (5) 健康問題に対する人間の反応を把握し、個性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。
- (6) 地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。
- (7) 自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。
- (8) 国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。
- (9) 災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。

3) 教育課程表

教育課程表（2017年度～2019年度入学者適用）

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数								計			
		必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次					
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
教養科目	人間	心理学	2		30	必修 14単位 選択 7単位以上 選択	2									2	
		教育学		2	30			2									2
		人間発達論		2	30			2									2
		倫理学		2	30			2									2
		法学・日本国憲法		2	30			2									2
		音楽論		2	30			2	2								2
		英語Ⅰ	2		45			2									2
		英語Ⅱ	2		45				2								2
		英語Ⅲ	1		30					1							1
		英語Ⅳ	1		30						1						1
		上級英語		1	30							1					1
		スペイン語		1	30				1								1
		ポルトガル語		1	30				1								1
		中国語		1	30					1							1
	フランス語		1	30						1						1	
	環境	社会学	2		30					2							2
		経済学		2	30				2								2
		生活科学		2	30			2									2
		文化人類学		2	30			2									2
		日本文化論		2	30				2								2
		人間工学		2	30				2								2
健康	スポーツ健康科学	1		30			1								1		
	スポーツレクリエーション実技	1		30		1									1		
	看護ふれあいセミナー	1		30		1									1		
	スタディスキルズセミナー	1		30		1									1		
	ボランティア活動論		1	30			1								1		
	小計	14	26	810	21	17	16	4	2	1	0	0	0	0	40		
専門基礎科目	人間	形態機能学Ⅰ	2		60	必修 26単位	2									2	
		形態機能学Ⅱ	2		60			2								2	
		免疫学	1		15			1									1
		栄養代謝学	1		30			1									1
		生命倫理	1		15					1							1
		公衆衛生学	1		15				1								1
	環境	社会福祉学	1		30				1								1
		保健医療福祉行政論Ⅰ ※	1		15					1							1
		保健医療福祉行政論Ⅱ ※		2	30						2						2
		情報基礎		1	15			1									1
		情報処理		1	15							1					1
		保健情報演習 ※	1		30				1								1
		保健統計 ※	1		30					1							1
		疫学Ⅰ ※	1		15							1					1
		疫学Ⅱ ※		1	30							1					1
		薬理学	1		30					1							1
	健康	微生物学	1		30			1									1
		疾病・病態学	1		30				1								1
		成人・老年疾病・治療論Ⅰ	2		60					2							2
		成人・老年疾病・治療論Ⅱ	1		30						1						1
		母性疾病・治療論	1		30							1					1
		小児疾病・治療論	1		30								1				1
		精神疾病・治療論	1		30								1				1
		リハビリテーション論	1		30						1						1
		臨床心理学		1	15				1								1
		カウンセリング論		1	15					1							1
赤十字	赤十字原論	1		15		1									1		
	赤十字と活動	1		15			1								1		
	赤十字救急法	1		30			1								1		
	国際救援と英語		1	30				1							1		
	小計	26	8	825	26	7	9	9	6	3	0	0	0	0	34		

教育課程表（2020年度以降入学者適用）

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数								計			
		必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次					
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
教養科目	人間	哲学	1	15	必修 15単位 選択 7単位 以上		1								1		
		教育学	2	30			2									2	
		生命倫理	1	15					1								1
		人間発達論	1	15			1										1
		家族論	1	15				1									1
		法学・日本国憲法	2	30			2										2
		音楽論	1	15				1									1
		英語Ⅰ	1	30			1										1
		英語Ⅱ	1	30				1									1
		英語Ⅲ	1	30					1								1
		英語Ⅳ	1	30						1							1
		英語Ⅴ	1	30							1						1
		上級英語	1	30											1		1
		スペイン語	1	30				1									1
	ポルトガル語	1	30					1								1	
	環境	社会学	2	30			2										2
		環境問題と健康	1	15			1										1
		文化人類学	2	30			2										2
		日本文化論	1	15				1									1
		情報リテラシー	1	15			1										1
		健康	1	15				1									1
	赤十字	スポーツ健康科学	1	15				1									1
		スポーツレクリエーション実技	1	30			1										1
		遺伝と健康	1	15								1					1
		看護プロフェッショナルセミナー	1	30			1										1
		ボランティア活動論	1	30				1									1
赤十字原論		1	15		1										1		
赤十字と活動	1	15			1									1			
赤十字総合セミナー	1	15			1									1			
小計	15	17	645	22	13	13	2	1	1	1	0	1		32			
専門基礎科目	人間	形態機能学Ⅰ	2	60	必修 21単位	2										2	
		形態機能学Ⅱ	2	60			2									2	
		形態機能学Ⅲ	1	15			1										1
		免疫学	1	15			1										1
		栄養代謝学	1	30			1										1
		人間工学	1	30				1									1
	環境	公衆衛生学	1	15				1									1
		社会福祉学	1	30				1									1
		保健医療福祉行政論Ⅰ ※	1	15					1								1
		保健医療福祉行政論Ⅱ ※	2	30					2								2
		保健情報演習 ※	1	30				1									1
		保健統計 ※	1	30					1								1
	健康	疫学Ⅰ ※	1	15							1						1
		疫学Ⅱ ※	1	30							1						1
		薬理学	1	30					1								1
		微生物学	1	15			1										1
		感染制御論	1	15					1								1
		病理学	1	15				1									1
		臨床検査概論	1	15					1								1
		リハビリテーション論	1	30					1								1
		臨床心理学	1	15				1									1
小計	21	3	540	21	6	8	6	2	2	0	0	0		24			

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数													
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計					
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
専攻科目	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	2		30		2										2			
			コミュニケーション論	1		15		1											1		
			看護過程Ⅰ	1		15														1	
			看護過程Ⅱ	1		15														1	
			ヘルスアセスメント基礎	1		30														1	
			看護倫理学	1		15														1	
			基礎看護技術Ⅰ	1		30														1	
			基礎看護技術Ⅱ	1		30														1	
			基礎看護技術Ⅲ	1		30															1
		基礎看護学実習Ⅰ	1		45															1	
		基礎看護学実習Ⅱ	2		90															2	
		看護管理学	看護管理学Ⅰ	1		15														1	
			看護管理学Ⅱ	1		15														1	
			医療安全論	1		15														1	
			看護キャリア開発論		1	15														1	
			看護管理学実習	1		45														1	
			成人急性期病態・治療Ⅰ	1		30														1	
			成人急性期病態・治療Ⅱ	1		30														1	
	成人慢性期病態・治療Ⅰ		1		30														1		
	成人慢性期病態・治療Ⅱ		1		30														1		
	ケア創生看護学	成人急性期看護学概論	1		15														1		
		成人周術期看護論	1		30														1		
		クリティカルケア論	1		30														1		
		成人慢性期看護学概論	1		15														1		
		成人慢性期援助論Ⅰ	1		30														1		
		成人慢性期援助論Ⅱ	1		30														1		
		成人看護学技術演習Ⅰ	1		30														1		
		成人看護学技術演習Ⅱ	1		30														1		
		成人看護学基盤実習	2		90														2		
		成人急性期看護学実習	2		90														2		
		成人慢性期看護学実習	2		90														2		
		母性看護学	母性病態・治療	1		30														1	
			母性看護学概論	2		30														2	
			母性看護学援助論	1		30														1	
			母性看護学技術演習	1		30														1	
			母性看護学実習	2		90														2	
			小児看護学	小児病態・治療	1		30														1
				小児看護学概論	2		30														2
	小児看護学援助論			1		30														1	
	小児看護学技術演習			1		30														1	
	小児看護学実習	2			90														2		
	老年看護学	老年病態・治療		1		30														1	
		老年看護学概論	2		30														2		
		老年看護学援助論	1		30														1		
		老年看護学技術演習	1		30														1		
		老年看護学実習Ⅰ	3		135														3		
		老年看護学実習Ⅱ	1		45														1		
		在宅看護学	在宅看護学概論	2		30														2	
			在宅看護学援助論	1		30														1	
			在宅看護学技術演習	1		30														1	
			在宅看護学実習	2		90														2	
	精神看護学	精神病態・治療	1		30														1		
精神看護学概論		2		30														2			
精神看護学援助論		1		30														1			
精神看護学技術演習		1		30														1			
精神看護学実習		2		90														2			
災害看護学	災害看護学概論	2		30														2			
	災害看護学援助論	1		30														1			
	災害看護学技術演習Ⅰ	1		30														1			
	災害看護学技術演習Ⅱ	1		15														1			
	国際救援看護論		1	15														1			
	国際救援看護論演習		1	30														1			
	国際救援看護論実習		1	45														1			
国際救援と英語		1	15														1				

III 看護学部教育活動

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数								
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
専門科目	地域共生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ ※	1		15	必修 83単位			1						1
			公衆衛生看護学概論Ⅱ ※		1	15				1						1
			保健指導方法論 ※		2	30					2					2
			健康教育方法論Ⅰ ※		1	15				1						1
			健康教育方法論Ⅱ ※		1	30				1						1
			家族生活支援論 ※		2	30						2				2
			産業看護論 ※		1	15				1						1
			学校看護論 ※		1	15				1						1
			地区活動論 ※		2	30						2				2
			地域診断論 ※		4	60				4						4
			公衆衛生看護管理 ※		2	30							2			2
			公衆衛生看護学実習 ※		5	225								5		5
			看護の統合	心の統合	心のリハビリテーション			1	15					1		
	ヘルスアセスメント応用	1				15				1					1	
	技術特別演習	1				15							1		1	
	統合実習	1				45							1		1	
	卒業研究Ⅰ	1				15						1			1	
	卒業研究Ⅱ	2				60							2		2	
	小計	83			28	3045		83	4	3	14	31	20	25	12	2
	合計							126	23	24	22	34	23	26	12	3

※：保健師教育課程を専攻する学生は必修

科目担当教員一覧

科目名	教員名	科目名	教員名
哲学	村瀬雅俊	基礎看護技術Ⅱ	巻野雄介・中島佳緒里・竹内貴子・加藤広美・山田聡子
教育学	龍崎 忠	基礎看護学実習Ⅰ	山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美
人間発達論	青柳真紀子	看護過程Ⅰ	山田聡子
家族論	大西文子	看護過程Ⅱ	竹内貴子・巻野雄介・中島佳緒里・山田聡子
法学・日本国憲法	早野 暁	ヘルスアセスメント	中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・山田聡子・加藤広美
音楽論	中野里美	基礎看護技術Ⅳ	竹内貴子・中島佳緒里・巻野雄介・加藤広美・山田聡子
英語Ⅰ	森 久子・鈴木寿摩	看護倫理学	山田聡子
英語Ⅱ	森 久子・鈴木寿摩	基礎看護学実習Ⅱ	山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美
英語Ⅲ	森 久子・鈴木寿摩	カウンセリング論	石黒千映子
英語Ⅳ	森 久子・鈴木寿摩	成人看護学概論・保健	東野督子・石黒千映子
上級英語	Steeve Plante	成人周手術期看護論	東野督子・鎌倉やよい・栩川綾子
スペイン語	ブストス・シアン カルロ	成人慢性期看護論	石黒千映子
ポルトガル語	ヴァスコンセロス クラウディオ	成人機能回復援助論	栩川綾子
中国語	程 凱	緩和・ターミナルケア援助論	石黒千映子
フランス語	新里直樹	感染予防看護論	東野督子
社会学	加藤典子	感染予防看護演習	東野督子・田口栄子・河村 諒
環境問題と健康	牛島佳代・今井奈妙	成人看護方法論Ⅰ	石黒千映子・栩川綾子・田口栄子・河村 諒・東野督子
文化人類学	渡辺道斉	成人看護方法論Ⅱ	石黒千映子・栩川綾子・田口栄子・河村 諒・東野督子
日本文化論	永井 博	成人看護学実習Ⅰ	栩川綾子・東野督子・石黒千映子・田口栄子・河村 諒
情報リテラシー	森田一三・高見精一郎	成人看護学実習Ⅱ	石黒千映子・東野督子・栩川綾子・田口栄子・河村 諒
スポーツ健康科学	押村果奈	成人看護学実習Ⅲ	東野督子・石黒千映子・栩川綾子・田口栄子・河村 諒
スポーツレクリエーション実技	押村果奈	老年看護学概論・保健	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓
看護プロフェッショナルセミナー	森田一三・福岡長知・松浦正子・東野督子・長谷川喜代美・中島佳緒里・長田知恵子・岡田摩理・大谷喜美江・鈴木寿摩・竹内貴子・巻野雄介・初田真人・深谷由美・高見精一郎	老年看護学Ⅰ	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
ボランティア活動論	村瀬智子・山田聡子・下間正隆・高見精一郎・末永和也	老年看護学Ⅱ	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
赤十字原論	小林洋子・河合利修・伊藤明子	介護福祉施設実習	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
赤十字と活動	小林洋子・石川 清	医療・老人保健施設実習	小林尚司・清水みどり・橋本亜弓・臼井かおり・近藤香苗
赤十字総合セミナー	小林洋子・村瀬智子・小林尚司・南谷志野・清水みどり・原田真澄・長尾佳世子・藤井愛海	母性看護学概論・保健	野口真弓
形態機能学Ⅰ	福岡長知	母性看護学Ⅰ	野口真弓・長田知恵子・千葉朝子
形態機能学Ⅱ	福岡長知	母性看護学Ⅱ	野口真弓・長田知恵子・千葉朝子
形態機能学Ⅲ	福岡長知	母性看護学実習	野口真弓・長田知恵子・千葉朝子
免疫学	錦見昭彦	小児看護学概論・保健	大西文子
栄養代謝学	田口忠緒	小児看護学Ⅰ	岡田摩理・遠藤幸子
人間工学	斎藤 真	小児看護学Ⅱ	岡田摩理・遠藤幸子・大西文子
公衆衛生学	森田一三	小児看護学実習	大西文子・岡田摩理・遠藤幸子
社会福祉学	服部次郎	赤十字幼児安全演習	大西文子・岡田摩理
保健医療福祉行政論Ⅰ	都築三幸・日比野絹子	精神看護学概論・保健	村瀬智子・原田真澄・初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔
保健医療福祉行政論Ⅱ	片岡博喜	精神看護学Ⅰ	原田真澄・初田真人・坪之内千鶴
保健情報演習	森田一三・高見精一郎	精神看護学Ⅱ	初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔・原田真澄・村瀬智子
情報処理	森田一三・高見精一郎	精神看護学実習	村瀬智子・原田真澄・初田真人・坪之内千鶴・飯田大輔
保健統計	森田一三	公衆衛生看護学概論	長谷川喜代美
疫学Ⅰ	森田一三	保健指導方法論	大谷喜美江・廣田直美
疫学Ⅱ	森田一三	健康教育方法論Ⅰ	清水美代子・廣田直美
薬理学	池田義明	健康教育方法論Ⅱ	清水美代子・廣田直美
微生物学	清水宣明	家族生活支援論	長谷川喜代美
病理学	黒川 景	産業看護論	清水美代子・廣田直美
リハビリテーション論	横田元実・金田嘉清・鈴木めぐみ・谷川広樹	学校看護論	大谷喜美江・廣田直美
臨床心理学	目黒達哉	地区活動論	大谷喜美江・廣田直美
生命倫理	森下直貴	公衆衛生看護管理	長谷川喜代美・大谷喜美江・清水美代子・廣田直美
母性疾病・治療論	小口秀紀・田中太平	地域診断論	清水美代子・廣田直美
小児疾病・治療論	後藤芳充・田中太平・神田康司・石井睦夫・犬飼幸子・笠原克明・山田崇春・真島久和	公衆衛生看護学実習	長谷川喜代美・大谷喜美江・清水美代子・廣田直美
精神疾病・治療論	平野千晶・水谷浩明	在宅看護論Ⅰ	深谷由美・松田優子
成人急性期病態・治療論Ⅰ	下間正隆	在宅看護論Ⅱ	深谷由美・松田優子
成人・老年疾病・治療論Ⅰ	小林尚司・鎌倉やよい・下間正隆・坂本宏司・杉野安輝・花木芳洋・加藤智則・山本義浩・久保田恵章・徳田治彦・伊藤彰博・安井敬三・三木研作		
成人・老年疾病・治療論Ⅱ	下間正隆		
国際救護と英語	森 久子・鈴木寿摩		
英語Ⅲ	森 久子・鈴木寿摩		
英語Ⅳ	森 久子・鈴木寿摩		
看護学概論	山田聡子		
コミュニケーション論	中島佳緒里		
基礎看護技術Ⅰ	中島佳緒里・竹内貴子・巻野雄介・加藤広美		

科目名	教員名	科目名	教員名
在宅看護学実習	深谷由美・松田優子	看護活動と研究	山田聡子・野口眞弓・大西文子・東野督子・小林尚司・村瀬智子・深谷由美・松浦正子
赤十字健康生活支援演習	深谷由美・松田優子	卒業研究	専門基礎・専門科目の講師以上
家族看護論	大西文子・小林尚司・原田真澄・石黒千映子	赤十字災害看護学	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
医療安全	松浦正子・南谷志野	赤十字災害看護学演習	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
医療・看護システム論	小林洋子	国際救援看護論	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
看護管理論	松浦正子・南谷志野	国際救援看護論演習	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
統合実習	看護専門教員全員	国際救援看護論実習	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
看護研究方法	村瀬智子・森田一三・小林尚司		

4) カリキュラムポリシー

- (1) 本学では、教育理念と教育目的に基づくディプロマポリシーを達成するために、カリキュラムは、次のように編成している。すなわち、「教養科目」、「専門基礎科目」では、本学の建学の精神である「赤十字」の基本原則と活動について学ぶとともに、「人間」と「環境」との相互作用において生じる「健康」の様々な段階について学ぶ。さらに、「専門科目」では、基盤育成看護学、ケア創生看護学、地域共生看護学、看護学の技と知の統合の分野から「看護」について学ぶことができるよう各科目を位置づけている。
- (2) 本学の建学の精神である赤十字に関する科目は教養科目として位置づけ、赤十字の理念と活動を理解したうえで、主体的に探求する「赤十字総合セミナー」と、赤十字の理念を行動に移す「ボランティア活動論」を設置している。
- (3) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支える能力を育成することを目指したコミュニケーションツールである語学科目として英語と本学の地域性を活かしたスペイン語、ポルトガル語を設置し、特に英語は、「国際救援と英語」等、4年間、継続して学習できる機会を設け、各学年に配置している。
- (4) 看護の対象者と円滑なコミュニケーションを図るために、「コミュニケーション論」で基本を学び、そのうえで専門的なコミュニケーション技術を身につけることを目指して精神看護学領域の各科目を設置している。
- (5) 看護においては、一人の人間を統合的に理解することが重要である。そこで、人間のライフサイクルから変化を捉える「人間発達論」と「家族論」、遺伝やスポーツ、生活を営む社会や環境を知り、健康への影響を理解する「遺伝と健康」、「環境問題と健康」等、人間の身体的側面について理解する科目として、「形態機能学」、「病理学」、「感染制御論」等、精神的側面について理解する科目として「臨床心理学」を設置している。さらに、各看護学専門領域に病態・治療論を配置し、病態・治療と看護のつながりを強化していることも特徴である。
- (6) 看護のアセスメントの基盤となる検査・治療について理解する「臨床検査概論」、「薬理学」、「人間工学」、「リハビリテーション論」、さらに地域における看護を展開するために必要不可欠な「疫学」、「公衆衛生学」等も設置している。
- (7) 看護の専門性を追求するために基盤となる科目としては、「看護学概論」等と各看護学領域の援助論を設置し、「基礎看護学技術」をはじめとする各看護学領域における技術演習、実習、「技術特別演習」、「統合実習」で、看護の技と知の統合を目指す。また、保健・医療・福祉の場で看護の専門性を追求するための科目として、「看護管理学」等を設置し、地域社会における看護の役割を学ぶ科目にも力を入れ、「在宅看護学概論」、「公衆衛生看護学概論」等を設置している。
- (8) 赤十字の看護大学卒業生としての自負を持ち、看護師としてのキャリアイメージを強化するための「看護プロフェッショナルセミナー」やプロフェッショナルリズムの育成を目指した「看護キャリア開発論」、さらに生涯にわたって学び続けるための基礎力となる研究力を身につける科目として「卒業研究」も設置している。
- (9) 本学の教育課程の特長である国内外の救護の場における看護の役割を認識することと災害関連死の予防、防災教育を実践するための科目として、「災害看護学概論」、「国際救援看護論」等を設置している。

5)カリキュラムマップ

(1) 2017 年度～ 2019 年度入学者適用

特性の範囲	赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決	看護実践	地域社会における協働	生涯学習	国際社会	
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニングアウトカムの内容	赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護する専門的立場から行動することができる。	人の生命や生きる営みを支えるために、コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につける。	一人の人間を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解することができる。	事実を把握し、専門的知識、先行研究、経験等を活用してその状況の分析・評価に基づき問題を解決することができる。	健康問題に対する人間の反応を把握し、個別ケアを的確かつ安全に実施することができる。	地域社会における保健・医療・福祉の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働してケアを実践することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯学習を自ら求め続けることができる。	国際社会における健康のニーズを把握する能力を持ち、看護の役割を認識できる。	
履修の順次性	1年次	赤十字原論	英語Ⅰ	心理学 人間発達論 倫理学 法学：日本国憲法 文化人類学 スポーツレクリエーション実技 看護学概論	生活科学 形態機能学Ⅰ 免疫学 栄養代謝学 微生物学	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	看護ふれあいセミナー スタディスキルズ セミナー 情報基礎		
		ボランティア活動論 赤十字と活動 赤十字救急法	英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	教育学 音楽論 経済学 日本文化論 スポーツ健康科学 臨床心理学	形態機能学Ⅱ 疾病・病態学	人間工学 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	保健情報演習	
	2年次	赤十字災害看護学	英語Ⅲ 中国語 カウンセリング論	生命倫理 社会学 成人看護学概論・保健 母性看護学概論・保健 小児看護学概論・保健 公衆衛生看護学概論	薬理学 成人・老年疾病・治療論Ⅰ リハビリテーション論 看護過程Ⅰ	基礎看護技術Ⅳ	保健医療福祉行政論Ⅰ		国際救援と英語 国際救援看護論
			英語Ⅳ フランス語	老年看護学概論・保健 精神看護学概論・保健	成人・老年疾病・治療論Ⅱ 母性疾病・治療論 小児疾病・治療論 精神疾病・治療論 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント 成人周手術期看護論 成人慢性期看護論	基礎看護学実習Ⅱ 成人看護方法論Ⅰ	保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論 在宅看護論Ⅰ 医療・看護システム論		国際救援看護論演習
	3年次	看護倫理学	上級英語	家族看護論	成人機能回復援助論 緩和・ターミナルケア援助論 感染予防看護論 感染予防看護演習 老年看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 小児看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ	成人看護方法論Ⅱ 老年看護学Ⅱ 母性看護学Ⅱ 小児看護学Ⅱ 精神看護学Ⅱ	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 保健指導方法論 在宅看護論Ⅱ	情報処理	国際救援看護論実習
		赤十字健康生活支援演習			医療安全	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 医療・老人保健施設実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	介護福祉施設実習 家族生活支援論 地区活動論 在宅看護論実習	看護研究方法	
	4年次	赤十字災害看護学演習 赤十字幼児安全演習			看護管理論	統合実習	公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護活動と研究 卒業研究	

(2) 2020 年度以降入学者適用

		1	2	3	4
特性の範囲		赤十字基本原則の行動化	コミュニケーション技術	人間理解	科学的な問題解決
卒業生特性 (Graduate Capability) ラーニングアウトカムの内容		赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊敬と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。	コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。	一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。	事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
時間的な順次性	一年次履修	ボランティア活動論 赤十字原論 赤十字と活動 赤十字総合セミナー	英語Ⅰ 英語Ⅱ スペイン語 ポルトガル語 コミュニケーション論	哲学 教育学 人間発達論 家族論 法学・日本国憲法 音楽論 社会学 環境問題と健康 文化人類学 日本文化論 スポーツ健康科学 スポーツレクリエーション実技 形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学Ⅲ 免疫学 栄養代謝学 人間工学 微生物学 病理学 臨床心理学 看護学概論	成人急性期病態・治療論Ⅰ
	二年次履修	生命倫理	英語Ⅲ	薬理学 感染制御論 臨床検査概論 リハビリテーション論 成人急性期看護学概論 成人慢性期看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 老年看護学概論 精神看護学概論	看護過程Ⅰ 看護過程Ⅱ ヘルスアセスメント基礎 看護管理学Ⅰ 成人急性期病態・治療論Ⅱ 成人慢性期病態・治療論Ⅰ 成人慢性期病態・治療論Ⅱ 成人周術期看護論 成人慢性期援助論Ⅰ 母性病態・治療論 小児病態・治療論 老年病態・治療論 精神病態・治療論
	三年次履修	看護倫理学		遺伝と健康 医療安全論 心のリハビリテーション	看護管理学Ⅱ クリティカルケア論 成人慢性期援助論Ⅱ 母性看護学援助論 小児看護学援助論 老年看護学援助論 精神看護学援助論 ヘルスアセスメント応用
	四年次履修		上級英語		

5		6	7	8	9
看護実践		地域社会における協働	生涯学習	国際社会	災害
演習	実習				
健康問題に対する人間の反応を把握し、個別性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。		地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。	自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。	国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。	災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。
基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰ	公衆衛生学 社会福祉学	情報リテラシー 看護プロフェッショナルセミナー 保健情報演習		
基礎看護技術Ⅲ 成人看護学技術演習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ 保健統計 在宅看護学概論 公衆衛生看護学概論Ⅰ 公衆衛生看護学概論Ⅱ 健康教育方法論Ⅰ 健康教育方法論Ⅱ 産業看護論 学校看護論 地域診断論		英語Ⅳ 国際救援看護論 国際救援看護論演習 国際救援と英語	災害看護学概論 災害看護学援助論
成人看護学技術演習Ⅱ 母性看護学技術演習 小児看護学技術演習 老年看護学技術演習 精神看護学技術演習	成人看護学基盤実習 成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習Ⅰ 精神看護学実習	疫学Ⅰ 疫学Ⅱ 老年看護学実習Ⅱ 在宅看護学援助論 在宅看護学技術演習 在宅看護学実習 保健指導方法論 家族生活支援論 地区活動論	卒業研究Ⅰ	英語Ⅴ 国際救援看護論実習	災害看護学技術演習Ⅰ
技術特別演習	看護管理学実習 統合実習	災害看護学技術演習Ⅱ 公衆衛生看護管理 公衆衛生看護学実習	看護キャリア開発論 卒業研究Ⅱ		

下線の科目は、3年次後期～4年次前期の通年開講科目です。

6) 2020年度 実習施設一覧

No	実習施設名	実習科目名	No	実習施設名	実習科目名	No	実習施設名	実習科目名
1	名古屋第一赤十字病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習	34	医療法人 静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター	精神看護学実習 統合実習	67	株式会社デンソー	公衆衛生看護学実習 (産業)
2	名古屋第二赤十字病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 成人看護学実習Ⅲ 小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習	35	特定医療法人 共和会 共和病院	精神看護学実習 統合実習	68	トヨタ紡績株式会社	公衆衛生看護学実習 (産業)
3	刈谷豊田総合病院	小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 (訪問看護ステーション) 統合実習	36	医療法人 成精会 刈谷病院	精神看護学実習	69	愛知製鋼株式会社	公衆衛生看護学実習 (産業)
4	名古屋掖済会病院	基礎看護学実習Ⅱ	37	刈谷市障害者支援センター	精神看護学実習	70	東海旅客鉄道株式会社	公衆衛生看護学実習 (産業)
5	豊田厚生病院	成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 (訪問看護ステーション) 基礎看護学実習Ⅰ 統合実習	38	名古屋市療養サービス事業団 (名古屋市長区訪問看護ステーション)	在宅看護学実習	71	日本たばこ産業株式会社	公衆衛生看護学実習 (産業)
6	トヨタ記念病院	母性看護学実習 統合実習	39	訪問看護ステーション たかつじ	在宅看護学実習	72	デンハート訪問看護ステーション	統合実習
7	きぬ助産院	母性看護学実習	40	かしのき訪問看護ステーション	在宅看護学実習	73	愛知県庁 保健医療局	統合実習
8	北野ミッドワイフリー	母性看護学実習 統合実習	41	豊田地域訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習	74	愛知県看護協会	統合実習
9	天白助産所	母性看護学実習	42	八千代訪問看護ステーション	在宅看護学実習	75	愛知県ナースセンター	統合実習
10	碧助産院	母性看護学実習	43	医療法人豊田会 高浜訪問看護ステーション	在宅看護学実習	76	日本赤十字社愛知県支部	統合実習
11	助産院マザーズ・プレイス	母性看護学実習	44	みよし市訪問看護ステーション	在宅看護学実習	77	豊根村役場	統合実習
12	ひまわり助産院	母性看護学実習 統合実習	45	三九朗病院訪問看護ステーション	在宅看護学実習	78	一般社団法人 Re Smile	統合実習
13	すこやか助産院	母性看護学実習 統合実習	46	すみれ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	79	刈谷市立刈谷特別支援学校	統合実習
14	かおり助産院	母性看護学実習	47	訪問看護ステーション心のポケット	在宅看護学実習	80	こども訪問看護ステーション mom	統合実習
15	星野助産院	母性看護学実習 統合実習	48	トヨタ記念訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習	81	きたよし地区地域包括支援センター	統合実習
16	愛育母乳相談室	母性看護学実習	49	訪問看護ステーションなかの	在宅看護学実習	82	なかよし地区地域包括支援センター	統合実習
17	伊保こども園	小児看護学実習	50	訪問看護リハビリステーションからふる	在宅看護学実習 統合実習	83	みなよし地区地域包括支援センター	統合実習
18	梅坪こども園	小児看護学実習	51	訪問看護ステーション明日香	在宅看護学実習 統合実習	84	社協包括支援センター	統合実習
19	越戸こども園	小児看護学実習	52	常滑市民病院訪問看護ステーションきずな	在宅看護学実習	85	ほっとかん地域包括支援センター	統合実習
20	若宮こども園	小児看護学実習	53	れんげ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	86	地域包括支援センターくらがいけ	統合実習
21	宮口こども園	小児看護学実習	54	訪問看護ステーションつむぐ	在宅看護学実習	87	地域包括支援センター益富の楽園	統合実習
22	刈谷豊田東病院	医療・老人保健施設実習	55	訪問看護ステーションえくぼ	在宅看護学実習	88	ひまわりの街地域包括支援センター	統合実習
23	高浜豊田病院	医療・老人保健施設実習	56	名古屋市中村保健センター 名古屋市長保健センター 名古屋市長保健センター 名古屋市役所 (オリエンテーション)	公衆衛生看護学実習 (行政)	89	豊田福寿園地域包括支援センター	統合実習
24	老人保健施設 ハピリースーツ木	医療・老人保健施設実習	57	豊田市保健所	公衆衛生看護学実習 (行政)	90	豊田福寿園地域包括支援センター	統合実習
25	みよし市民病院	医療・老人保健施設実習	58	岡崎市保健所	公衆衛生看護学実習 (行政)	91	地域包括支援センター猿投の楽園	統合実習
26	並木病院	医療・老人保健施設実習 統合実習	59	瀬戸保健所	公衆衛生看護学実習 (行政)	92	藤田医科大学病院	統合実習▶令和2年度受け入れ中止
27	老人保健施設 メディコ平針	医療・老人保健施設実習 統合実習	60	半田保健所	公衆衛生看護学実習 (行政)	93	八千代病院	統合実習
28	特別養護老人ホーム 第2とよた苑	介護福祉施設実習 統合実習	61	西尾保健所	公衆衛生看護学実習 (行政)	94	岐阜赤十字病院	統合実習▶令和2年度受け入れ中止
29	特別養護老人ホーム みなみ福寿園	介護福祉施設実習 統合実習	62	日進市保健センター	公衆衛生看護学実習 (行政)	95	浜松赤十字病院	統合実習
30	特別養護老人ホーム ひまわりの街	介護福祉施設実習 統合実習	63	阿久比町保健センター	公衆衛生看護学実習 (行政)	96	静岡赤十字病院	統合実習
31	特別養護老人ホーム ひまわり邸	介護福祉施設実習	64	西尾市保健センター	公衆衛生看護学実習 (行政)	97	諏訪赤十字病院	統合実習
32	特別養護老人ホーム 日進ホーム	介護福祉施設実習	65	公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団 あいち健康の森 健康科学総合センター	公衆衛生看護学実習 (行政)	98	伊勢赤十字病院	統合実習
33	医療法人 研精会 豊田西病院	精神看護学実習 統合実習	66	株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング 総務部 安全健康推進 G	公衆衛生看護学実習 (産業)			

7) 選択科目受講者数

(単位：名)

講義名	履修者数
家族論	128
看護活動と研究	117
文化人類学	111
教育学	99
法学・日本国憲法	78
社会学	65
日本文化論	38
哲学	36
スペイン語	35
赤十字総合セミナー	28
カウンセリング論	28
ボランティア活動論	25
保健医療福祉行政論Ⅱ	22
健康教育方法論Ⅱ	22
産業看護論	22
学校看護論	22
地域診断論	22
疫学Ⅱ	21
保健指導方法論	21
家族生活支援論	21
地区活動論	21
公衆衛生看護管理	21
公衆衛生看護学実習	21
成人機能回復援助論	20
ポルトガル語	17
感染予防看護演習	16
中国語	14
情報処理	13
国際救援看護論演習	11
フランス語	10
赤十字幼児安全演習	10
国際救援と英語	9
上級英語	0
医療・看護システム論	0
赤十字健康生活支援演習	0
国際救援看護論実習	0

8) 他大学との単位互換の状況

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している。

加盟大学に所属する学生（系列の併設短期大学の学生を含む。）は、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度である。

2020年度の互換実績は無い。

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 日本語力、英語力、科学的思考力を備えている人
- (3) 人間や社会に対して広く関心がある人
- (4) 社会常識を備え責任を持って行動できる人
- (5) 看護を学ぶ意志を持つ人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	科目	配点	総点
学校推薦型 選抜	赤十字特別推薦選抜	30名程度	必須	基礎学力調査（英語）	50点	150点
	高等学校長推薦選抜	30名程度		小論文	50点	
一般選抜	社会人特別選抜	2名		面接	50点	

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	教科	科目	配点	総点
一般選抜	大学独自選抜	40名	必須	外国語	「英語（リスニングを除く）」	100点	300点
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点	
			選択 1つを選択	数学	「数学Ⅰ・数学A 整数の性質及び場合の数と確率、図形の性質」	100点	
				理科	「化学基礎」 「生物基礎」		
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期A）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	400点
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点	
			必須	数学	「数学Ⅰ・数学A」	100点	
			選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目 「化学」 「生物」 「物理」 「地学」	100点	
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期B）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	200点	400点
			選択 1つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点	
				数学	「数学Ⅰ・数学A」		
			選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目 「化学」 「生物」 「物理」 「地学」	100点	
大学入学共通テスト 利用選抜（後期）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	350点	
		必須	面接	50点			
		選択 1つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点		
			数学	「数学Ⅰ・数学A」			
選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目 「化学」 「生物」 「物理」 「地学」	100点				

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

合計

(単位：名)

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	120	504	492	134
2020年度	120	524	518	129
2019年度	120	735	713	130

大学独自選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	40	228	221	64
2020年度	40	241	238	55
2019年度	40	312	294	50

共通テスト 前期A

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	6	108	108	3
2020年度	6	102	102	4
2019年度	8	150	150	6

共通テスト 前期B

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	6	85	85	3
2020年度	6	98	98	3
2019年度	7	173	173	7

共通テスト 後期

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	6	13	9	0
2020年度	6	16	13	11
2019年度	3	27	23	6

社会人特別選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	2	0	0	0
2020年度	2	1	1	0
2019年度	2	1	1	1

高等学校長推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	30名程度	42	41	36
2020年度	30	41	41	31
2019年度	30	43	43	34

赤十字特別推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	30名程度	28	28	28
2020年度	30	25	25	25
2019年度	30	29	29	26

3. 学生支援

1) 在籍学生数

(1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

（単位：名）

入学年度	在籍者数	退学者数	退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2020年度入学生	129	3	2.3%	0	0.0%	-
2019年度入学生	131	0	0.0%	0	0.0%	-
2018年度入学生	132	0	0.0%	1	0.8%	-
2017年度入学生	135	0	0.0%	1	0.7%	131
2016年度以前入学生	3	1	33.3%	0	0.0%	1
合計	530	4	0.8%	2	0.4%	132

(2) 卒業年限内の卒業率

（単位：名）

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち令和2年度末までに修了した学生数	③ ①のうち令和2年度末までに退学した学生数	④ ①のうち令和3年度現在在籍している学生数（留年者数）	④' ④のうち在学中に休学した者を除いた留年者数	⑤' 2015年4月入学者の「標準修業年限×1.5」年内修了率	⑥ 標準修業年限を通じた退学率
2017年度入学生	4年	136	131	1	4	2	98.5%	0.7%

(3) 学位取得状況（取得者数）

2020年度の学士（看護学）の授与者は132名であった。（1名は2016年度入学生）

(4) 標準修業年限内修了率

2020年度の標準修業年限内修了率は96.3%であった。

2) チューター制度

教員と学生とのふれあいを通して学生生活を有意義に過ごすことができるように、また、学生の人格形成を援助していくことを目的としてチューター制度を設けている。

チューターである教員は、6～14人の学生を受け持ち、各学生が勉学活動に意欲的に取り組み、自己の適性や将来の目標を考慮しながら自己決定できるように支援している。

3) オフィスアワー制度

学生が教員と自発的に交流や相談ができるよう、オフィスアワーを設定している。

オフィスアワーは学務システムポータルサイト（メソフィア）及び教員の研究室前の掲示により学生に周知している。

4) 特待生制度

この制度は、本学生に対し、特待生として授業料を免除することにより、勉学を奨励するとともに学習意欲の高揚及び優秀な学生の確保を図ることを目的とする。なお、制度の種類は以下の通りである。

(1) A特待生

大学独自選抜の成績上位者であり、入学年度の年間授業料の全額が免除される者。

大学独自選抜の成績が上位20位までの者のうち、特待生となって入学する意思があり、成績が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、英語の点数が高い者を上位とする。

2020年度の対象者は1名であった。

(2) B特待生

入学後の前年度学業成績が上位であり、年間授業料の後期納付額を免除される者。

入学後の学業成績において、前年度に履修した必修及び選択科目の全てが再履修することなく評価「B」以上であって、必修科目の評点合計が上位10位までの者のうち、面接を実施の上、総合評価が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、修得単位数の多い者を上位とする。また、選考にあたっては、連続してB特待生となることは妨げない。

2020年度の対象者は10名（2年生5名、3年生5名）であった。

5) 奨学金制度（2020年度奨学生数）

(1) 赤十字病院（赤十字特別選抜・支部長推薦者除く）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
名古屋第一赤十字病院	10	4	10	8	32	6.1%
名古屋第二赤十字病院	14	8	14	19	55	10.4%
福井赤十字病院	1	2	2		5	0.9%
諏訪赤十字病院	2			2	4	0.8%
安曇野赤十字病院				1	1	0.2%
岐阜赤十字病院				3	3	0.6%
静岡赤十字病院			2	7	9	1.7%
浜松赤十字病院	1	1	2	3	7	1.3%
裾野赤十字病院				2	2	0.4%
伊勢赤十字病院		2	5	2	9	1.7%
岐阜県支部（岐阜・高山）	1	4	2		7	1.3%
武蔵野赤十字病院			2	2	4	0.8%
大阪赤十字病院		1	1		2	0.4%
日本赤十字社医療センター			1		1	0.2%
函館赤十字病院			1		1	0.2%
合計	29	22	42	49	142	26.9%

(2) 赤十字特別選抜・支部長推薦（愛知県支部はC特別奨学生を計上）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
愛知県支部	6	5	6	6	23	4.4%
富山県支部	1		1	2	4	0.8%
石川県支部	1	2	1	1	5	0.9%
福井県支部			2	2	4	0.8%
長野県支部	3	4	6	6	19	3.6%
岐阜県支部	2		2	4	8	1.5%
静岡県支部	6	8	3	8	25	4.7%
三重県支部	4	3	3	4	14	2.7%
合計	23	22	24	33	102	19.3%

(3) 日本赤十字社愛知県支部特別奨学金

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
名古屋第一赤十字病院（A 特別奨学生）				5	5	0.9%
名古屋第一赤十字病院（B 特別奨学生）			1	2	3	0.6%
名古屋第二赤十字病院（A 特別奨学生）				5	5	0.9%
名古屋第二赤十字病院（B 特別奨学生）				2	2	0.4%
合計	0	0	1	14	15	2.8%

(4) その他病院

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
刈谷豊田総合病院		1	1	3	5	0.9%
豊田厚生病院			1	1	2	0.4%
済生会松坂総合病院			1		1	0.2%
合計	0	1	3	4	8	1.5%

(5) 病院以外の奨学金

(単位：名)

奨学金名	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する 合計の比率
日本学生支援機構（第一種）	9	19	18	19	65	12.3%
日本学生支援機構（第二種）	22	23	29	25	99	18.8%
日本学生支援機構（給付型）	9	8	9	8	34	6.4%
日本学生支援機構（緊急特別無利子奨学金）			1	1	2	0.4%
日本赤十字看護師同方会	4				4	0.8%
豊田市支給奨学生				1	1	0.2%
豊川市看護修学資金				1	1	0.2%
岡谷市育英資金				1	1	0.2%
合計	44	50	57	56	207	39.2%

6) 自治会活動支援

自治会は学生相互の信頼を基盤とし、会員の自主的な活動によって学生生活の充実と向上を図り、さらに看護活動への関心を高めることを目的として活動している。

自治会の活動について、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、いとすぎ祭（大学祭）及び六大学交流会が中止になったが、総会や選挙等の自治会行事が規約に則って活動できるよう支援を行った。

自治会が統括する学生団体（サークル等）の顧問の役割に関する申し合わせ事項を学生委員会において作成した。

7) 国家試験支援体制・状況

国家試験対策委員会が国家試験模擬試験を計画・実施している。準備および運営は、国家試験対策系の学生が中心となって行っている。2020年度は看護師模擬試験を8回、保健師模擬試験を4回実施し、看護師国家試験対策補講を10月から12月にかけて、専門基礎領域8コマ・看護学領域12コマを実施した。また、保健師国家試験対策補講を12月に4コマ実施した。学生は計画的に学習を進められるよう「学習計画シート」をチューターと共有し、模擬試験で得点率の低い分野についてチューターから指導を受けている。

8) 国家試験合格状況一覧

	総 数				新 卒				
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率
									全国合格率
第110回 看護師	136名	136名	134名	98.5%	132名	132名	130名	2名	98.5%
									95.4%
第107回 保健師	21名	21名	21名	100.0%	21名	21名	21名	0名	100.0%
									97.4%

9) キャリア支援体制・状況

年間を通じて在学生の奨学金申請や病院採用試験のエントリーシートの記載方法や面接の受け方、学生に適した進路（就職先）をアドバイス、指導をおこなっている。

就職・進学等に関する指導は、チューターがその役割の主要な部分を担っている。3年生後期に学生委員会と学生・キャリア支援係長が進路調査を実施し、学生の進路希望についてチューターと情報共有して就職・進学活動を指導・支援している。

また、4年生後期に第2回進路調査を実施して就職内定状況と就職・進学試験予定日を確認している。

チューターが看護系教員でない場合は、学生・キャリア支援係長が積極的に就職支援を行っている。

奨学金・就職説明会は年1回開催しているが、2020年度は新型コロナの影響により開催できなかった。

2020年度就職ガイダンス一覧

No	対象	日時	内容	実施方法	実施業者	参加人数
1	3年生	2020年6月25日(木) ～2020年11月28日(日)	就活スタートアップ WEB講座	資料配布、動画視聴	マイナビ	不明
2	3年生	2021年1月15日(金) 10時～12時	履歴書、面接、小論文対策、就活マナー	Zoomによるリアルタイム配信	ナース専科	80名
3	3年生	2021年1月26日(火) 4限	履歴書、面接対策	Zoomによるリアルタイム配信	マイナビ	105名
4	1、2年生 (他学年も参加可)	2021年2月8日(月) 3限	ストレスマネジメント、メディアリテラシー	Zoomによるリアルタイム配信	ナース専科	55名
5	1、2年生 (他学年も参加可)	2021年2月8日(月) 4限	就活のいろは (病院の選び方、就職活動の進め方)	Zoomによるリアルタイム配信	ナース専科	

10) 就職・進路状況一覧 (2020 年度卒業生)

(1) 就職

(単位:名)

中部ブロック赤十字病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
富山赤十字病院	富山県	富山市	2	*	2
金沢赤十字病院	石川県	金沢市	1	*	1
諏訪赤十字病院	長野県	諏訪市	5	*	5
長野赤十字病院	長野県	長野市	1	*	1
飯山赤十字病院	長野県	飯山市	1	*	1
下伊那赤十字病院	長野県	下伊那郡松川町	1	*	1
福井赤十字病院	福井県	福井市	2	*	2
伊豆赤十字病院	静岡県	伊豆市	1	*	1
静岡赤十字病院	静岡県	静岡市	8	*	8
裾野赤十字病院	静岡県	裾野市	1	*	1
浜松赤十字病院	静岡県	浜松市	5	*	5
名古屋第一赤十字病院	愛知県	名古屋市	16	6	22
名古屋第二赤十字病院	愛知県	名古屋市	26	1	27
岐阜赤十字病院	岐阜県	岐阜市	4	1	5
高山赤十字病院	岐阜県	高山市	2	*	2
伊勢赤十字病院	三重県	伊勢市	6	*	6
		小計	82	8	90

その他の赤十字施設	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
武蔵野赤十字病院	東京都	武蔵野市	2	-	2
横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	横浜市	2	-	2
		小計	4	0	4

その他の病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
常滑市民病院	愛知県	常滑市	*	1	1
名古屋市立西部医療センター	愛知県	名古屋市	*	1	1
名古屋市立東部医療センター	愛知県	名古屋市	*	1	1
刈谷豊田総合病院	愛知県	刈谷市	4	1	5
愛知県がんセンター	愛知県	名古屋市	*	2	2
あいち小児保健医療総合センター	愛知県	大府市	*	1	1
公立陶生病院	愛知県	瀬戸市	*	1	1
国家公務員共済組合連合 名城病院	愛知県	名古屋市	*	3	3
豊川市民病院	愛知県	豊川市	*	1	1
トヨタ記念病院	愛知県	豊田市	*	3	3
豊田厚生病院	愛知県	豊田市	1	-	1
名古屋掖済会病院	愛知県	名古屋市	*	2	2
名古屋記念病院	愛知県	名古屋市	*	1	1
名古屋大学医学部附属病院	愛知県	名古屋市	*	2	2
藤田医科大学病院	愛知県	豊明市	*	2	2
大垣徳洲会病院	岐阜県	大垣市	*	1	1
静岡徳洲会病院	静岡県	静岡市	*	1	1
金沢脳神経外科病院	石川県	金沢市	*	1	1
栗田会 飯田病院	長野県	飯田市	1	-	1
虎の門病院	東京都	港区	*	1	1
新松戸中央総合病院	千葉県	松戸市	*	1	1
横浜市立脳卒中・神経脊髄センター	神奈川県	横浜市	*	1	1
		小計	6	28	34
就職者合計			92	36	128

(2) 進学・その他

(単位：名)

学校名	都道府県	市町村	計
静岡医療科学専門学校助産学科	静岡県	浜松市	1
和歌山県立医科大学助産学専攻科	和歌山県	和歌山市	1
その他			2
進学・その他合計			4

11) 2020 年度学生相談利用状況一覧

(1) 学年別 来談者数 (実人数)

(単位：名)

	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	合計
前期	2	0	4	4	0	10
後期	1	2	3	4	0	10

(2) 学生の月別相談回数 (累計)

(単位：名)

前期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
			3	4	9	4	3
後期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	3	2	4	4	6		19

12) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年1回学生生活に関する調査（キャンパスライフアンケート）を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する学部学生及び大学院生。（休学者は対象から除外）

【調査方法】 Microsoft Forms を使用した自記式アンケート調査（無記名）

【実施期間】 2021年2月9日（火）～2月26日（金）

【回答率】 全体49.8%（1年生68.2%・2年生39.4%・3年生52.6%・4年生39.0%）

【その他】 「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている。

・1～5の5段階評価とし、5が最大評価値である。

・分布図内のマーカーは、回答の平均値を示している。

(1) 結果の要約

本アンケートの結果では、本学のキャンパスライフ全体について、利用度・満足度ともに概ね高い評価結果であった。

①学部生の結果

全学年を通して、特に「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」について高い評価結果であった。

学年別の特徴は以下のとおり。

- ・1年生は、「クラブ・サークル活動支援」の利用度が若干低い結果だった。
- ・2年生は、「クラブ・サークル活動支援」の利用度と満足度が若干低い結果となり、また、「進学相談」「進路相談」の利用度が低い結果だった。
- ・3年生は、「進学相談」「進路相談」「奨学金貸与に関する相談」「ハラスメント相談」の利用度と満足度が若干低い結果となった。
- ・4年生は、他学年と比較して「就職ガイダンス」の利用度と満足度が若干低い結果となった。

②大学院生の結果

概ね全項目について利用度・満足度ともに高い評価結果だった。「メンタルヘルス相談」のみ若干満足度と利用度が低い結果だった。

(2) 明らかになった課題

①クラブ・サークル活動の支援

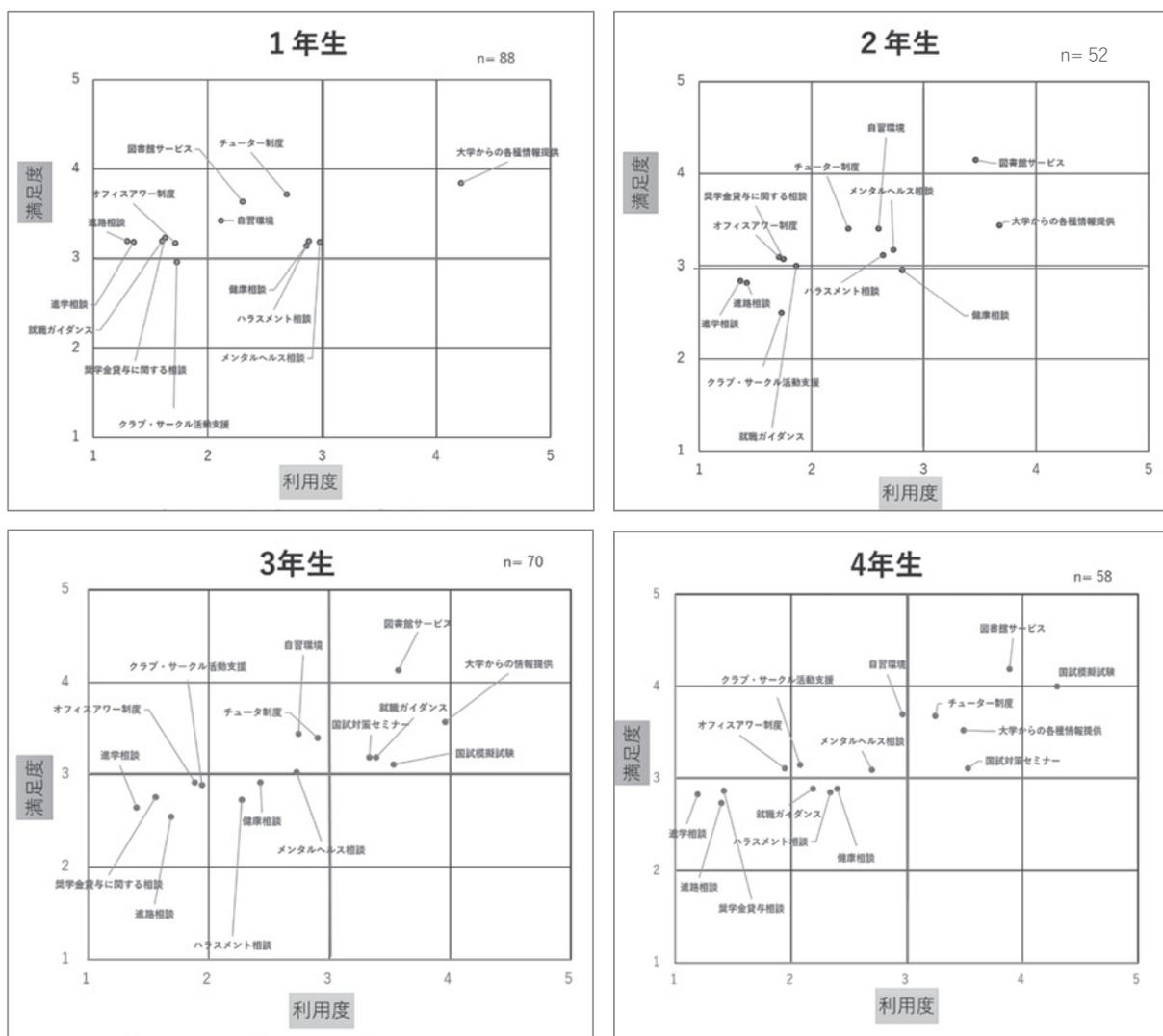
令和2年度は新型コロナウイルス感染対策上の理由からクラブ・サークル活動を停止した。活動停止による学生活動への支障等、支援方法の検討を今後の課題と考える。

②相談に関する対応

感染対策による学内入校制限の設置やオンライン授業の実施により、相談の機会や窓口の利用に不便があったと考える。コロナ禍のため来学ができない状況の場合でも、相談窓口の設置方法の検討やその案内方法の工夫を今後の課題と考えている。

(3) 次年度の改善事項

上記(2)の課題に基づき、関係部署での検討を進め、感染対策を踏まえた支援や対応との両立に向けた改善を図る。具体的には、クラブ・サークル活動の支援については自治会との協力を強化し、相談対応についてはオンライン相談等の整備と案内を進める。



13) 後援会との連携

後援会は看護学部在学生の保護者を会員とし、大学に在学する学生の福利厚生充実及び課外教育等の助成等を行うとともに、会員相互の親睦並びに本学の発展に寄与することを目的とする。

主な事業として、学生自治会の活動に対する支援（いとすぎ祭支援）と大学の教育研究活動に対する支援（実習用の機器備品購入）を行っている。2020年度は後援会からの助成により、小児看護学領域演習資材として幼児

モデル「リンゴちゃん」と在宅・老年看護学領域実習用として実習施設に参考図書を整備した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりいとすぎ祭が中止となったことから、学生支援を目的として50万円の寄附をいただいた。

2020年5月30日（土）に開催予定であった総会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、文書審議で行われた。

14) 同窓会との連携

同窓会は卒業生と在学生在を会員とし、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与するとともに赤十字精神に基づき社会に貢献することを目的とする。主な事業として、卒業生と在在学生との交流会（里帰りイベント）の実施、大学へ看護教育充実に必要な支援を行っている。

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策支援事業として200万円、教育環境整備事業として50万円の寄附をいただいた。また、2020年11月14日（土）にオンラインで総会及び里帰りイベントとして講演会（テーマ：卒業後のキャリアについて）を開催した。

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

【教育目標】

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、看護学の発展に寄与できる看護職者を育成する。
- (2) 看護学の専門分野における創造的な問題解決能力を有する研究・教育者を育成する。
- (3) 看護学の専門分野における卓越した実践能力を有する専門看護師・看護管理者を育成する。

2) ディプロマポリシー

修士課程に所定の期間在学し、本研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に、学位（修士（看護学））を授与する。

(1) 研究・教育者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。
- ③看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。
- ④研究内容を論理的に説明できる能力を有している。

(2) 専門看護師・認定看護管理者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②専門領域における卓越した看護実践能力を有している。
- ③多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。
- ④看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している

3) 教育課程表

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法				
					講義	演習	実習		1 年生	2 年生			
									①	②	③	④	
共通科目	共通科目	必修共通科目	看護理論	村瀬智子	2 (30)			各領域 共通 5 単位	2				
			看護倫理	山田聡子	1 (15)					1			
			赤十字と看護	小林洋子、大川四郎	2 (30)					2			
		選択共通科目	教育方法・評価論	龍崎 忠	1 (15)			<研究・教育者コース> 「教育方法・評価論」を含む9単位以上 ただし、災害看護学領域は8単位以上 なお、成人看護学領域は「セルフマネ ジメント論」も必修とする <専門看護師コース> 合計 11 単位以上 ただし、「看護研究Ⅰ(概論)」「病態 生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセス メント」の計 7 単位を必修とし、「コ ンサルテーション論」「看護管理論」「 看護政策論」「現任教育論」の中から 4 単位以上 <認定看護管理者コース> 「看護研究Ⅰ(概論)」「コンサルテーシ ョン論」「看護管理論」「看護政策論」「現 任教育論」を必修とした 6 単位以上	1				
			統計学Ⅰ	森田一三	2 (30)				2				
			統計学Ⅱ	森田一三	2 (30)				2				
			看護研究Ⅰ(概論)	野口眞弓	1 (15)				1				
			看護研究Ⅱ(量的研究法)	野口眞弓、森田一三	2 (30)				2				
			看護研究Ⅲ(質的研究法)	村瀬智子	2 (30)				2				
			セルフマネジメント論	鎌倉やよい	2 (30)				2				
			感染制御論	下間正隆、東野督子	2 (30)				2				
			病態生理学	下間正隆、福岡長知、鎌倉やよい、 巻野雄介	2 (30)				2				
			臨床薬理学	池田義明、山田浩雅	2 (30)				2				
			ヘルスアセスメント	中島佳緒里、山内豊明	2 (30)				2				
			コンサルテーション論	村瀬智子、井上さよ子、田崎あ ゆみ、木全美智代、長尾大地、 石川恵己	2 (30)				2				
			看護管理論	松浦正子、南谷志野	1 (15)				1				
			看護政策論	松浦正子、南谷志野	1 (15)				1				
			現任教育論	山田聡子	1 (15)				1				
専門科目	基礎育成看護学	看護管理学	看護管理学特論 *	松浦正子、南谷志野	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目 <認定看護管理者コース> 必修 17 単位	2				
			人的資源管理論 *	松浦正子、南谷志野、勝原裕美子	2 (30)				2				
			保健医療福祉組織論 *	松浦正子、南谷志野	2 (30)				2				
			看護管理学演習 *	松浦正子、南谷志野	2 (60)				2				
			組織経営・経済論	松浦正子、米本倉基	2 (30)				2				
			医療安全論	松浦正子、飛田伊都子	1 (15)				1				
			看護管理学実習Ⅰ	松浦正子、南谷志野			2 (90)				2		
			看護管理学実習Ⅱ	松浦正子、南谷志野			2 (90)				2		
		看護管理学実習Ⅲ	松浦正子、南谷志野			2 (90)				2			
		看護教育・ 技術学	看護教育学特論	山田聡子	2 (30)				<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2			
			看護技術学特論	中島佳緒里	2 (30)					2			
			看護教育方法論	山田聡子、中島佳緒里	2 (30)					2			
	看護教育・技術学演習		山田聡子、中島佳緒里	2 (60)			2						
	成人看護学	成人看護学特論	東野督子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2					
		周術期ケア開発特論	東野督子	2 (30)				2					
		慢性病ケア開発特論	石黒千映子	2 (30)				2					
		成人看護学演習	東野督子	2 (60)				2					
	母性看護学	母性看護学特論	野口眞弓、長田知恵子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2					
		ウィメンズヘルス特論	野口眞弓、長田知恵子	2 (30)				2					
		周産期ケア開発特論	野口眞弓、長田知恵子	2 (30)				2					
		母性看護学演習	野口眞弓、長田知恵子	2 (60)				2					
	ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学特論 **	大西文子、岡田摩理	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目 <専門看護師コース> 必修 24 単位 *科目	2				
			小児看護学成長発達論 **	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2				
			小児看護学評価方法論 **	大西文子、岡田摩理	2 (30)				2				
小児看護学演習 *			大西文子、岡田摩理	2 (60)			2						
小児看護学支援論 **			大西文子、岡田摩理、山崎嘉久	2 (30)			2						
小児看護ヘルス・アセスメント論 **			大西文子、岡田摩理	2 (30)			2						
小児の病態と治療 **			後藤芳充、神田康司、石井睦夫、 犬飼幸子、山田崇春、圓若かおり	2 (30)			2						
小児 CNS 機能と役割演習 **			大西文子、岡田摩理、太田有美、 田崎あゆみ、深谷基裕、加藤美 也子	2 (60)			2						
小児看護学実習Ⅰ **		大西文子、岡田摩理			2 (90)				2				
小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と 役割実習) **		大西文子、岡田摩理			2 (90)				2				
小児看護学実習Ⅲ (小児看護高 度実践実習) **		大西文子、岡田摩理			4 (180)				4				
小児看護学実習Ⅳ (小児看護高 度実践統合実習) **		大西文子、岡田摩理			2 (90)				2				

IV 看護学研究科修士課程教育活動

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法			
					講義	演習	実習		1年生		2年生	
									①	②	③	④
専門科目	地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	小林尚司、清水みどり	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2			
			認知症ケア特論	小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅療養者共生支援論	小林尚司、清水みどり	2 (30)				2			
			老年・在宅看護学演習	小林尚司、清水みどり	2 (60)				2			
		精神看護学	精神保健医療論 ※※	村瀬智子	2 (30)			2				
			精神健康行動評価論 ※※	村瀬智子、服部希恵	2 (30)			2				
			精神看護学地域共生論 *	村瀬智子、原田真澄	2 (30)			2				
			精神看護学演習 *	村瀬智子、原田真澄	2 (60)			2				
			精神科治療と看護 ※	村瀬智子、原田真澄、石黒千映子、平野千晶、山田浩雅、加藤明美	2 (30)			2				
			精神健康行動ケア特論 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵、牛山喜久恵	2 (30)			2				
			リエゾン精神看護論 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵、平野千晶	2 (30)			2				
			精神科治療と看護演習 ※	村瀬智子、原田真澄、平野千晶	2 (60)			2				
			精神看護援助方法の開発演習 ※	村瀬智子、原田真澄、服部希恵	2 (60)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅰ ※		村瀬智子、原田真澄			2 (90)	2					
	精神看護学高度実践実習Ⅱ ※	村瀬智子、原田真澄			2 (90)	2						
	精神看護学高度実践実習Ⅲ ※	村瀬智子、原田真澄			2 (90)	2						
	精神看護学高度実践実習Ⅳ ※	村瀬智子、原田真澄			4 (180)	4						
	地域看護学	地域看護学特論	長谷川喜代美、森田一三、小林尚司、岡田摩理	2 (30)			2					
		コミュニティアセスメント論	長谷川喜代美、森田一三	2 (30)			2					
		地域共生ケアシステム論	長谷川喜代美	2 (30)			2					
		地域看護学演習	長谷川喜代美、森田一三	2 (60)			2					
	災害看護学	災害看護学特論 *	小林洋子、花木芳洋	1 (15)			1					
		災害と法律・制度	小林洋子、山崎栄一	2 (30)			2					
		災害看護学対象論 *	小林洋子、村瀬智子、長尾佳世子、藤井愛海	2 (30)			2					
		災害看護学援助論Ⅰ *	小林洋子、長尾佳世子、下間正隆、花木芳洋	2 (30)			2					
		災害看護学援助論Ⅱ *	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	1 (15)			1					
		災害看護学演習 *	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	2 (60)			2					
災害看護学実習 *		小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海			1 (45)	1						
研究	課題研究	松浦正子、大西文子、岡田摩理、村瀬智子、南谷志野、原田真澄	2 (60)			<専門看護師・認定看護管理者コース> 必修 2 単位	2					
	特別研究	山田聡子、鎌倉やよい、松浦正子、東野智子、野口真弓、大西文子、岡田摩理、村瀬智子、長谷川喜代美、小林尚司、森田一三、小林洋子、南谷志野、中島佳緒里、長田知恵子、原田真澄、清水みどり、下間正隆	8(240)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	8					
修了要件								<研究・教育者コース> 30 単位以上 <専門看護師コース> 42 単位以上 <認定看護管理者コース> 30 単位以上				

4) カリキュラムポリシー

教育目的・目標を達成し、ディプロマポリシーに掲げる人材を育成するために、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針に基づいた教育課程を展開する。

(1) 共通科目

共通科目は、必修共通科目と選択共通科目で編成する。

- ①必修共通科目は、看護学を探究し卓越した看護実践を展開するための基盤となる「看護理論」と「看護倫理」、赤十字の基本原則に対する理解を深めるための「赤十字と看護」からなる。
- ②選択共通科目は、研究能力を育成するための「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」「看護研究Ⅲ」と「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」、教育能力を育成するための「教育方法・評価論」「現任教育論」、卓越した看護実践能力を育成するための「病態生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセスメント」と実践の基本となる「セルフマネジメント論」「感染制御論」、多職種・多機関と協働する能力と組織内外の調整能力を育成するための「コンサルテーション論」「看護管理論」「看護政策論」からなる。

(2) 専門科目

専門科目は3分野9領域で編成し、学生の目的に合わせた3コースを設けている。

①分野・領域

ア 基盤育成看護学分野

看護実践の基盤となる能力の育成と看護技術の開発・評価およびマネジメント能力の育成を目指す分野であり、看護管理学領域と看護教育・技術学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

イ ケア創生看護学分野

根拠に基づきケアを創り出し看護実践の発展を目指す分野であり、成人看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

ウ 地域共生看護学分野

地域で暮らす多様な人々との共生を目指したケアを開発する分野であり、老年・在宅看護学領域、精神看護学領域、地域看護学領域、災害看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

②コース

ア 研究・教育者コース

分野・領域での専門性を高め、研究者・教育者として看護学の発展に寄与できる能力の育成を目指すコースである。すべての領域にコースを設定している。研究・教育者コースは各領域の講義・演習科目により最新の専門知識を深め、「特別研究」で専門領域における研究能力を育成する。

イ 専門看護師コース

日本看護系大学協議会の認可を受けた高度実践看護師教育課程であり、専門看護師を目指すコースである。小児看護学領域と精神看護学領域にコースを設定している。各領域の講義・演習・実習科目により卓越した実践能力を育成し、「課題研究」で看護実践上の課題を解決するための研究能力を育成する。

ウ 認定看護管理者コース

卓越した見識と管理能力をもった認定看護管理者を目指すコースである。看護管理学領域にコースを設定している。講義・演習・実習科目により卓越した管理能力を育成し、「課題研究」で看護管理上の課題を解決するための研究能力を育成する。

5) カリキュラムマップ

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース		
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。
			◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目						
科目	科目名	開講期							
	必修共通	看護理論	1		◎	○	○	◎	○
看護倫理		2	◎	○	○		◎	○	○
赤十字と看護		2	◎						
共通科目	選択共通科目	教育方法・評価論	1			◎			
		統計学Ⅰ	1		◎				◎
		統計学Ⅱ	2		◎				○
		看護研究Ⅰ(概論)	1		◎				◎
		看護研究Ⅱ(量的研究法)	1		◎				○
		看護研究Ⅲ(質的研究法)	2		◎				○
		セルフマネジメント論	2		◎			◎	
		感染制御論	1					◎	
		病態生理学	1					◎	
		臨床薬理学	1					◎	
		ヘルスアセスメント	2					◎	
		コンサルテーション論	2						◎
		看護管理論	1			◎		◎	○
		看護政策論	2		○				◎
		現任教育論	2			◎			◎
基盤育成看護学	看護管理学	看護管理学特論	1		◎			◎	
		人的資源管理論	2			◎	○	◎	○
		保健医療福祉組織論	1			○			◎
		看護管理学演習	2				◎		◎
		組織経営・経済論	2					◎	
		医療安全論	1						◎
		看護管理学実習Ⅰ	3・4					◎	○
	看護管理学実習Ⅱ	3・4					◎	○	
	看護管理学実習Ⅲ	3・4					◎	○	
	看護教育・技術学	看護教育学特論	1		◎	◎	○		
看護技術学特論		2		◎		○			
看護教育方法論		2		◎	◎	○			
看護教育・技術学演習		2		○		◎			
ケア創生看護学	成人看護学	成人看護学特論	1		◎		○		
		周術期ケア開発特論	2		◎		○		
		慢性病ケア開発特論	2		◎		○		
		成人看護学演習	2		○		◎		
	母性看護学	母性看護学特論	1		◎		○		
		ウィメンズヘルスト論	2		◎		○		
		周産期ケア開発特論	1		◎		○		
	母性看護学演習	2		○		◎			

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース			
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。	
		科目名	開講期	◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目						
ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学特論	1		◎		○	◎		○
		小児看護学成長発達論	1		◎		○	◎		○
		小児看護学評価方法論	2		◎		○	◎		○
		小児看護学演習	2		○		◎			
		小児看護支援論	2					◎	○	
		小児看護ヘルス・アセスメント論	2					◎	○	
		小児の病態と治療	2					◎	○	
		小児 CNS 機能と役割演習	2					◎	○	○
		小児看護学実習Ⅰ	2					◎		○
		小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と役割実習)	3					◎	◎	○
		小児看護学実習Ⅲ (小児看護高度実践実習)	3					◎	◎	○
		小児看護学実習Ⅳ (小児看護高度実践統合実習)	3・4					◎	◎	○
地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	1		◎		○			
		認知症ケア特論	2		◎		○			
		老年・在宅療養者共生支援論	1		◎		○			
		老年・在宅看護学演習	2		○		◎			
	精神看護学	精神保健医療論	1		◎		○	◎		○
		精神健康行動評価論	1		◎		○	◎		○
		精神看護学地域共生論	2		◎		○			
		精神看護学演習	2		○		◎			
		精神科治療と看護	1					◎	○	
		精神健康行動ケア特論	2					◎	○	
		リエゾン精神看護論	2					◎	○	
		精神科治療と看護演習	2					○		◎
地域看護学	地域看護学特論	1		◎		○				
	コミュニティアセスメント論	2		◎		○				
	地域共生ケアシステム論	2		◎		○				
	地域看護学演習	2		○		◎				
災害看護学	災害看護学特論	1		◎		○				
	災害と法律・制度	1		◎		○				
	災害看護学対象論	1		◎		○				
	災害看護学援助論Ⅰ	1		◎						
	災害看護学援助論Ⅱ	2		◎	○					
	災害看護学演習	2		○		◎				
	災害看護学実習	2-4		◎	○					
研究	課題研究	1-4					◎	○	◎	
	特別研究	1-4		◎		◎				

6) 2020年度 実習施設一覧

No.	実習施設名	実習科目名
1	愛知医科大学病院	看護管理学実習Ⅰ
2	名古屋大学医学部附属病院	看護管理学実習Ⅱ
3	名古屋第一赤十字病院	小児 CNS 機能と役割実習
4	名古屋第二赤十字病院	小児看護学実習Ⅰ 小児看護高度実践実習
5	トヨタ記念病院	小児看護高度実践実習

7) 研究指導教員一覧

領域・分野	職 位	氏 名	研究指導資格	研究指導 担当学生数		研究計画・論文審査 担当学生数	
				主指導	副指導	主査	副査
看護学 基盤育成	学 長	鎌倉 やよい	主	0名	0名	0名	0名
		教授 松浦 正子	主	4名	0名	1名	4名
	看護管理学	准教授 南谷 志野	副	-	4名	-	-
		教授 山田 聡子	主	5名	0名	1名	3名
看護教育・技術学	准教授 中島 佳織里	副	-	5名	-	-	
	教授 東野 督子	主	1名	0名	0名	2名	
ケア創生看護学	成人看護学	教授 野口 眞弓	主	1名	0名	2名	1名
		准教授 長田 知恵子	副	-	1名	-	-
	小児看護学	特任教授 大西 文子	主	4名	0名	1名	3名
		准教授 岡田 摩理	主	0名	4名	0名	0名
地域共生看護学	老年・在宅看護学	教授 小林 尚司	主	1名	0名	1名	3名
		准教授 清水 みどり	副	-	1名	-	-
	精神看護学	教授 村瀬 智子	主	3名	0名	0名	4名
		准教授 原田 真澄	副	-	3名	-	-
	地域看護学	教授 長谷川 喜代美	主	0名	0名	3名	0名
		教授 森田 一三	主	0名	1名	1名	3名
災害看護学	特任教授 小林 洋子	主	0名	0名	2名	1名	

8) 研究指導関係スケジュール

日程	研究指導活動	
	M1	M2
4月3日(金)	論文オリエンテーション	
4月22日(水)	指導教員及び副指導教員の決定	
6月29日(月)		研究計画発表会資料提出期日
7月8日(水)		研究計画発表会
7月22日(水)		研究計画・論文審査委員の決定
7月8日(水)～ 8月31日(月)		研究計画審査申請
10月1日(木)	仮研究テーマ(仮研究課題)の提出期日	
11月19日(木)		修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日
12月18日(金)		修士論文・課題研究論文 提出期日
1月22日(金)		修士論文・課題研究論文発表会
1月22日(金)～ 2月12日(金)		修士論文・課題研究論文審査及び最終試験
2月24日(水)		学位授与判定
2月25日(木)		学位授与判定結果の公示
3月16日(火)		修了式

(1) 指導教員・副指導教員

令和2年度入学生の指導教員1名、副指導教員1名を決定した。

(2) 仮研究テーマ

1年次の学生5名から仮研究テーマ（仮研究課題）が提出された。

(3) 研究計画発表会

修士論文及び課題研究論文審査規程第5条に基づき7月の研究計画発表会（発表者5名）を実施し、教員27名、院生14名、職員2名の計43名が参加した。1月の研究計画発表会は申請者なしのため開催なし。

(4) 審査委員会

修士論文及び課題研究論文審査規程第2条に基づき、7月の研究計画発表会発表者5名にかかる主査1名及び副査2名を決定した。

(5) 研究計画審査

修士論文及び課題研究論文審査規程第6条に基づき、研究計画発表会を終えた5名全員から研究計画審査申請があった。審査委員会による審査を行い、3～5か月の審査期間を経て申請者全員に研究倫理審査委員会への申請許可を行った。

(6) 研究実施許可

修士論文及び課題研究論文審査規程第10条に基づき、研究倫理審査を受審し、年度内に承認を受けた3名に対し、審査委員会から研究実施許可を行った。2名については研究倫理審査を継続中。

(7) 学位審査

修士論文及び課題研究論文審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった4名（修士論文3題、課題研究論文1題）全員から修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づきこの4名に対し審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき4名の学位授与を決定した。

9) 学位論文審査基準

【修士論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 研究動機や意義が明確である。
- (3) 十分な範囲の関連文献が検討されている。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 十分なデータ数が得られている。
- (7) 倫理的配慮が適切である。
- (8) 目的に沿った結果が示されている。
- (9) 客観的にデータが示されている。
- (10) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (11) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (12) 関連文献と照合して考察している。
- (13) 結論が簡潔に述べられている。
- (14) 抄録が適切である。
- (15) 論文内容に学術的価値があり、看護学及び看護実践に貢献できる。
- (16) 論文の形式的条件が整備されている。

【課題研究論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 看護実践上の課題に基づき、課題の背景が明確である。
- (3) 看護実践上の意義が明確である。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 倫理的配慮が適切である。

- (7) 目的に沿った結果が示されている。
- (8) 客観的にデータが示されている。
- (9) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (10) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (11) 関連文献と照合して考察している。
- (12) 結論が簡潔に述べられている。
- (13) 抄録が適切である。
- (14) 論文内容に看護実践上の価値がある。
- (15) 論文の形式的条件が整備されている。

10) 2020 年度 修士論文テーマ一覧

領域・分野	タイトル
看護管理学領域 看護管理学分野	看護師長の管理能力と経験学習力との関連
臨床実践看護学領域 精神看護学分野	自殺企図のある心の病をもつ人に対する精神科熟練看護師の臨床判断と援助内容の特徴
臨床実践看護学領域 小児看護学分野	長期入院した子どもをもつ家族の家族機能のアセスメント方法
基盤育成看護学分野 看護教育・技術学領域	臨地実習指導者の役割遂行自己評価指標の開発

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 専門分野における基礎知識を有している人
- (3) 科学論文を理解するための基礎的な英語力を有している人
- (4) 論文作成の基盤となる文章の読解力と記述力を有している人
- (5) 基礎的な看護実践能力を有している人
- (6) 将来的に看護研究者・実践者として貢献する意志のある人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	10名	必須	外国語（英語）
推薦入学試験*			専門科目（小論文）
			面接

※ 学校法人日本赤十字学園が設置する大学卒業生、または、赤十字施設へ勤務しており、かつ看護部長等からの推薦のある方が対象となる。試験科目のうち外国語（英語）が免除される。

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

（単位：名）

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		1	1	1
2020年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		3	3	2
2019年度	第1回	10	5	5	4
	第2回		3	3	3

4) 科目等履修生

(1) 出願資格認定審査申請期間

前期科目：2019年12月9日（月）～2019年12月23日（月）

後期科目：2020年6月15日（月）～2020年6月26日（金）

(2) 出願期間

前期科目：2020年1月17日（金）～2020年1月31日（金）

後期科目：2020年6月29日（月）～2020年7月10日（金）

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数（過去3年）

（単位：名）

	2018年度	2019年度	2020年度
出願者数	3	8	4
入学者数	3	7	2

5) 履修証明プログラム

(1) 出願資格認定審査申請期間

前期科目：2019年12月9日（月）～2019年12月23日（月）

後期科目：2020年6月15日（月）～2020年6月26日（金）

(2) 出願期間

前期科目：2020年1月17日（金）～2020年1月31日（金）

後期科目：2020年6月29日（月）～2020年7月10日（金）

(3) 選考方法：書類審査

(4) 出願者数及び入学者数（過去3年）

(単位：名)

	2018年度	2019年度	2020年度
出願者数	0	0	0
入学者数	0	0	0
在学者数	3	0	0

6) 研究生

(1) 出願期間

2020年1月6日（月）～2020年1月31日（金）

(2) 選考方法：書類審査

(3) 出願者数及び入学者数（過去3年）

(単位：名)

	2018年度	2019年度	2020年度
出願者数	0	0	2
入学者数	0	0	2
在学者数	1	0	2

3. 学生支援

2020年度後期より、サテライトキャンパスを名古屋第二赤十字病院敷地内の日赤愛知災害管理センター棟内に移転した。新サテライトキャンパスは、駅直結のため旧サテライトキャンパスと比較して利便性が高い立地にある。また、Wi-Fiを設置し、より授業を受講しやすい学修環境を整えた。

1) 在籍学生数

(単位：名)

入学年度	在籍者数	退学者数	退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2020年度入学生	4	0	0.0%	0	0.0%	-
2019年度入学生	6	0	0.0%	0	0.0%	1
2018年度入学生	8	0	0.0%	3	37.5%	2
2017年度入学生	1	0	0.0%	1	100.0%	1
合計	19	0	0.0%	4	21.1%	4

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち令和2年度末までに修了した学生数	③ ①のうち令和2年度末までに退学した学生数	④ ①のうち令和3年度現在在籍している学生数(留年者数)	④' ④のうち在学中に休学した者を除いた留年者数	⑤ 標準修業年限内修了率	⑥ 標準修業年限を通じた退学率
2019年度入学生 (長期履修者除く)	2年	1	1	0	0	0	100.0%	0.0%
2018年度入学生 (長期履修者のみ)	2→3年	8	2	0	6	2	25.0%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

令和2年度 「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業(学長裁量事業)

研究テーマ	領域	研究者	交付金額
臨地実習指導者の役割遂行自己評価指標の開発	看護教育・技術学	195003 近 直子	130,000 円
精神科急性期治療病棟で患者の状態に変化を引き起こす精神科熟練看護師の日常的関わりにおける認識	精神看護学	185001 伊神 敬人	90,000 円
自殺企図のある心の病をもつ人に対する精神科熟練看護師の援助内容と臨床判断の特徴	精神看護学	185005 高島 孝晃	25,000 円

4) 就職・進路状況

2020年度修了生はすべて有職学生であった。2020年度修了生のうち進学者はいなかった。

5) 専門看護師(CNS)・認定看護管理者の資格取得状況一覧

資格	分野	課程(単位数)	2020年度取得者数	累計取得者数 (2020年度取得者数再掲)
専門看護師(CNS)	母性看護	26単位※	0名	4名
専門看護師(CNS)	小児看護	26単位※	0名	4名
専門看護師(CNS)	精神看護	26単位※	0名	2名
認定看護管理者			2名	4名

※26単位課程の修了による審査申請は2023年度まで

V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

赤十字の理念である「人道 (humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としている。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指す。

【教育目標】

- (1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- (2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- (3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- (4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 看護学において、高度な専門的業務に従事する上で必要な学識・技術・応用力に基づいて、自立的な研究活動を担える能力を有している。
- (2) 高度な専門性と倫理観を有した、実践者、指導者、管理者、教育者、研究者として、多角的なリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

3) 教育課程表

区分	授業科目	担当教員	配当年次	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	村瀬智子	1・2 前		1	○	
	赤十字人道援助論	井上忠男	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）	根本昌宏、村林宏、姫野稔子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）	伊藤善也、西片久美子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）	河口てる子、西片久美子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）	石崎智子、山田典子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）		1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）	河口てる子	1・2 後		1	○	
	臨床倫理論	柳井圭子、石崎智子	1・2 後		1	○	
小計（9科目）				9			
専門科目	看護人材開発特論	山田聡子、本田多美枝、柳井圭子、松浦正子	1・2 前		2	○	
	実践看護学特論	百田武司、鎌倉やよい、小松浩子	1・2 前		2	○	
	療養生活看護学特論 A・B	河口てる子、西片久美子、石崎智子 山田典子、高田由美、高橋清美、姫野稔子	1・2 前		2	○	
	生涯発達看護学特論	野口眞弓、志賀くに子、永松美雪、大西文子、 志賀加奈子	1・2 前		2	○	
	広域連携看護学特論		1・2 前		2	○	
	災害救護特論	中信利恵子、田村由美、渡邊智恵	1・2 前		2	○	
	健康科学特論	山本憲志、森田一三、長谷川喜代美	1・2 前		2	○	
	小計（7科目）				14		
演習	看護学演習	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 通		2		○
	小計（1科目）				2		
ゼミナール 合同研究	合同研究ゼミナール	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 後		1		○
	小計（1科目）				1		
特別研究	特別研究	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、 原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、 阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、 野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、 森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、 百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、 姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	2～2 通		8		○
	小計（1科目）				8		
	合計（19科目）				11	23	

修了要件：15 単位以上（共通科目から 2 単位以上、専門科目から 2 単位以上、必修科目 11 単位）を修得していること。

4) カリキュラムポリシー

共同看護学専攻の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的なコースワークによる教育課程を編成している。

- (1) 看護学を導く理論を探求するとともに、高度な実践知を基盤とした理論を構築するための方法及び研究方法を学修し、博士学位論文の作成に結びつけるために共通科目をおく。
- (2) 看護における知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究を行うために専門科目をおく。
- (3) 自らの研究テーマに関わる事例や先行研究を分析し、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探求するために演習をおく。
- (4) 博士学位論文作成に向け、専門領域の垣根を越え異なる専門性の観点から、実現可能な研究に向けての方向性を明確化するために合同研究ゼミナールをおく。
- (5) 保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究能力の修得を目指すために特別研究をおく。

5) 研究指導教員一覧

職位	氏名	研究指導資格	研究指導		研究計画・論文審査	
			主指導	副指導	主査	副査
学長	鎌倉 やよい	主	2名	4名	1名	4名
教授	山田 聡子	主	3名	10名	2名	8名
教授	野口 眞弓	主	2名	2名	0名	6名
特任教授	大西 文子	主	2名	1名	2名	4名
教授	東野 督子	主	0名	0名	0名	1名
教授	村瀬 智子	主	0名	0名	0名	0名
教授	森田 一三	副	-	-	-	-
教授	長谷川 喜代美	副	-	-	-	-

6) 研究指導関係スケジュール

日程	D1	D2、3
4月3日(金)	オリエンテーション(研究指導体制、看護学演習、研究倫理審査、特別研究報告書について)	オリエンテーション(研究計画書の提出、研究倫理審査、博士論文・審査願の提出について)
4月10日(金)		研究計画書提出期限①
4月16日(木)	主指導教員の決定(連絡協議会)	
5月21日(木)		修了判定(連絡協議会)
5月22日(金) ~23日(土)	合同ガイダンス	
6月12日(金)		研究計画書提出期限② 博士論文・審査願提出期限①
6月18日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)
7月10日(金)		研究計画審査②
9月11日(金)		研究計画書提出期限③
10月16日(金)	合同研究ゼミナール	
11月2日(月)		博士論文・審査願提出期限②
11月19日(木)	副指導教員の決定(連絡協議会)	
11月27日(金)		博士論文審査②
1月20日(水)		研究計画書提出期限④
1月21日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)
2月12日(金)		特別研究報告書提出期限
2月18日(木)		修了判定(連絡協議会)
2月20日(土)		研究計画審査④
3月4日(木)		博士論文発表会

(1) 指導教員・副指導教員

令和2年度入学生の副指導教員を決定した。

(2) 研究計画審査

3名の審査を実施した。

(3) 博士論文審査

1名の審査を実施した。

7) 学位論文審査基準

(1) 審査体制

審査は論文ごとに、共同看護学専攻を構成する5大学院博士学位審査委員会が提案し、連絡協議会が承認した5名の〇合教員から成る専門委員会が行う。その構成は、主・副研究指導教員各1名を含む計5名とし、主査は、主・副研究指導教員以外の教員が担う。

専門委員会による審査結果は、博士学位審査委員会において博士学位論文の合否を判定し、最終的に連絡協議会が合否を決定する。

(2) 博士学位論文審査基準

審査の観点は、博士論文としての学術的価値、実践的な有用性、論理的な観点、完成度から、論文の水準を客観性、厳密性をもって判定する。

①看護学研究として学術的な貢献や社会的な意義を有している。

②研究方法ならびに成果が、独創性、論理性、体系性、実証性、新規性などの観点においてすぐれている。

③課題設定と問題意識の対応、課題解明と研究方法の対応、先行研究の整理・評価と結論の整合性などの論理的
一貫性が保たれている。

④章や節の組み立て、脚注や引用方法、著作権の配慮など、学術論文としての体裁が保たれている。

⑤学術雑誌における査読付研究論文1編以上の掲載などの研究業績がある。

8) 博士学位論文テーマ一覧

該当者はなし。

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

日本赤十字豊田看護大学大学院 共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道 (humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求める。

- (1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- (2) 常に探求心をもち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- (3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- (4) さまざまな分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- (5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- (6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- (7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	2名	必須	外国語 (英語)
			専門科目 (小論文)
			面接
			書類審査

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

(単位：名)

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2021年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		4	4	3
2020年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		0	0	0
2019年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		4	4	3

3. 学生支援

2020年度後期より、サテライトキャンパスを名古屋第二赤十字病院敷地内の日赤愛知災害管理センター棟内に移転した。新サテライトキャンパスは、駅直結であり旧サテライトキャンパスと比較して利便性が高い立地にある。また、Wi-Fiを設置し、より授業を受講しやすい学修環境を整えた。

1) 在籍学生数

(単位：名)

入学年度	在籍者数	退学者数	退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2020年度入学生	0	0	0.0%	0	0.0%	-
2019年度入学生	3	0	0.0%	1	33.3%	-
2018年度入学生	1	0	0.0%	0	0.0%	0
2017年度入学生	3	0	0.0%	2	66.7%	0
2016年度入学生	2	0	0.0%	0	0.0%	0
合計	9	0	0.0%	3	33.3%	0

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち令和2年度末までに修了した学生数	③ ①のうち令和2年度末までに退学した学生数	④ ①のうち令和3年度現在在籍している学生数(留年者数)	④' ④のうち在学中に休学した者を除いた留年者数	⑤ 標準修業年限内修了率	⑥ 標準修業年限を通じた退学率
2018年度入学生 (長期履修者除く)	3年	2	0	1	1	0	0.0%	50.0%
2017年度入学生 (長期履修者のみ)	3→4年	3	0	0	3	1	0.0%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

令和2年度 「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業(学長裁量事業)博士

研究テーマ	領域	研究者	交付金額
保育所における0歳～2歳のFA児への誤配誤食予防のためのマニュアル作成	小児看護学	178001 遠藤 幸子	85,000円

4) 就職・進路状況

2020年度修了生はなし。

5) 博士論文等投稿状況一覧

該当者はなし。

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織

センター長：野口眞弓（2020年4月～7月任期満了により退任）
松浦正子（2020年8月から就任）
委員：長谷川喜美江、南谷志野、松田優子、長尾佳世子、中島伸一
事務局：企画・地域交流課

2. 地域連携委員会活動報告

目的	日本赤十字豊田看護大学地域連携委員会規程第2条に定める以下の事項について企画し、推進する。 1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること 2) 公開講座の企画及び実施に関すること 3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること 4) その他ヘルスプロモーションに関すること																																																																													
開催回数	7回																																																																													
活動実績	<p>1) 地域連携委員会活動報告 (1) 地域の保健・医療・福祉への向上に関すること ①大学の近隣地域 大学の近隣地域において、ヘルスプロモーション活動を以下のとおり予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響により中止が相次いだ。(表1)。</p> <p>表1 大学の近隣地域での講座一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮口一色健康測定会</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>逢妻ふれあいまつり</td> <td>不参加</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>豊南地区公開講座</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>豊田西高等学校SSH成果発表会</td> <td>不参加</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>宮口上フェスタ</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>青木台自治区健康セミナー</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)</td> <td>2020年10月6日(火) 2021年1月12日(火)</td> <td>7名</td> <td>Zoom開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>②特定地域 大学の近隣以外の特定地域において、全4回の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、つばめ教室のみ開催した(表2)。</p> <p>表2 特定地域での講座一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊根村生涯学習講座</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>豊根村住民向け講座</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>EAS(ブラジル人学校)で身体測定会</td> <td>次年度に延期</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」</td> <td>2020年12月22日(火)</td> <td>36名</td> <td>尾張旭市スカイワードあさひ</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 公開講座の企画及び実施に関すること 公開講座を4回開催する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、すべて中止となった(表3)。</p> <p>表3 公開講座一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>担当領域</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はたらく心臓(しんぞう) 夏休み自由研究編</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>基礎看護学</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>第4回こころの健康づくりシンポジウム</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>精神看護学</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>更年期をすこやかに過ごすためのアロマセラピー</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>母性看護学</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>「あじわう」は健康のもと</td> <td>中止</td> <td>-</td> <td>成人看護学</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	日時	来場者	開催場所	宮口一色健康測定会	中止	-	-	逢妻ふれあいまつり	不参加	-	-	豊南地区公開講座	中止	-	-	豊田西高等学校SSH成果発表会	不参加	-	-	宮口上フェスタ	中止	-	-	青木台自治区健康セミナー	中止	-	-	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2020年10月6日(火) 2021年1月12日(火)	7名	Zoom開催	テーマ	日時	来場者	開催場所	豊根村生涯学習講座	中止	-	-	豊根村住民向け講座	中止	-	-	EAS(ブラジル人学校)で身体測定会	次年度に延期	-	-	尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2020年12月22日(火)	36名	尾張旭市スカイワードあさひ	テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所	はたらく心臓(しんぞう) 夏休み自由研究編	中止	-	基礎看護学	-	第4回こころの健康づくりシンポジウム	中止	-	精神看護学	-	更年期をすこやかに過ごすためのアロマセラピー	中止	-	母性看護学	-	「あじわう」は健康のもと	中止	-	成人看護学	-
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																																											
宮口一色健康測定会	中止	-	-																																																																											
逢妻ふれあいまつり	不参加	-	-																																																																											
豊南地区公開講座	中止	-	-																																																																											
豊田西高等学校SSH成果発表会	不参加	-	-																																																																											
宮口上フェスタ	中止	-	-																																																																											
青木台自治区健康セミナー	中止	-	-																																																																											
豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2020年10月6日(火) 2021年1月12日(火)	7名	Zoom開催																																																																											
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																																											
豊根村生涯学習講座	中止	-	-																																																																											
豊根村住民向け講座	中止	-	-																																																																											
EAS(ブラジル人学校)で身体測定会	次年度に延期	-	-																																																																											
尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2020年12月22日(火)	36名	尾張旭市スカイワードあさひ																																																																											
テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所																																																																										
はたらく心臓(しんぞう) 夏休み自由研究編	中止	-	基礎看護学	-																																																																										
第4回こころの健康づくりシンポジウム	中止	-	精神看護学	-																																																																										
更年期をすこやかに過ごすためのアロマセラピー	中止	-	母性看護学	-																																																																										
「あじわう」は健康のもと	中止	-	成人看護学	-																																																																										

(3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること
 医療従事者及び専門職者を対象とした研修会を全4回開催する予定だったが、2回は中止となり、1回はオンデマンドでの動画配信となった。(表4)。

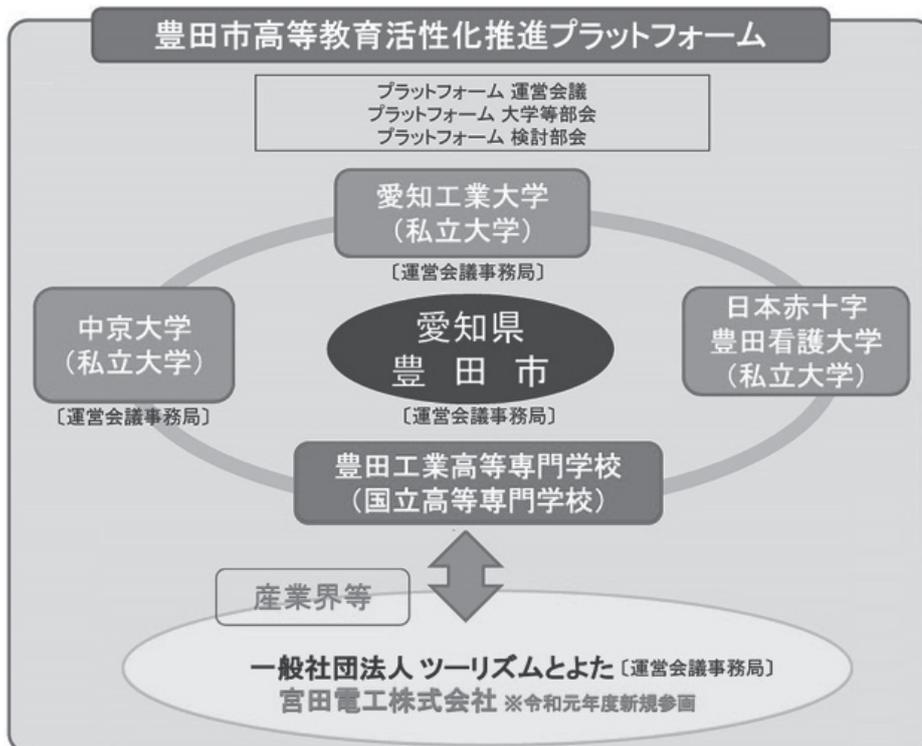
表4 専門職向け研修会一覧

テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所
学生がよく学ぶ在宅看護学実習指導を目指して	中止	-	在宅看護学	-
ストレングスモデルの実践的展開を目指そう!	中止	-	精神看護学	-
管理実践に役立つ看護管理者の意思決定	2021年3月13日(土) 13:00~16:00	34名	看護管理学	セミナールーム
幼稚園・保育所に滞在する子どもによくある症状と怪我への対応	配信期間 2021年3月1日(月)~ 26日(金)	74名 申込	小児看護学	オンデマンド動画配信

3. プラットフォーム

高等教育機関と豊田市・産業界の連携強化により、人と地域が共に育ち合い、自立した地域社会を実現するため、豊田市に所在する私立大学（愛知工業大学・中京大学・日本赤十字豊田看護大学）、国立高等専門学校（豊田工業高等専門学校）、地方自治体（豊田市）で「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」を形成した。2018年9月には、地元産業界より、「一般社団法人ツーリズムとよた」が新たに参画することになり、観光をはじめとする地域振興の活性化がより強化されることが期待できる。さらに2019年9月には、豊田PF形成大学等と共同研究を行う宮田電工株式会社が新規参画した。

本プラットフォームの特徴は、「ものづくり」をはじめとする地域の特性を踏まえ、大学、高等専門学校、地方自治体、産業界がそれぞれの得意分野を活かして連携・協力し、これらの取り組みを通して、有能な人材の育成と地域社会での活躍を促し、地域社会の発展に寄与する。現状分析、課題・目標、具体的な実行計画を中長期計画にまとめ、取り組んでいるところである。



1) プラットフォーム活動概要

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
地元就職の促進	各大学等の強みを活かした就職支援の他、インターンシップを通じた豊田市への就職等、地元就職を促進する	(取組1) 豊田市の医療施設への就職を促進するために就職説明会を開催 ○取組方針・具体的内容・目標等：就職説明会を開催することにより、本学学生を豊田市の医療施設へ少しでも多く就職を希望するよう推進する。 ○実施時期・期間等：毎年4月の入学式終了後実施予定 ○目標等：年間1回以上の開催 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上実施/年	例年入学式終了後に奨学金説明会を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入学式が中止となったため、学内ポータル掲示板等で奨学金制度の案内をし、希望学生には郵送で申請業務のやり取りを行った。
健康意識の醸成	地域住民の健康意識を高める	(取組1) 摂食嚥下障害予防のためのつばめ体操普及活動実施 ○取組方針・具体的内容等：つばめ体操及び摂食嚥下障害リスク評価尺度パンフレットの普及。 ○実施時期・期間等：本学教員にて毎年2月下旬に実施予定としている。 ○目標等：地域高齢者の摂食嚥下障害の予防。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上/年	(取組1の活動実績) 1回 2020年12月22日(火)に尾張旭市総合事業一般介護予防摂食嚥下予防教室「つばめ教室」を実施した。参加者は36名であった。
		(取組2) ブラジル人学校における身体測定の実施 ○取組方針・具体的内容等：ブラジル人学校に通う児童の身体測定(身長・体重等)を行う。 ○実施時期・期間等：本学教員にて毎年7月～9月、ブラジル人学校にて実施予定としている。 ○目標等：身体計測値を経年的に記録できる用紙(冊子)の作成。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組2の活動指標) 1回以上/年	(取組2の活動実績) 中止
		(取組3) 体育館、運動場等の施設利用の促進による、地域住民の健康意識の向上 ○取組方針・具体的内容・目標等：体育館・運動場等の施設利用を地域住民に促すことで、積極的に運動等を行っていただき、健康の促進及び健康に対する意識を高める。 ○実施時期・期間等：長期休暇以外施設の利用可。 ○目標等：年間100件以上の利用促進。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組3の活動指標) 100件以上利用促進/年	(取組3の活動実績) 127件 地域住民に施設利用の促進を行い、127件の運動施設の利用があった。
防災意識の醸成	学生・地域住民の防災意識を高め、災害発生時に備える	(取組4) 共同の防災教育プログラムを実施 ○具体的内容等：キャリアアップを目的とする「防災マイスター養成講座」(履修証明プログラム)を共同で実施する。 ○実施主体(主担当)：愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組4の活動指標) 2回以上/年	(取組4の活動実績) 1回 2020年1月14日(火)に愛工大本山キャンパスにおいて、「防災マイスター養成講座」の1コマとして、「災害医療講座」を実施し、災害医療の特徴、災害時の健康障害とその支援方法について講義を行った。 また、延期となっていた「社会人防災マイスター養成講座特別研究」を愛知工業大学本山キャンパスにてTeamsを使用し、2020年8月25日(火)に実施した。演習を中心に行った。

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
ボランティア活動の推進	授業形式によるボランティア教育と実際に現場で体を動かすボランティア活動を推進することにより、地域貢献意識を高める	(取組1)「ボランティア活動論」の授業を開講することによる、ボランティア活動に関する教育の実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：ボランティア活動についての基礎的知識等を知り、学生自らがボランティア活動を通して地域や福祉について、多角的な視野からとらえなおす機会を持ち、社会性を育む。 ○実施時期・期間等：看護学科1年生後期開講予定 ○目標等：ボランティア活動についての基礎的知識等の習得及び学生自らがボランティア活動に参加することにより、地域や福祉について多角的な視野からとらえなおす機会を持たせる。また、地域におけるボランティア活動を通して、社会性をより育むことを目標としている。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1単位/年	(取組1の活動実績)1単位履修を促すため、日本赤十字社のボランティア活動に関する公式ショートムービーの紹介を行ったことにより、2020年度後期は25名の履修登録者となり開講した。 また、本学ボランティアサークル「献血サークルFe++」が次のように献血活動を行った。 2020年8月23日(日) サマー献血
地域学習支援の推進(学校教育活動支援)	学生・教員・初等中等教育機関が一体となり、初等中等教育に対する教育活動支援を行う	(取組1)高校生対象の職業意識を醸成するための出前授業・模擬授業や進学情報交換会を実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：看護をよく知ってもらい、将来、看護師として就職を希望する者を増やしたいため、進学情報交換会や模擬授業等を実施する。 ○実施時期・期間等：毎年6月中に実施予定としている。 ○目標等：年間1回以上の実施 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上/年	(取組1の活動実績)1回/年 2020年7月2日(木)にZoomによるオンラインでの進学情報交換会を実施した。参加校は5校であった。この進学情報交換会の中でプラットフォームについても説明し、プラットフォーム形成大学等の「大学案内等」を配付し、共同での広報活動を実施した。 模擬授業 ①豊田東高等学校 日時：2020年11月9日(月) 内容：看護に関する内容 ②日進西高等学校 日時：2020年12月9日(水) 内容：災害看護学、国際救済看護論
		(取組8)「かけっこ教室」を開催(2019年度追加取組) ○具体的内容等：豊田市が企画・提案を行う地域の小学生児童に対する体育健康教育活動。日赤豊田看護大が熱中症対策や応急手当などの健康に関する教育講座を行い、愛工大及び中京大が走り方のほか、体を作るための食生活、睡眠等の健康教育も併せて実施。 ○実施体制(主担当)：豊田市、愛知工業大学、中京大学、日本赤十字豊田看護大学	(取組8の活動指標) 1回/年	(取組8の活動実績) 2020年度は新型コロナウイルスの影響により中止

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
生涯学習の推進	高等教育機関と地域が一体となり生涯学習を推進する	<p>(取組 1) 地域住民に対する公開講座の実施</p> <p>○取組方針・具体的内容等：地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的に地域住民を対象とした公開講座を実施。</p> <p>○実施時期・期間等：本学教員において、領域ごとに実施。1年を通し、約7回の実施を予定している。</p> <p>○目標等：年間7回以上の公開講座の開講。</p> <p>○実施体制（主担当）：豊田市、中京大学、日本赤十字豊田看護大学</p>	(取組 1 の活動指標) 7回以上/年	<p>(取組 1 の活動実績) 3回/年</p> <p>①幼稚園・保育所に滞在する子どもによくある症状と怪我への対応（専門職向け研修会） 日時：2021年3月1日（月）～26日（金） 開催方法：オンデマンド配信 参加者：74名</p> <p>②看護実践に役立つ看護管理者の意志決定（専門職向け研修会） 日時：2021年3月13日（土） 開催方法：対面（日本赤十字豊田看護大学） 参加者：34名</p>
		<p>(取組 2) 大学図書館の共同利用（地域住民への開放）</p> <p>○取組方針・具体的内容等：地域住民に開放し、知識を深めてもらう。</p> <p>○実施時期・期間等：長期休暇以外図書館の利用可。</p> <p>○目標等：年間100名以上の利用。</p> <p>○実施主体（主担当）：愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学</p>	(取組 2 の活動指標) 100名以上利用/年	(取組 2 の活動実績) 中止
愛知県立豊田高等学校との高大連携		<p>○取組方針・具体的内容等：愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。</p> <p>○実施時期・期間等：看護ベーシック（授業） 5月下旬～12月中旬 健康生活支援演習 2020年8月4日～6日</p> <p>○目標等：看護に関する基本的な概念と技術の原理・原則を教授し、看護への関心を高める</p> <p>○実施体制：日本赤十字豊田看護大学</p>	3年生授業 2コマ/年 2年生健康生活支援演習 1回/年	<p>[3年生] 授業 19項目の学習（2コマを23回実施） 日時：2020年5月27日（水）～12月16日（水） 場所：愛知県立豊田高等学校</p> <p>[2年生] 健康生活支援演習 日時：2020年8月4日（火）～6日（木） 場所：日本赤十字豊田看護大学</p>

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織

学術情報センター・図書館長：下間正隆

1) 図書館課

課長：山田誠

課員：村瀬悠香代（司書）、中尾明子（司書：常勤嘱託）、池上健二（一般：非常勤嘱託）、野崎慶子（司書：契約）

2. 情報管理・図書委員会活動報告

活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 2) 情報環境の整備に関する事項 3) 情報化の推進に関する事項 4) その他情報管理に関して必要な事項 5) 図書の選定に関する事項 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：下間正隆</p> <p>委員：森田一三、小林尚司、竹内貴子、初田真人、高見精一郎、山田誠、恒川美智子</p> <p>事務局：総務課 渡辺達郎、図書館課 中尾明子</p>
委員会開催回数	1回
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 サーバ管理及び基幹ネットワーク・Wi-Fi アクセスポイント（2020年9月更新・導入）の一元管理を委託しているSCSKと協力しながら学内ネットワークシステム管理運営を進めた。 2) 情報環境の整備に関する事項 (1) Wi-Fi アクセスポイントを設置し、学内にWi-Fi 関連を整備した。 (2) 情報処理室・LL 教室については散在的に不具合なPCが発生しているが、保守業者と調整しながら学習環境に不便が無いように対応を進めた。 (3) 小講義室等のPC保守を業者に委託するために予算化を検討し、令和3年度予算を獲得した。 3) 情報化の推進に関する事項 (1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、遠隔授業の導入を情報ネットワーク支援室中心に検討し、前期はTeams、後期はZoomを使用し、遠隔授業を実施した。 (2) 遠隔授業の導入に伴う諸問題（マニュアル作成、不具合等）に対し、順次対応した。 4) その他情報管理に関して必要な事項 2018年度から作成した『インターネット利用ハンドブック』に関して、見直しを行い、2021年度に関しても発行し、新入生・新入教職員に対して配布する。 5) 視聴覚資料の選定に関する事項 円滑な遠隔授業の実施をサポートするために、オンライン上の映像教材の情報を収集・発信した。具体的には、その情報を「オンライン配信可能・公開教材リスト」として集約し、Office365上で教員の先生方に向けて公開した。 6) 図書の選定に関する事項 サテライトキャンパスに設置する図書コーナーの充実を図るため、蔵書の見直しを行い、除籍および新規受け入れを行った。 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 2020年度に図書1,155冊（購入および寄贈）を新たに受け入れるとともに、図書475冊を除籍することで、最新の資料の充実に努めた。 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、以下の拡大防止のための対策を徹底した。 (1) 密を避けるため、座席数を128席→90席に減らした。 (2) 定時の換気・消毒を行った。
次年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2020年度に導入したWi-Fi環境に関して学生利用を促し、利用状況に関して評価する。 2) ファイルサーバの使用量に関して遠隔授業等の活用により圧迫されている状況があるため、2TBから拡張する。また、ファイルサーバの使用に関して、教職員に注意喚起する方法を検討する。 3) 遠隔授業の実施をサポートし、文部科学省の動向を踏まえながらより良い授業方法を引き続き検討する。 4) 小講義室等のPC保守に関して保守業者と相談しながら、遅滞なく進める。

3. 学術情報センター・図書館主催活動実績

1) CINAHL 検索講習会 (実施日: 2020年8月21日(金))

(単位: 名)

院生	6
教員	11
計	17

2) 科学研究費助成事業レビュー取次 1件

3) 助成金募集リスト 31件

4) 学術情報リポジトリ公開 16件

4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料

		和(数)	金額(円)	洋(数)	金額(円)	計(数)	金額計(円)
2019年度 累積	図書	45,612	156,715,871	2,906	27,090,720	48,518	183,806,591
	製本雑誌	4,397	8,409,422	564	1,097,334	4,961	9,506,756
	視聴覚資料	2,220	44,687,479	4	32,808	2,224	44,720,287
2020年度 (購入)	図書	1,052	3,611,357	70	598,205	1,122	4,209,562
	製本雑誌	120	277,200	7	16,170	127	293,370
	視聴覚資料	37	720,401	0	0	37	720,401
2020年度 (寄贈)	図書	23	42,689	5	2,500	28	45,189
	製本雑誌					0	0
	視聴覚資料	0	0	0	0	0	0
2020年度 除籍	図書	474	1,675,628	1	4,243	475	1,679,871
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	10	175,725	0	0	10	175,725
2020年度 累積	図書	46,213	158,694,289	2,980	27,687,182	49,193	186,381,471
	製本雑誌	4,517	8,686,622	571	1,113,504	5,088	9,800,126
	視聴覚資料	2,247	45,232,155	4	32,808	2,251	45,264,963
	合計						241,446,560

〈2020年度受入〉図書: 1,155冊 (含洋図書: 80冊、含電子ブック 33タイトル)

製本雑誌: 127冊 (含洋製本雑誌: 7冊)

視聴覚資料: 37タイトル (すべてDVD)

*他に新書・文庫・問題集: 97冊 (消耗品として購入 192,787円)

5. 年間購読雑誌

(単位: 種)

和雑誌	71	
洋雑誌	14	(電子ジャーナル8種含む)
計	85	

6. 電子ジャーナル

和雑誌 1471種/洋雑誌 1749種

1) 電子ジャーナル一覧

- ①メディカルオンライン
- ②最新看護索引 Web
- ③CINAHL with FullText/MEDLINE with Full Text
- ④Cochrane Library
- ⑤洋雑誌 (8種)

7. 利用者数

1) 入館者数

(単位：名)

入館者延べ数	18,319
平日平均	76
土曜平均	23

2) 利用者・資料別年間貸出統計

	図書 (冊)	雑誌 (冊)	視聴覚資料 (本)
1年生	108	1	4
2年生	347	28	5
3年生	1,643	135	1
4年生	1,544	134	4
大学院生	188	1	0
卒業生・修了生	0	0	0
聴講生・科目履修生等	2	0	0
教職員	1,244	34	387
合計	5,076	333	401

3) 施設・備品利用件数

	回数 (回)	人数 (名)
AVルーム/ 共同学習室	0	0
Surface 貸出	154	133

4) 電子ブック閲覧数

(単位：回)

閲覧回数	1,049
------	-------

8. 文献複写サービス

(単位：件)

	複写	現物貸借	計
他館へ申込	499	5	504
他館より受付	713	13	726

VIII 国際交流

1. MOU に基づく交流

本学は国際交流活動の一環として、タイ赤十字看護大学（Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing、以下 STIN）と看護に関する交流及び教育研究協力を行う MOU（了解覚書）を交わしており、2017 年より STIN の学生を本学に受け入れ交流を行っている。

2020 年度は本学から学生を派遣する計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となり、初めての試みとしてオンラインツールを使用した交流会を実施した。

本学からは 4 年生 3 名・1 年生 8 名、STIN からは約 20 名の学生が参加し、英語で交流を行った。

本学の学生は事前に準備したパワーポイントを使い、新型コロナウイルスの日本の感染状況や感染対策方法について話し、STIN の学生からは新型コロナウイルス感染拡大状況下でのタイの学生生活について話した。

STIN の学生からは「自粛期間の学習や、自宅での過ごし方はどうしているのか」、「大学の授業はどのように行っているか」などの質問が多くあり、大変有意義な交流となった。

異文化を理解し広い視野を持つ看護師を育成するため、今後もこのようなオンラインでの交流も含め頻繁に国際交流の機会を持ちたいと考えている。

2. 英国語学研修プログラム

本学では赤十字事業の一つである国際救援事業へ繋げる学びの機会として英国語学研修を設け、希望する学生に英国での語学研修を実施している。

英国南西部の歴史ある港町プリマスでホームステイをしながら、午前中は語学学校で英語のレッスンを受講し、午後は赤十字社や医療機関・福祉施設・大学（看護学部）・ボランティア団体などを訪問するスケジュールとなっており、現地で働く人々との交流を通じて、英国の医療や福祉の最前線の活躍及び日本とは異なる医療・福祉の環境や看護の方法を学びながら英語力を高めている。

帰国後には研修成果を英語でプレゼンテーションする報告会を設けており、実践的な英語力及びプレゼンテーション能力を身につけるとともに、自身の経験を振り返ることで今後の学修・行動目標を見つけ出す機会としている。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となったが、今後も継続して実施する。

IX 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る」ことを基本方針として、2020年3月30日に立ち上げられた新型コロナウイルス感染予防対策本部会議は、2020年度には18回開催された。2021年2月9日にワクチン接種支援班が新たに機能班に追加され、豊田市新型コロナワクチン集団接種への支援体制・内容を検討した。

審議・報告された主な内容は以下のとおり。なお、活動に関する詳細については日本赤十字豊田看護大学紀要第16巻に掲載している。

- 1) 学内の感染予防対策
- 2) 遠隔授業実施にかかる調整（遠隔教育デバイスの検証、開講スケジュール調整、対面授業からの切替時期の検討）
- 3) 臨地実習・学内実習・学内演習にかかる感染予防対策の検討、健康観察手順の確認
- 4) 講義室等の換気状況確認、サーキュレーター設置
- 5) 緊急事態宣言下の本学指針の対応方針の作成
- 6) 学生・教職員の感染状況把握
- 7) 学生・教職員のワクチン接種状況
- 8) 豊田市新型コロナワクチン集団接種への支援体制・内容の検討

1. 新型コロナウイルス感染予防対策本部

1) 組織

(1) 対策本部

	担当者	役割
本部長	学長 鎌倉やよい	・本部を統括する
副本部長	ICD 下間正隆	・本部長を補佐する
	学部長 村瀬智子	
	研究科長 山田聡子	
	事務局長 山田誠	
本部要員	災害対策委員会委員長 小林洋子	
	看護管理学教授 松浦正子	
	公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	
対策本部事務局	総務課	・連絡窓口、会議調整等

(2) 機能班

班名	担当者	役割
講義・演習班	災害対策委員会委員長 小林洋子	・講義・演習の感染予防対策の計画・実施・検証 ・本部方針に基づく授業の調整・実施・検証
	教務委員会委員長 小林尚司	
実習班	実習検討委員会委員長 原田真澄	・実習での感染予防具体策の提示・物品準備 ・実習施設可否の確認と否の場合は代替案の調整 ・実習施設の実習要件の取りまとめ
	成人看護学領域教授 東野督子	
	学部長 村瀬智子	
大学院教務・学生班	教務・学生委員会委員長 長谷川喜代美	・大学院授業調整、大学院生健康管理等 ・サポート
	研究科長 山田聡子	
学生班	学生委員会委員長 松浦正子	・学生自治会活動に関する自治会長との調整 ・サポート
	学部長 村瀬智子	
生活活動班	事務局長 山田誠	・設備に関する感染予防対策の実施管理
換気	(実務担当：経理課・関電ファシリティーズ)	・機械換気の計画・実施
食堂	(実務担当：総務課)	・食堂の感染予防対策管理
スクールバス	(実務担当：経理課)	・スクールバスの運行管理

班名	担当者	役割
情報収集班	総務課長	・ WHO・国・県・法人本部
設備・備品班	研究科長 山田聡子	・ 消耗品（マスク等感染防止用品含む）の管理、整備 ・ 設備・備品の管理
	事務局長 山田誠	
学生連絡・調査班	学務課長	・ 学生からの体調不良連絡の受付・記録・報告 ・ 学生への連絡事項の発信
学生対応班	学部長 村瀬智子	・ 発症者発生時の学生への個別対応
教職員対応班	総務課長	・ 教職員からの体調不良者連絡の受付・記録・報告 ・ テレワーク等の検討・整備
	事務局長	
広報班	企画地域交流課長	・ HP から本学の感染予防対策に関する情報発信 ・ 対策本部ページの整備・運用
ワクチン接種支援班	災害対策委員会委員長 小林洋子	・ 新型コロナウイルスワクチン接種方法の検討
	ICD 下間正隆	・ サポート
	成人看護学領域教授 東野督子	・ サポート
	学部長 村瀬智子	・ サポート
	事務局長 山田誠	・ サポート
	総務課長	・ 豊田市との連絡・調整

(3) 作業部会

部会名	責任者	役割
感染症フロー	ICD 下間正隆	・ 感染症対応手順作成・検証等
	公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	
消毒方法・手順	ICD 下間正隆	・ 消毒方法手順作成・物品準備・検証等
	公衆衛生看護学講師 清水美代子	
情報ネットワーク支援	情報ネットワーク支援室長 森田一三	・ 遠隔教育デバイスの検証等

2) 基本方針

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る。」

X 教員研究業績・社会活動一覧

I. 研究業績

1. 著書

- 1) **神道那実** (分担執筆)：根拠と事故防止からみた小児看護技術 第3版, 174-176, 181-184, 190-192, 199-204, 429-459, 460-467, 医学書院, 東京都, 2020.10
- 2) **松浦正子**編著／前川幸子, 河野秀一, ウィリアムソン彰子, **南谷志野**, 渡邊千登世, 福島通子, 木村知子：人材育成・チームマネジメント・労務管理の基礎がわかる！看護「人材管理」ベーシックテキスト, 1-167, メディカ出版社, 東京都, 2020.7
- 3) **野口眞弓** (分担執筆), 堀内成子, 片岡弥恵子編：助産診断・技術学Ⅰ (助産学講座 5) 家族計画, 281-307, 医学書院, 東京都, 2021.2.15
- 4) **野口眞弓** (分担執筆), 我部山キヨ子, 藤井和行編：助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 (助産学講座 7) 乳房管理, 333-354, 医学書院, 東京都, 2021.2.15
- 5) **大西文子** (分担執筆)：新しい感染症を視野に入れた看護・保健教育, 729-739, 杏林書院, 東京都, 2020.11
- 6) **下間正隆**：イラストみんなの新型コロナ感染対策 (ハンドブック), 日本赤十字社愛知県支部・日本赤十字豊田看護大学, 愛知県, 2020.11.12
- 7) 高内正子, 梶美保, **遠藤幸子**, 岡田真江, 小川真由子, 木村美佳, 佐藤洋子, 長倉里加, 新沼正子森知子, 渡邊悦子：保育の場で生きる 子どもの健康と安全, 83-97, 建帛社, 東京都, 2020.7

2. 学術論文

- 1) 浅岡みゆき, 内藤直子, **野口眞弓**：周産期における尿失禁の変化－骨盤底訓力およびQOLとの関係, 岐阜保健大学紀要, 1, 70-76, 2021.1.1
- 2) 深田順子, 松本亜希, **鎌倉やよい**：非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 施行中の嚥下と呼吸の協調, 日摂食嚥下リハ会誌, 24 (3), 217-230, 2020
- 3) **深谷由美**, 藤原奈佳子, 島内節：通所介護のス

タッフが支援する要支援高齢者に対する自立支援プログラムの基礎的検討, 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 5 (2), 31-43, 2020.7

- 4) **廣田直美**, 大谷喜美江, **清水美代子**, **長谷川喜代美**：東日本大震災における養護教諭の健康支援活動に関連する文献検討, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 16 (1), 3-11, 2021.3
- 5) 細野知子, **栩川綾子**：現象学的研究が記述した糖尿病患者における病い経験の特徴に関する一考察－哲学的基盤と研究デザイン・研究方法・結果の記述が調和し一貫性のある文献をもとに－, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 24 (2), 135-144, 2021.3
- 6) 金子さゆり, 川崎つま子, **松浦正子**, ウィリアムソン彰子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子：看護管理者のキーコンピテンシー尺度の開発, 日本看護科学会誌, 40 (1), 484-495, 2021.2
- 7) Kato, K., Ikeda, R., Suzuki, J., Hirano-Kawamoto, A., **Kamakura, Y.**, Fujiu-Kurachi, M., Hyodo, M., Izumi, S., Koyama, S., Sasaki, K., Nakajima, J., Karaho, T., Kimura, Y., Kumai, Y., Fujimoto, Y., Nito, T., Oku, Y., Kurosawa, H., Kuriyama, S. and Katori, Y. : Questionnaire survey on nurses and speech therapists regarding dysphagia rehabilitation in Japan. *Auris Nasus Larynx*, 2020, <https://doi.org/10.1016/j.anl.2020.08.004>.
- 8) **河村諒**, 板津良, 宮谷敦美, 東弘子, 坂本真理子：看護学部および日本語教員課程の学生の学び－防災訓練活動を立案・実施する協働プログラムから－, *International Nursing Care Research*, 19 (2), 87-97, 2020.5
- 9) **河村諒**, 國松秀美, 坪井秀介, 白井千津：東日本大震災により広域避難した高齢被災者と継続的に関わる看護職者の生活支援に関する困難, 日本災害看護学会誌, 22 (2), 38-50, 2020.12
- 10) **小林尚司**, 山下香枝子：特別養護老人ホームに勤務する看護師に対する看取りの概念的知識獲得のための研究の効果, 日本赤十字看護学会

- 誌, 21 (1), 54-63, 2021.3
- 11) **Makino Y**, Miyakawa M and Kai M : Validation of ultrasound-guided peripheral intravenous catheterization with a probe holder compared to the traditional technique: A single-case experimental study, 看護理工学会誌, 8, 86-100, 2021.2
 - 12) **巻野雄介**, 田中佳子 : 看護師の経験からみた末梢静脈穿刺が困難となる要因に関する質的研究, 日本健康学会誌, 87 (2), 57-65, 2021.3
 - 13) **松田優子**, **下間正隆** : 行政, 介護老人福祉施設, 大学の三者協働による地域の特性に応じた高齢者介護施設における感染対策の取り組み, インターナショナル Nursing Care Research, 19 (1), 129-136, 2020.4
 - 14) Miura, Y., Yabunaka, K., Karube, M., Tsutaoka, T., Yoshida, M., Matsumoto, M., Nakagami, G., **Kamakura, Y.**, Sugama, J. and Sanada H. : Establishing a Methodology for Ultrasound Evaluation of Pharyngeal Residue in the Pyriform Sinus and Epiglottic Vallecula. *Respiratory Care*, 65 (3), 304-313, 2020
 - 15) 宮前繁, 稲垣真梨奈, **藤井愛海**他 : 緊急レポート COVID-19 災害プロジェクト COVID-19 対応における若手アカデミープロジェクトの活動, 日本災害看護学会誌, 22 (2), 112-115, 2020.12
 - 16) **森田一三**, 森岡久尚, 阿部義和, 野村岳嗣, 濱昌代, **近藤香苗**, **小林尚司** : 口腔機能低下に伴う栄養障害に対する介護職や医療職の認識状況の特徴, 日本歯科医療管理学会雑誌, 55 (2), 102-109, 2020.8
 - 17) **森田一三**, 森岡久尚, 阿部義和, 野村岳嗣, 稲川祐成, 近藤由香, 亀山千里, **近藤香苗**, **小林尚司** : 高齢者における服薬薬剤成分数と口腔機能低下の関係, 日本公衆衛生雑誌, 68 (3), 167-179, 2021.3
 - 18) 村瀬雅俊, **村瀬智子** : パンデミックと創造性—「反知識」に挑む超学際自然学の提唱—, Journal of Quality Education, 10, 1-22, 2020.4
 - 19) 村瀬雅俊, **村瀬智子** : A Grand Unified Life Theory: An Extension of the Self-nonselself Circulation Theory, Journal of Integrated Creative Studies, 1-9, 2020.8
 - 20) **南谷志野**, 藤原奈佳子, 柳澤理子, 深田順子 : 短時間勤務看護師とフルタイム勤務看護師の協働の実態 : 職場環境と就業状況, 看護チーム実践状況に着目して, 日本医療・病院管理学会誌, 57 (2), 56-66, 2020.4
 - 21) **岡田摩理**, 泊祐子, 遠渡絹代, 市川百香里, 部谷知佐恵, 赤羽根章子, 叶谷由佳, 濱田裕子 : 小児専門訪問看護ステーションの管理者がとらえた診療報酬上の課題と経営上の工夫, 日本看護研究学会雑誌, 43 (2), 221-229, 2020.5
 - 22) **長田知恵子**, **野口眞弓**, 村瀬ゆかり : 助産師が集い, 意見交換する“写真からみる乳腺炎”研修会の活動報告, 助産師, 75 (2), 54-57, 2021.5.1
 - 23) 大谷喜美江, **森田一三**, 下村淳子, **廣田直美**, **清水美代子**, **長谷川喜代美**, 三浦卓, 渡邊智之, 佐藤祐造 : 高校生の頭部負傷に関連する要因の探索的検討, 東海学校保健研究, 44 (1), 57-67, 2020.9
 - 24) 島田和典, 代田浩之, 横山美帆, **福間長知**, 他 : 日本心臓リハビリテーション学会レジストリー : レジストリー構築と中間解析結果, 日本心臓リハビリテーション学会誌, 26 (3/4), 349-356, 2021.2
 - 25) 白井裕子, **橋本亜弓**, 佐々木裕子 : 野宿生活者が死に至るいきさつと要因についての文献検討, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 28 (1), 61-71, 2020.5
 - 26) 白井裕子, **橋本亜弓**, 大谷恵, 伊藤眞由美, 坂本真理子 : 大学教育経験の少ない若手教員を対象とした授業改善のためのFD活動の有用性と課題—チームで行う教員相互の授業参観を取り入れて—, 愛知医科大学看護学部紀要, 19, 29-38, 2020.12
 - 27) Suzuki Y, Morino M, **Morita I** and Yamamoto S : The effect of a 5-year hand hygiene initiative based on the WHO multimodal hand hygiene improvement strategy: an interrupted time-series study, Antimicrobial

- Resistance and Infection Control, 9 (1), 75, 2020.5
- 28) Takagi S, Sakuma S, **Morita I**, Sugimoto E, Yamaguchi Y, Higuchi N, Inamoto K, Ariji Y, Ariji E and Murakami H : Application of Deep Learning in the Identification of Cerebral Hemodynamics Data Obtained from Functional Near-Infrared Spectroscopy: A Preliminary Study of Pre- and Post-Tooth Clenching Assessment, Journal of Clinical Medicine, 9 (11), 3475, 2020.10
- 29) **羽川綾子** : 身体が織りなす看護の営み－急性期にある糖尿病足病変入院患者と看護師の関係の現象学的研究－, 日本看護科学学会誌, 40, 369-377, 2021.2
- 30) 泊祐子, **大西文字**, 竹村淳子, 西蘭貞子, 川島美保 : 小児看護学実習において「実践と理論の統合」を必要とする学習課題の構造, 日本看護科学学会誌, 40, 474-483, 2020.2
- 31) 若杉里実, 鈴木里, 二村純子, 森莉那, **橋本亜弓**, 荻野朋子, 高橋佳子, 保村せい子, 加藤良子, 西村まり子 : 慢性疼痛患者への電話相談における相談者の痛みの捉え方と反応, 日本運動器疼痛学会誌, 12 (2), 101-107, 2020.6
- 32) 渡邊聡子, **藤井愛海**, 小澤若菜, 小林賢吾, 佐々木康介, 酒井彰久, 神原咲子 : インドネシアで開発された『健康のための災害リスク管理』に関する指標の適用可能性の検討, 日本災害看護学会誌, 22 (2), 75-87, 2020.12
- 33) Yokoyama M, Daida H, Shimada K, Ushijima A, Kida K, Kono Y, Sakata A, Nagayama M, Furukawa Y, **Fukuma N**, Saku K, Miura S, Ohya Y, Goto Y, Makita S. : Effects of Phase II Comprehensive Cardiac Rehabilitation on Risk Factor Modification and Exercise Capacity in Patients With Acute Coronary Syndrome — Results From the JACR Registry —, Circulation Reports, 2 (12), 715-721, 2020.12
- 34) Yoshida, M., Miura, Y., Yabunaka, K., Sato, N., Matsumoto, M., Yamada, M., Otaki, J., Kagaya, H., **Kamakura, Y.**, Saitoh, E. and Sanada, H. : Efficacy of an education program for nurses that concerns the use of point of care ultrasound to monitor for aspiration and pharyngeal post-swallow residue: A prospective, descriptive study. *Nurse Education in Practice*, 44, 102749, 2020
- 35) Yoshida, M., Miura, Y., Okada, S., Yamada, M., Kagaya, H., Saitoh, E., **Kamakura, Y.**, Okawa, Y., Matsuyama, Y. and Sanada, H. : Effectiveness of Swallowing Care on Safe Oral Intake Using Ultrasound-Based Observation of Residues in the Epiglottis Valley: A Pragmatic, Quasi-Experimental Study. *Healthcare*, 8, 50, 2020, <https://doi.org/10.3390/healthcare8010050>

3. 学会発表

- 1) **遠藤幸子**, **大西文字** : 保育所における FA 児対応への他職種の認識—アナフィラキシー発症予防に着目して, 第 21 回日本赤十字看護学会学術集会, Web 開催, 2020.7.4-5
- 2) **藤井愛海**, 小林賢吾, 宮前繁他 : 平成 28 年熊本地震における災害関連死の実態と必要な看護支援についての検討, 第 22 回日本災害看護学会年次大会, Web 開催, 2020.9.28
- 3) **原田真澄**, 式守晴子 : 中高年の精神障がいをもつ人の家族の危機とそれに対する看護職等の支援, 日本家族看護学会 第 27 回学術集会, Web 開催, 2020.9.13
- 4) **橋本亜弓**, 白井裕子, 小塩泰代, 島田友子, 佐々木裕子 : 野宿生活の長期化に影響を与える野宿生活者の経験, 第 23 回日本地域看護学会学術集会, 誌上開催, 2020.8.29-30
- 5) 橋本岳英, 野村岳嗣, 杉浦石根, 良盛典夫, 柴田康博, 阿部義和, **森田一三** : 介護施設入所者の口腔内状況と歯科衛生士の介入の効果に対する検討, 第 31 回日本老年歯科医学会, Web 開催, 2020.11.7-8
- 6) 速水佳世, 夏目長門, 青柳公夫, 砂川元, 牧野日和, 池上由美子, **東野督子** 他 6 名 : 口腔ケアにおける一般人の認識に関する調査 — 第 1 報 2020 年調査報告 —, 第 17 回日本口腔ケア学

- 会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 7) **東野督子**, 小山順子, **石田咲**, **石黒千映子**, **棚川綾子**, **河村諒**, **田口栄子**: 乾燥した細菌に触れた手袋への移行状況についての実験的検討, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 8) **東野督子**, 西愛子, **河村諒**, 水谷聖子, 大野晶子, 大谷喜美江, 鈴木紀子, **今里(石原)佳代子**, 佐伯香織, **石田咲**, 小山順子: 抗菌効果を表示するマスクにおける臨床での活用の検討, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 9) 飯盛茂子, 粕谷恵美子, 堀口久子, 甲村朋子, **橋本亜弓**, 森幸弘: 認知症対応型共同生活介護における防災対策支援プログラムの効果と課題, 第22回日本災害看護学会, Web開催, 2020.9.28-10.11
- 10) **石田咲**, **東野督子**, 小山順子: 訪問看護師が要介護高齢者に実施する口腔内評価頻度に影響を及ぼす要因, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 11) **石田咲**, **東野督子**, 小山順子: 九州・沖縄地区の訪問看護師が在宅で療養する要介護高齢者に実施している口腔ケアの実態調査, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 12) **石田咲**, **東野督子**, 小山順子: 北海道・東北地区の訪問看護師が在宅で療養する要介護高齢者に実施している口腔ケアの実態調査, 第46回日本看護研究学会学術集会, Web開催, 2020.9.28-11.8
- 13) 加古まゆみ, **藤井愛海**, 原田菜穂子他: 地域でのパートナーシップを生かして防災活動を促進する看護職の役割, 第22回日本災害看護学会年次大会, Web開催, 2020.9.28
- 14) 金盛琢也, **近藤香苗**: 認知症高齢者の終末期の症状と遺族の終末期ケアの満足度に関するWEB調査, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.1-25
- 15) 加藤和子, **松田優子**, **小林尚司**: 訪問看護師が認知症高齢者と家族介護者に対して実践している意思決定支援, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.13
- 16) 小森久美子, 木村知子, **南谷志野**: 中規模病院の看護部長が就任後に直面する課題への「対処」, 第24回日本看護管理学会学術集会, Web開催, 2020.8.28-9.3 (オンデマンド)
- 17) **近藤絵美**: 一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したリフレクションシートの予備調査, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12
- 18) 小山順子, **東野督子**, **石田咲**: 全国における在宅の要介護高齢者に対する介護支援専門員と訪問看護師の口腔ケアの認識の比較, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 19) 小山順子, **東野督子**, **石田咲**, **河村諒**, 水谷聖子, 大野晶子, 大谷喜美江, 鈴木紀子, **今里(石原)佳代子**, 佐伯香織: 九州・沖縄地方の介護支援専門員の口腔ケアに関する実態調査, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 20) **松浦正子**, ウィリアムソン彰子, 金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシー獲得に向けた研修プログラムの評価, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.12
- 21) **松浦正子**: 患者の力を引き出す看護実践教育—現任教育を実践した経験から生まれた次世代を担う看護師の育成—, 第51回日本看護看護学会—看護教育, Web開催, 2020.10.13
- 22) 森本浩史, **東野督子**, **小林尚司**: ICUの熟練看護師の人工呼吸器装着患者に対する状態把握における呼吸音聴診の選択の特徴, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.13
- 23) **森田一三**, 橋本岳英, 野村岳嗣, 杉浦石根, 良盛典夫, 阿部義和: 高齢者における臼歯部の咬合支持と舌口唇運動機能および嚥下機能の関係, 第31回日本老年歯科医学会, Web開催, 2020.11.7-8
- 24) **Nagaharu Fukuma**, Yoshitaka Warita, Hayate Nashi, Daichi Oki, Wataru Shimizu: Sense of Anxiety and Family History of Hypertension Alters Profile of Home BP and HR in Young Healthy Adult, 第85回日本循環器学会学術集会, WEB開催, 2021.3.27

- 25) **中島佳緒里, 山田聡子, 竹内貴子**: 身体接触技術(軽擦法)の身体反応の特徴, 第21回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2020.7
- 26) **中島佳緒里, 山田聡子, 竹内貴子**: 身体接触技術(軽擦法)の身体反応の特徴ーリラクゼーション音楽との比較ー, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12
- 27) **西岡裕子, 深田順子, 松田優子, 渡邊直美, 鎌倉やよい**: 頸部可動域エクササイズが頸部周囲組織硬度, 頸部可動域及び嚥下機能に及ぼす効果, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12.1-25
- 28) **小倉久美子, 山田聡子, 中島佳緒里**: ICUにおける人工呼吸患者の精神的苦痛を緩和する看護実践, 第16回日本クリティカルケア看護学会学術集会, Web開催, 2020.7~12
- 29) **大谷喜美江, 東野督子, 水谷聖子, 大野晶子, 鈴木紀子, 今里(石原)佳代子, 佐伯香織**: 看護基礎教育機関における口腔ケア教育の効果に関する文献検討, 第17回日本口腔ケア学会学術集会, 長崎, 2020.9.2-3
- 30) **大谷喜美江, 廣田直美, 佐藤真由美, 長谷川喜代美, 荒木田美香子**: 管理監督者が認識する医療機関保健師への期待ー地域包括ケア推進に向けてー, 日本公衆衛生学会, Web開催, 2020.10.20
- 31) **長田知恵子, 野口眞弓, 村瀬ゆかり**: 助産師が集い, 意見交換する“写真からみる乳腺炎”研修会の活動報告, 第76回日本助産師学会, Web開催, 2020.5.30-6.10
- 32) **齋藤貴子, 棚川綾子, 坂井志織, 細野知子, 村上優子, 池口佳子**: 看護実践に根ざした研究疑問を実現させる現象学的研究の可能性, 第40回日本看護科学学会学術集会, Web開催, 2020.12
- 33) **佐藤明日美, 山田聡子, 中島佳緒里**: 手術看護師クリニカルラダーレベルII器械出し看護実践「実施」の評価視点, 第34回日本手術看護学会年次大会, Web開催, 2020.11
- 34) **清水美代子**: 就労介護者の仕事と介護の両立に影響を及ぼす要因: 文献検討, 第25回日本在宅ケア学会学術集会, 高知(Web開催), 2020.6.27
- 35) **清水美代子, 土本千景, 湯浅記久子, 岡田賀子**: 健康づくりに携わる保健医療従事者の自主勉強会の実践(第3報): 「行動変容をうながすコミュニケーション術」の評価, 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会, 東京(Web開催), 2020.12.25
- 36) **白井裕子, 野原萌, 佐々木裕子, 島田裕子, 井上清美, 室若葉, 橋本亜弓, 稲垣絹代**: 野宿生活者がパート生活に戻るきっかけー9名のインタビュー調査からの考察, 第23回日本地域看護学会学術集会, 誌上開催, 2020.8.29-30
- 37) **高見精一郎, 近藤香苗, 森田一三**: “赤十字”に対する社会イメージの研究, 第21回日本赤十字看護学会学術集会, Web開催, 2020.7.4
- 38) **泊祐子, 岡田摩理, 大西文子, 竹村淳子, 西蘭貞子, 倉橋理香**: 小児看護学実習において教員が捉えた学生の学習課題の構造, 日本看護学教育学会 第30回学術集会, Web開催, 2020.9.5-14
- 39) **泊祐子, 岡田摩理, 市川百香里, 濱田裕子, 遠渡絹代, 部谷知佐恵, 赤羽根章子**: 重症児と家族の生活をより豊かにするための小児在宅支援のあり方の検討(テーマセッション), 日本小児看護学会第30回学術集会, Web開催, 2020.9.19-30
- 40) **泊祐子, 市川百香里, 遠渡絹代, 部谷知佐恵, 濱田裕子, 岡田摩理, 赤羽根章子, 竹村淳子**: 障がい児と家族の暮らしを支える訪問看護の礎となる診療報酬の拡大(学会企画), 日本看護研究学会 第46回学術集会, Web開催, 2020.9.28-11.8
- 41) **鳥居千洋, 東野督子**: 人工膝関節全置換術を受けた高齢者の社会参加に影響を及ぼす要因, 第46回日本看護研究学会学術集会, Web開催, 2020.9.28-11.8
- 42) **坪之内千鶴, 木下由利子, 小田佳子, 古澤亜矢子, 野村直樹**: 「患者カルテ」によるダイアログ実践ー精神科看護の新たな方法論, 日本精神保健看護学会第30回学術集会・総会, Web開催, 2020.6.13-14
- 43) **土本千景, 清水美代子, 湯浅記久子, 岡田賀子**

- 子：健康づくりに携わる保健医療従事者の自主勉強会の実践（第1報）：ヘルシー Box in 愛知の15年間の活動を通して，第9回 日本公衆衛生看護学会学術集会，東京（Web開催），2020.12.25
- 44) ウイリアムソン彰子，井上真奈美，大原彰子，岡島恵子，金子さゆり，小島登美香，貞方三枝子，**南谷志野**，深澤優子，矢野祐美子：指定インフォメーション・エクステンジ5：創立25周年記念事業「看護管理用語集第3版」の作成に向けて，第24回日本看護管理学会学術集会，Web開催，2020.8.29
- 45) 湯浅記久子，土本千景，**清水美代子**，岡田賀子：健康づくりに携わる保健医療従事者の自主勉強会の実践（第2報）：「行動変容をうながすコミュニケーション術」のプログラム，第9回日本公衆衛生看護学会学術集会，東京（Web開催），2020.12.25
- #### 4. その他刊行物
- 1) **原田真澄**，**東野督子**，**村瀬智子**：新型コロナウイルスの感染拡大に対応した臨地看護学実習計画と感染予防の取り組み，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），35-38，2021.3
 - 2) **石黒千映子**，生田美智子：外来における糖尿病とがんを併せ持つ患者への支援にむけて，地域ケアリング，22（13），40-43，2020.12
 - 3) **鎌倉やよい**：日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染予防対策，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），13-26，2021.3
 - 4) **河村諒**：継続支援の先にみえる課題，一人ひとりの暮らしに寄り添って 愛知県被災者支援センター10年のまとめ，133-138，2021.3
 - 5) **小林尚司**，**山田聡子**：新型コロナウイルスの感染拡大に対応した遠隔授業体制の構築，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），47-50，2021.3
 - 6) **小林洋子**：新型コロナウイルス感染症の新学期開始時の予防対策，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），31-33，2021.3
 - 7) **松田優子**，**下間正隆**：認知症ケアにおける感染予防対策 新型コロナウイルスとその感染症 COVID-19 について，認知症ケア事例ジャーナル，13（3），200-207，2020.12
 - 8) **松田優子**：高齢者ケア施設の感染対策で求められる看護職の役割，コミュニティケア，23（2），55-58，2021.2
 - 9) **松浦正子**：中堅・ベテラン看護師の“のびしろ”をみつけよう，ナーシングビジネス，14（8），6-8，2020.8.1
 - 10) **森田一三**，**初田真人**，**高見精一郎**，**渡辺達郎**，**芝口太一**：新型コロナウイルスの感染拡大に対応した情報ネットワーク支援，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），39-45，2021.3
 - 11) 澤邊綾子，高須久美子，任和子，**松浦正子**，餅田敬司：病院と教育現場における課題 有事に求められる看護管理者像とは？，ナーシングビジネス，15（1），6-11，2021.1
 - 12) **清水美代子**，加藤和子，北林由紀子，黒谷万美子：高齢近親者の介護を担う有職者のワーク・ファミリー・コンフリクト，地域ケアリング，22（5），52-56，2020.5
 - 13) **下間正隆**：イラストでわかる新型コロナ時代の病院清掃，ビルクリーニング，8，44-49，2020.8
 - 14) **下間正隆**，**松田優子**：新型コロナウイルス感染症の基礎知識，コミュニティケア，22（9），10-13，2020.8
 - 15) **下間正隆**：イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策（DVD及び動画）①本編，日本赤十字社愛知県支部，2020.12
 - 16) **下間正隆**：イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策（DVD及び動画）②福祉編，日本赤十字社愛知県支部，2020.12
 - 17) **下間正隆**：コロナ禍での外部業者の入退出管理に手術室看護師のマンパワーを割いていませんか？，看護，73（3），80-83，2021.3
 - 18) **下間正隆**：新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み，日本赤十字豊田看護大学紀要，16（1），27-30，2021.3
- ## II. 社会活動
- ### 1. 学会理事等役員・委員会委員
- 1) 愛知県看護協会 学会委員会
委員：**南谷志野**

- 災害看護委員会
委員：藤井愛海
- 2) あいち小児保健協会
理事：大西文子
- 3) 国際教育学会
理事：村瀬智子
- 4) 産業・組織心理学会
理事：南谷志野
- 5) 東海学校保健学会
評議委員：森田一三
編集委員長：森田一三
- 6) 東海病院管理学会
世話人：高見精一郎
- 7) 日本家族看護学会
評議員：大西文子
- 8) 日本学校保健学会
代議員：森田一三
編集委員：森田一三
- 9) 日本がん看護学会
代議員：鎌倉やよい
- 10) 日本看護医療学会
評議員：大西文子
- 11) 日本看護科学学会
代議員：大西文子，野口眞弓，山田聡子
英文誌編集委員会委員：野口眞弓
JANS 若手の会エリア・コーディネーター：
棚川綾子
- 12) 日本看護学教育学会
評議員：大西文子，山田聡子
- 13) 日本看護管理学会
災害に関する看護管理推進委員：竹内貴子
学術活動推進委員：南谷志野
- 14) 日本看護系大学協議会
理事：鎌倉やよい
看護学教育質向上委員会
委員長：鎌倉やよい
委員：山田聡子
- 15) 日本看護研究学会
評議員：野口眞弓，山田聡子
東海地方会幹事：大西文子
- 16) 日本看護人間工学会
評議員：中島佳緒里
- 17) 日本看護倫理学会
評議員：山田聡子
- 18) 日本口腔ケア学会
常務理事：東野督子
看護部会長：東野督子
- 19) 日本公衆衛生学会
代議員：森田一三
- 20) 日本災害看護学会
代議員：小林洋子
若手アカデミープロジェクト
会計・庶務：藤井愛海
ネットワーク委員会調査調整部
調査メンバー：藤井愛海
- 21) 日本歯科医療管理学会
編集委員：森田一三
- 22) 日本循環器心身医学会
理事：福間長知
- 23) 日本小児がん看護学会
評議員：大西文子
- 24) 日本小児看護学会
評議員：大西文子
- 25) 日本小児保健協会
評議員：大西文子
- 26) 日本助産学会
代議員：野口眞弓
- 27) 日本私立看護系大学協会
理事：鎌倉やよい
- 28) 日本心臓リハビリテーション学会
理事・学術委員会委員長：福間長知
- 29) 日本赤十字看護学会
評議員：小林尚司，小林洋子，野口眞弓，東野督子，村瀬智子，山田聡子
広報委員：小林尚司，長尾佳世子
選挙管理委員：長尾佳世子
歴史研究委員：村瀬智子
- 30) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
副理事長：鎌倉やよい
- 31) 日本臨床環境医学会
評議員：村瀬智子
- 32) 日本老年看護学会
代議員：鎌倉やよい

- 33) 認定看護管理者会 研究プロジェクト
メンバー：南谷志野

2. 学術集会の企画・実行委員等

- 1) 第36回愛知県看護学会
学会委員：南谷志野
- 2) 第27回心臓リハビリテーション学会
シンポジウム企画および座長・YIA 審査委員：福間長知
- 3) 第41回日本看護科学学会学術集会
企画委員：鎌倉やよい, 山田聡子
- 4) 日本看護倫理学会第15回年次大会
企画委員：山田聡子
- 5) 第17回日本口腔ケア学会教育講演
看護部会主催企画：東野督子, 水谷聖子, 大野晶子, 大谷喜美江, 石原佳代子
- 6) 第22回日本赤十字看護学会学術集会
学術集会長：鎌倉やよい
大会事務局長・企画委員：山田聡子
大会事務局：高下翔, 竹内貴子, 南谷志野, 藤井愛海, 巻野雄介
企画委員長：村瀬智子
企画委員：小林洋子, 中島佳緒里, 松浦正子

3. 省庁・地方自治体の委員会委員

- 1) 厚生労働省・社会保障審議会統計分科会 生活機能分類専門委員会
委員：鎌倉やよい
- 2) 厚生労働省・厚生労働科学特別研究事業中間・事後評価委員会
委員：鎌倉やよい
- 3) 文部科学省・大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会
委員：鎌倉やよい
- 4) 豊田市感染症診査協議会
委員：下間正隆
- 5) 愛知県認定看護管理者教育課程教育運営委員会
運営委員：松浦正子
- 6) NPO 法人あいち福祉オンブズマン
電話相談委員：橋本亜弓

- 7) 鶉地区青少年育成市民会議
サポーターリーダー：臼井かおり
- 8) 愛知県立豊田高等学校
評議員：野口眞弓
- 9) 豊田市こどもにやさしいまちづくり推進会議
会長：野口眞弓
- 10) 豊田市児童福祉審議会
委員：野口眞弓
- 11) 豊田市幼保連携型認定こども園審議会
委員：野口眞弓
- 12) 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会
委員：村瀬智子
- 13) 豊田市地域保健審議会
委員：長谷川喜代美
- 14) 豊田市災害時要配慮者アドバイザー：藤井愛海
- 15) 高浜市母子保健ネットワーク会議
委員：野口眞弓
- 16) 刈谷市立刈谷特別支援学校
医療的ケア運営協議会委員：大西文子, 岡田摩理
- 17) みよし市介護保険運営審議会
委員：長谷川喜代美
- 18) みよし市地域包括支援センター運営協議会
委員：長谷川喜代美
- 19) みよし市地域密着型サービス運営審議会
委員：長谷川喜代美
- 20) みよし市保健対策推進協議会
委員：清水美代子
- 21) 日進市介護認定審査会
委員：清水美代子

4. 研修会・講演会の講師

- 1) 石原佳代子：緩和ケア院内研修（長野赤十字病院），看護師の視点から考える摂食嚥下と食事支援，2020.7.30
- 2) 河村諒：愛知県被災者支援センター講演会，災害と看護，2020.11.15
- 3) 小林尚司：西尾市民病院看護研究研修会，看護研究について，2020.5.16
- 4) 下間正隆：松坂屋豊田店感染対策研修会，デパートにおける新型コロナの感染対策，2020.5.26

- 5) **下間正隆, 松田優子**: 福寿園ひまわりの街・感染対策研修会, 介護施設で気をつけたい食中毒, 2020.6.24
- 6) **下間正隆**: 市立伊丹病院感染対策研修会, ①イラストで学ぶ塩こん部長の抗菌薬適正使用・講座 ②新型コロナ時代の感染対策, 2020.8.6
- 7) **下間正隆**: 京都市・新京極商店街振興組合感染対策研修, 新型コロナの時代の商店街の感染対策, 2020.8.7 及び 2020.9.4
- 8) **下間正隆**: あいぼう会防災セミナー (愛知工業大学), イラストで理解する新型コロナの感染対策 ~2020年8月末の時点で, コロナをどのようにとらえて, どのように行動すれば良いか~, 2020.8.24
- 9) **下間正隆**: 豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム FD・SDセミナー, 日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み, 2020.9.1
- 10) **下間正隆**: 名古屋市介護サービス事業者連絡研究会 感染対策研修会, イラストで理解する新型コロナの時代の介護施設の感染対策, 2020.10.1
- 11) **下間正隆**: 令和2年度愛知県赤十字有功会講演会, イラストで理解する新型コロナ対策 ~2020年10月の時点で, 愛知県に住む人にとって大切な備えとは・・・~, 2020.10.8
- 12) **下間正隆**: 田原市医療介護連携推進研修会, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策, Web開催, 2020.10.12
- 13) **下間正隆**: 山陰インフェクションコントロールセミナー, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@山陰バージョン, Web開催, 2020.10.16
- 14) **下間正隆**: どけんぼ758 ヘルスカレッジ 第1回 (全国土木建築国民健康保険組合 名古屋健康支援室), イラストで学ぶ「冬を迎えるにあたっての新型コロナ対策」, 2020.10.29
- 15) **下間正隆**: 鳥取赤十字病院感染対策研修会, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策, Web開催, 2020.10.30
- 16) **下間正隆**: 第34回日本手術看護学会 (金沢市), 新型コロナの時代の手術室での感染対策 (ランチョンセミナー) (オンデマンド), 2020.11.6-19
- 17) **下間正隆**: COCO オンラインセミナー, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策 オンラインセミナー (歯科医療従事者対象), 2020.11.28
- 18) **下間正隆**: 第42回日本手術医学会 (高松市), 新型コロナの時代の手術室での感染対策 (ランチョンセミナー), 2020.12.4
- 19) **下間正隆**: 第11回佛教大学ホームカミングデー2020, イラストで理解する新型コロナの時代の感染対策 (オンデマンド), 2020.11.3
- 20) **下間正隆**: 佛教大学 SDセミナー, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策 ~大学でクラスターを発生させないためには, 発生してしまった時には~, 2020.12.16
- 21) **下間正隆**: 京都外科医会12月例会, イラストで理解する新型コロナの時代の手術室での感染対策, 2020.12.19
- 22) **下間正隆**: 札幌徳洲会病院感染対策講習会, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策@札幌バージョン, Web開催, 2020.12.21
- 23) **下間正隆**: 愛知県青少年赤十字加盟校 校長・指導者研究会, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策, 2021.1.15
- 24) **下間正隆**: 京都新聞文化センター講座, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策, 2021.1.22 及び 2021.2.26
- 25) **下間正隆**: 愛知工業大学 令和2年度第2回UNIVAS学内研修会, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策~スポーツ編~, 2021.2.16
- 26) **下間正隆**: ビルメンヒューマンフェア, イラストで理解する新型コロナウイルスの感染対策 (オンデマンド), 2021.3.1
- 27) **千葉朝子**: 令和2年度名古屋市臨地実習指導者講習会, 実習指導の実際 (母性看護学), 2020.9.23
- 28) **長尾佳世子**: 第12期 防災マイスター養成講座, 災害医療~演習~, 2020.8.25
- 29) **長尾佳世子**: 日進西高等学校 模擬授業, 赤十字災害看護学・国際救援看護論, 2020.12.9

- 30) **長尾佳世子**：第13期 防災マイスター養成講座，災害医療，2021.1.13
- 31) **中島佳緒里**：名古屋掖済会病院・看護研究コース，看護研究①②③，2020.8.17・9.28・10.24
- 32) **中島佳緒里**：独立行政法人地域医療推進機構東海北陸地区新任副師長研修，ファシリテーションに関する基礎知識，2020.9.15
- 33) **南谷志野**：三重県看護協会 令和2年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル，人材管理Ⅱ：多職種チームのマネジメント「リーダーシップの実際」，中止
- 34) **南谷志野**：令和2年度日本赤十字豊田看護同窓会 里帰りイベント，卒業後のキャリアについて，2020.11.14
- 35) **初田真人**：豊田訪問看護師育成センター，精神疾患を持つ方の看護，2020.9.23
- 36) **東野督子**：新型コロナウイルスワクチン接種方法に関する説明研修会，新型コロナワクチンの薬液充填，接種方法について，2021.3.24
- 37) **東野督子**：豊田市高等教育活性化推進プラットフォームFD・SD研修会，手指消毒や手袋，エプロンのはずし方，廃棄の方法について，2020.9.1
- 38) **松浦正子**：日本看護管理学会例会 in 山口，～困難を乗り越えるリーダーシップの養成～看護管理者のコンピテンシー，2020.7.11
- 39) **松浦正子**：令和2年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅰ：看護チームのマネジメント，2020.8.30
- 40) **松浦正子**：令和2年度兵庫県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅱ：コンフリクトマネジメント，2020.9.19，9.20
- 41) **松浦正子**：令和2年度岡山県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅱ：人材を育てるマネジメント，2020.9.26，9.27
- 42) **松浦正子**：令和2年度沖縄県看護協会認定看護管理者教育課程サードレベル研修，組織管理論－組織デザインと組織運営－，2020.9.16.9.17
- 43) **松浦正子**：令和2年度大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2020.9.24
- 44) **松浦正子**：令和2年度静岡県看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理論Ⅱ：人材を育てるマネジメント，2020.9.30
- 45) **松浦正子**：令和2年度藍野大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2020.7.25
- 46) **松浦正子**：令和2年度名古屋大学キャリア開発センター認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修，人材管理Ⅱ：多職種チームのマネジメント，2021.2.1
- 47) **松浦正子**：香川県立病院看護教育推進委員会主催看護研修会，価値ある看護につなげる看護リフレクション，2020.11.28
- 48) **松田優子**：豊田訪問看護師育成センター，訪問看護概論・訪問看護技術論，2020.6.3-12.23
- 49) **松田優子**：令和2年度愛知県臨地実習指導者講習会（特定分野）第1回，第2回，実習指導の実際（演習），第1回2020.8.17，第2回2020.12.7
- 50) **松田優子**：令和2年度愛知県臨地実習指導者講習会，実習指導の実際「在宅看護」，2020.9.30
- 51) **村瀬智子**：岐阜県看護協会研修，「看護研究はじめの一步」，2020.11.18
- 52) **村瀬智子**：岐阜県看護協会研修，「看護研究進め方とまとめ方」，2020.11.19
- 53) **山田聡子**：一宮市立市民病院 キャリアラダー研修（レベルⅢ），研究③研修，2020.7.19
- 54) **山田聡子**：一宮市立市民病院 キャリアラダー研修（レベルⅠ），研究①研修，2021.2.21
- 55) **山田聡子**：名古屋市臨地実習指導者講習会，実習指導の原理，2020.9.2・3・15・16
- 56) **山田聡子**：岐阜県臨地実習指導者講習会，実習指導の原理，2021.1.23・26

5. 災害関連の活動

- 1) **遠藤幸子**：刈谷市防災推進委員会委員，2020.4-2021.3
- 2) **長尾佳世子**：日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修，運営スタッフ，名古屋第二赤十字病院，2020.11.25-27

2020 年度 日本赤十字豊田看護大学年報

2021 年 12 月 発行

編集・発行 学校法人日本赤十字学園
日本赤十字豊田看護大学 自己点検・評価委員会
〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲 12 番 33
TEL 0565-36-5111
<https://www.rctoyota.ac.jp/>

印 刷 株式会社コームラ

